2010 1



Architecture and Society
建築と社会

創業110周年記念特集

NIKKEN SEKKEI

日本建築協会

作品募集！
続大阪「かくれたええとこ」再発見コンクール



2010 第2回 OSAKA

続 大阪「かくれた ええとこ」 再発見コンクール

あなたが「もっと知ってほしい」
「もっとよくしたい」と思う
大阪市内のおもろい場所やけったいな風景を
昨年に引き続き募集します。
写真にとって応募してください。

2009年の第１回では、多数のご応募の中から厳正な審査の結果、最優秀賞１点、入選７点が決定されました。本年もさらに多くのまちの資源（普段は気づかないけれど「おもろい」魅力を潜在的にもっている場所や風景）を見つけるため、昨年と同じ要領で募集いたします。

■コンクール対象エリア
大阪市内

■提出
選んだ場所、建造物等をA4サイズ以下の写真にとり、題名をつけて、住所、氏名、電話番号、選んだ理由を応募用紙（ホームページ http://www.aaj.or.jpからダウンロードできます）に明記して提出

■応募資格
制限なし

■賞
最優秀賞（１点）賞金10万円、入選（７点程度）賞金各２万円

■審査員
橋爪紳也（大阪府立大学特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長
建築史家）

■応募締切
2010年２月26日（金）当日消印有効
郵送、宅配便、持参いずれも可
（持参は当日17：00まで）

■送付先（問合せ先）
㈳日本建築協会
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル７階

■審査発表
2010年３月下旬
審査結果については、日本建築協会のホームページ、及び会誌「建築と社会」等で公開いたします。

■その他
・応募作品は原則として返却しません。
・応募作品の著作権は主催者に帰属します。

■主催
社団法人　日本建築協会

■大阪「ええとこ」そうせい(創生)プロジェクトとは
社団法人日本建築協会は、２０１７年に創立１００周年を迎えます。その記念事業のひとつとして「大阪ええとこそうせいプロジェクト」を企画しました。このプロジェクトは、普段見過ごされそうなまちの資源を発掘し"こうしたらもっとよくなる""もっといきいきする"等のアイデアを２０１７年まで様々なテーマで募集することにより、まちづくりや町おこし、賑わい作りに役立てていくことを目的とします。
昨年より続く「大阪かくれたええとこ再発見コンクール」はその第1段階であり、今後再発見された「かくれたええとこ」が持つ潜在的な魅力をもっと活かすアイデア募集コンペ等に移行していきますので、継続的に参加していただけることを期待しています。

主催／社団法人日本建築協会
後援／大阪市・財団法人大阪市都市工学情報センター(『大阪人』発行元)
大阪商工会議所(『大阪検定』実施元)
協賛／(株)日建設計・(株)安井建築設計事務所・戸田建設(株)・(株)東畑建築事務所・王建工業(株)
東リ(株)・旭化成建材(株)・(株)大林組・(株)竹中工務店・(株)INAX・(株)きんでん・関西電力(株)

詳しくは㈳日本建築協会のホームページをご覧下さい。

2010年を迎えて

社団法人 日本建築協会 会長　中井　進

あけましておめでとうございます。

一昨年来の世界的な経済変動の波が大きく影響して、建築関連においても厳しい状況が続いています。また、建築を取り巻くいくつかの枠組みの変化もますます大きなものになってきつつあるのではないでしょうか。このパラダイムシフトの時代にあって、本年も先行きは見通せない状況ですが、会員の皆様も、それぞれの立場で新しい地平を切り開くべく模索を続けておられることと拝察いたします。このような時こそ、原点にたちかえり足元を見定めつつ、建築することの社会的な意義を再確認すべきだと思います。“建築を通じて社会に貢献する”ことの意味が問われ、また、その重要性がクローズアップされているのです。

日本建築協会は今年94年目を迎えます。大正６年創立以来の伝統の中で、“建築を通じて社会に貢献する”ことをめざして、建築にかかわるいろいろな分野の人たちが活動を続けてきたことは、重要で意義のあることだと思います。この伝統と歴史を新しい世代にどのように受け継ぎ、展開していくかが、いま私たちに求められています。

本年2010年の課題は、創立の原点に立ち返りつつ、私たちの蓄積を次の若い世代に引き継いでいくことにあると考えています。建築にかかわるあらゆる立場の個人・団体―行政、大学、教育、設計、施工、エネルギー、設備、材料など―がひとつの目標のために、いわばサロンを形成して、広い裾野のフラットな組織であることは大きな特質だといえます。この利点をいかしてメリットのある活動の場を提供することが、この団体の意義だといえます。ぜひ、若い会員の方に、この活動の場に入って協会をおおいに活用していただければありがたいと思います。そのための仕掛けも積極的に作っていきます。昨年スタートした、大阪「ええとこ」創生プロジェクト、関西の建築界／群像、再読／関西近代建築などにも多くの新しい会員が活動しています。もちろん、事業委員会、教育委員会、出版委員会、編集委員会、建材委員会などにも、機関誌「建築と社会」、建築技術選書、工高生デザインコンクール、見学会など多くの企画にたくさんの会員の参画をいただいています。

日本建築協会は会員の皆さんに大きく開かれています。いろいろな分野の人々との交流など、活動の中で、多くの意義あるものが得られるでしょう。会員の皆さんにはぜひこの環境に参加していただきたいし、それを保証するためにも皆さんの活発な議論をお願いしたいと思います。

また昨年は、在阪の建築士会・建築家協会・建築士事務所協会と共同の議論の場を設け、「設計報酬に関する御願書」を関係官庁などに共同提出するなど、関連団体共同の議論の緒に就くこともできました。引き続き、前向きにすすめていきたいと思います。

本年も会員の皆様にとってすばらしい年となりますように、共に努力していきたいと考えています。よりいっそうのご協力を賜りますよう重ねてお願いいたします。

本年の抱負

編集委員会

続“かくれたええとこ”再発見コンクールの実施

編集委員長
設楽貞樹

新年明けましておめでとうございます。
昨年、編集委員会のサブ委員会である10年委員会において「大阪かくれたええとこ再発見コンクール」を主催したところ、当会会員をはじめ、会員以外の方々からもたくさんの応募をいただき、大阪市内各所の“かくれたええとこ”をご紹介いただきました。今年も引き続きその続編を行っています。(本誌あるいは本会ホームページをご参照ください) 昨年にも増して多数の方々からの応募を期待しています。
こうして2年にわたりご紹介いただいた“かくれたええとこ”の中から対象地を選び出し、来年度には（詳細は未定ですが）活性化のためのアイデアを募るコンペに移行する予定でおります。建築を通じて社会に貢献するという当会の理念に沿うとともに、来る2017年の当会100周年にむけての継続的企画のひとつとして、今後も見守っていただきたく存じます。
建築界は昨今厳しい状況下にありますが、新しい年には心機一転、前向きな気持ちで進んでまいりたいものです。

出版委員会

自然と暮らす楽しみ

出版委員長
上原正行

今年は寅年。阪神タイガースの優勝を祈念し、元気の出る本を出したいと思う。
業界では、公共事業の見直しを受け、激安工事が増えそうだ。そして、温室効果ガス25％削減を目指し、エコ関連事業へと特化の兆し。
ところで昨年は、全国学力テストのことが話題になった。ある分析結果では、海や山でよく遊ぶ小６が好成績だったとのこと。また、塾通いの子どもたちは自然体験が不足気味。ところがスズメバチを主人公にした物語を読ませたところ、昆虫嫌いが一変、積極的に虫を触ったり、飼ったりし始めたという報告があった。
さらに30代夫婦（建築家と大工さんのカップル）が子供２人と電気、水道、TV無しの山暮らし。自前で、家や物置を建て、露天風呂を設け、米、野菜をつくり、鶏を飼う生活が紹介された。
ロビンソン・クルーソー漂流記を思い出しながら、「自然と暮らす楽しみ」にポイントを置き、生活技術の紹介などを試みたいものだ。

教育委員会

住まい・まちづくり教育

教育委員長
山形政昭

2010年を迎え、地球環境の時代、エコ生活……、という21世紀の課題がいよいよ現実のこととなりつつあります。そうしたなかで、新しい住宅建設にエコポイントを、というニュースがあります。古いものを高性能の新品へと転換する補助制度らしく、何やら電化製品や車といった製品と同列に建築が見られているようで、少々引っかかります。建築は、やはり本来的に永続的な文化の所産であるもので、継承と、創造の対象でありたいものです。
ところで、次世代を担う子どもを対象に、住まいやまちづくりへの関心を高めることを目的とした「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」の活動があり、本会も昨秋より参加しております。小学校への出前授業やイベントで、その企画活動など本委員会では積極的に協力したいと考えております。従来の継続事業と併せて、ご提案をお寄せ下さい。

事業委員会

政権交代を受けて世の中、変わるのでしょうか

事業委員長
瀬戸川　葆

民主党政権になってはや４カ月が過ぎました。世の中、変わる兆候が出てきましたか？　平成22年度予算を作るのに四苦八苦ですねー。
日本国の成長戦略が明らかになっていません。民間企業にしっかり稼いでもらい、税金を納めてもらう。金の卵である大企業をもっと大事にしないと、日本国は沈没します。税収が減り、国の借金がどんどん増えています。規制ばかりが増えて自由な企業の活動を妨げているのではないでしょうか。日本の株式市場にそれが如実に表れています。日本の成長戦略が明確にならないので、外国人は持ち株を売っています。日本が売られているのです。
企業が稼ぐことが出来てはじめて、多くの人を雇うことができるのです。日本国には資源がないことを政治家は本当に理解・認識しているのでしょうか。平成21年１月から月間の住宅着工戸数が６万戸ベースで推移しており、このままでは平成21年度の着工戸数の100万戸割れは確実となります。企業活動の妨げが建築投資を減らしています。建築投資が減ればすべてが縮小均衡になります。
新築工事が大幅に減り、事業委員会の取り上げる見学会の対象が減り、見学会テーマの選定が難しくなっています。このような状況にありますが、昨年と同様に４件の見学会テーマを発掘・企画できないか、検討したいと思っています。

建材委員会

進む高機能・多機能建材の開発

建材委員長
松原徹雄

長引く景気の落ち込みは持ち直しつつあるとの見方もありますが、デフレ状態により企業収益が悪化し、雇用や賃金への悪影響が広がる懸念があると指摘されています。建設業の受注総額や新築住宅の着工戸数等が昨年比で約３割減少するなど、建設業界を取り巻く環境は依然厳しいものです。
このような状況のなか、㈱ユニクロが開発した保温性や発熱性、吸汗性を高めた多機能素材の衣料は飛ぶように売れているとのことです。建材分野でも、今年は高機能・多機能建材の開発が進み、当誌面でご紹介できることを期待しています。

建築と社会

Architecture and Society

2010
No.1054
日本建築協会

1

■特集予告
2月号／建築とエコ技術
3月号／東海支部復活50周年

編集委員会（平成21年度）

■副会長
井上　豊
松村　孝治
■編集担当理事
上原　正行
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
◎設楽　貞樹
竹中　統一
立成　良三
松村　孝夫
吉村　英祐
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
△飯田　匡
飯沼　清明
鈴木　克彦
田中　慎治
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
三宅　次郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
荒木　宏之
奥村　朋孝
菅野　忠司
△神戸　嘉也
木多　彩子
楠　敦士
静　茂夫
下坂　浩和
所　千夏
野田　隆史
桃杷　健一
松森　織江
米山　剛史
★インテリア・住宅系
小倉　一平
加藤　力
△神谷　浩司
黒柳　亮
田中　浩介
戸井賢一郎
ペリー史子
間渕　一博
■構造分科会
秋田　智
石田　大三
△岸本　光平
小芝　淳一
志摩　好宣
瀧野　敦夫
角田　耕一
難波　尚
房安　智也
松村　健
向井　洋一

■設備分科会
△赤澤　正治
梶井　宏修
北野　勝也
谷野　太志
夏井　重行
難波　利幸
福谷　周
桝井　貴廣
宮崎ひろ志
村上幸三郎
渡邊　裕之
■施工材料分科会
△桜井　和男
中川　恒
平田　茂良
藤丸　啓一
山岡　篤人
吉田　正友
■法令分科会
近都　学
河野　学
田上　幸二
西林　浩一
濱崎　秀和
文山　達昭
△鷲尾　真弓
■作品作風小委員会
○居内　章夫
池上　明
稲垣　和江
井上　雅祐
岩佐　進
加嶋　章博
倉渕奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
鞆野　淳司
豊田　充広
鳥居　久人
西田　佳代
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
上田　訓将
宇城　英彦
江本　孝弘
○虎谷　伸幸
○前田　衛
南澤　浩司
森川　幸信
■10年委員会
赤木　隆
川上比奈子
熊田　将男
河野　浩司
齊藤　幸代
菅原　幸也
中村　文紀
○前川　治彦

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2009年12月25日
発　行　2010年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9　39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

Journal of the Architectural Association of Japan

創業110周年記念特集　NIKKEN SEKKEI

〔挨　拶〕　創業110周年特集にあたって●岡本慶一 ―― 9

〔第一部〕　組織とリアルな物語―日建設計100周年からの10年とこれから―
●花田佳明 ―― 10

座談会1　事務所運営の理念と展開
●林直樹・中井進・小堀徹・富樫亮・川島克也・江副敏史 ―― 16

座談会2　これまでの10年とこれからの姿
●若林亮・大谷弘明・児玉謙・村井達也・岡田耕治・下坂浩和・佐藤教明・塩田哲也+花田佳明 ―― 22

〔第二部〕　works ―― 28
京都迎賓館/大阪弁護士会館/モード学園 スパイラルタワーズ/東京ミッドタウン/中之島ダイビル/兵庫県立芸術文化センター/武庫川女子大学 建築学科・大学院建築学専攻 建築スタジオ/中部国際空港“セントレア”旅客ターミナルビル/トヨタ自動車 本館/グラントウキョウ ノースタワー/経団連会館/山陽新聞社 本社ビル/福山市まなびの館 ローズコム/鈴鹿市立旭が丘小学校/徳島赤十字病院/東本願寺 真宗本廟 御影堂 修復/オムロン京阪奈イノベーションセンタ/栄三丁目ビルディング“LACHIC”/東京スカイツリー/北京電視中心/ベトナム国立歴史博物館

〔第三部〕　chronology 2000―2009 ―― 50

年頭のことば　2010年を迎えて●中井　進 ―― 1

本年の抱負　常設委員会●設楽貞樹・上原正行・山形政昭・瀬戸川葆・松原徹雄 ―― 2

研究の風景　野口昌夫研究室●東京藝術大学大学院美術研究科建築理論専攻 ―― 4

gallery　西新の家●梶垣　宏 ―― 6

構造の頁　中之島ダイビル～プレキャストSRC柱の設計と施工～●石田大三 ―― 57

法令コーナー　大阪府屋外広告物条例及び同施行規則の一部改正
●森下嘉弘 ―― 58

再読 関西近代建築　香里団地●和田康由 ―― 59

月間の動き　平成21年11月分 ―― 63

関西の建築界群像　荒木邦彦●永野一朗 ―― 64

デザインコンクール　第55回工高生デザインコンクール
設計課題：学校に建つ食堂 ―― 66

information　第3回「災害対策セミナー」in神戸．公共工事における「建築士法第24条の7」の重要事項説明．建設リサイクル法説明会開催．「鋼構造塑性設計指針」改定講習会．1級・2級建築施工管理技術検定試験受験対策講座開催．第16回「建築・建材展2010」．「建築家・本野精吾展―モダンデザインの先駆者―」．企画展「内井昭蔵の思想と建築」．特別展覧会「THE ハプスブルク」．兵庫県立美術館の展覧会．新春 日本画の美．近代陶芸の巨匠―館蔵品展「富本憲吉展～創造の軌跡～」．“美術館にアートを贈る会”から．井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈大阪版〉．現代絵画の展望 12人の地平線． ―― 70

本文　デザイン　高橋善丸

今月の表紙
企画　間渕一博　企画・写真・デザイン　花城辰男
～橋が連なるまちなみ～
2010年の表紙テーマは「まちなみ」です。
第1回は、大阪淀屋橋から水辺に開けた景観を採り上げます。近年、親水空間が如何にあるべきかが見直されていますが、元々は、橋のデザインがパリのセーヌ川を参考にしたといわれています。　（間渕一博）

研究の風景

東京藝術大学
大学院美術研究科建築理論専攻

野口昌夫研究室



昨年12月のワインパーティーに集まったメンバーとOB(研究室には32本入るワインセラーがある)

Masao NOGUCHI

Professor, Theory and History of Architecture

1954　東京都生まれ
1977　東京工業大学建築学科卒業
1978　マドリッドの設計事務所でIAESTE研修。ロンドンのAAスクール大学院に留学。
1980　東京工業大学修士課程修了
1981　フィレンツェのL.ベンヴェヌーティ設計事務所勤務(～85)
1983　イタリア政府給費留学生としてフィレンツェ大学都市地域研究科在籍。 E.デッティ教授に師事(～85)
1986　東京工業大学博士課程満期退学
1989　東京藝術大学専任講師
1995　東京藝術大学助教授
　　東京工業大学より工学博士の学位取得
2008　東京藝術大学教授

ベルリンの壁の崩壊と冷戦構造の解体が始まった1989年、私は東工大大学院を去り、藝大の建築理論の専任講師に着任、直ちに研究室を構え、翌年から修士課程の院生の指導を始めた。日本においても平成元年という時代の変わり目の年であった。これまで20年余りイタリア都市・建築史専門の研究室を一貫して続けて来れたのは、ジェネラリストではなくスペシャリストの育成に重点を置く藝大の伝統に根ざしたものだからであろう。

私の院生は修士一年次にイタリア語の習得とテーマ設定のゼミを続け、二年次4月のイタリア政府給費試験に合格し、留学の準備、そして秋から1～2年イタリアの大学に留学し、帰国後半年間で修士論文を集中的に作成する。これまで、ヴェネツィア建築大学、ミラノ工科大学、ジェノヴァ大学、フィレンツェ大学、ローマ大学、ナポリ大学など、本人のテーマを専門的に指導して下さる教授に師事し、研鑽を積んで帰国してきた。その後博士課程に進学した者は再び留学する。指導教授との共著で、イタリアで自分の研究を出版したり、著名な建築家の設計事務所に勤務して帰国する院生もいた。

留学の最大の成果は、イタリアの建築文化を体験の中で学び取ってくることであり、「机についてばかりいてはいけない。」と出発時に命じている。異文化の中の建築は書物のみでは到底理解できないからである。私が一番嬉しいのは、出発時には頼りなく、不安を抱えた子供たちが、帰国時、しっかりした国際感覚をもった人間に成長した姿を見ることだ。それは、イタリアを体験することで、ようやく日本を見る眼鏡を手に入れた若者の姿でもある。昨年度の研究内容をポスター形式で以下に要約する。

赤松加寿江

教育研究助手／博士(美術)
一級建築士事務所studio acca 共宰

Kazue AKAMATSU

Assistant / Ph.D / studio acca Ltd.

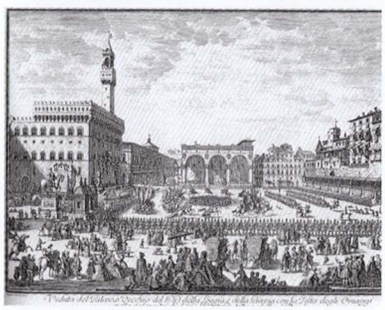
15,16世紀フィレンツェの建築・都市空間とスペッターコロに関する研究

Study on the “spettacolo” and the urban spaces in Florence during the 15th and 16th century

スペッターコロとは簡略的には祝祭芸術ということができる。15,16世紀フィレンツェにおいてスペッターコロという現象は、建築や都市空間の形態や性格を決定する要素の1つであり、当時、スペッターコロと空間とは相互に相互のあり方を決定付けていったということができる。政治的なプログラムとしても明確なこの現象が、都市空間や景観の統一をもたらしたその影響力について、明らかにすることを研究の目的としている。







The "spettacolo" is a kind of the festival arts. In Florence during the 15th and 16th century, the spettacolo was one of the insentive for determine the forms and characters of architecture and urban space. The purpose of the thesis is to clear the influences of the "spettacolo" as distinct tool of political program on the urban and architectural spaces.

中世には劇場建築は存在せず、演劇は仮説的な空間で催されてきた。この研究はイタリア各地で劇場建築が誕生し始めた16世紀後半に着目し、その最も初期の例としてヴェネツィアに建設された2つの劇場の様態を、ヴェネツィア国立古文書館に保管されている一次史料をもとに明らかにしようとするものである。よってこの2つの劇場は、定着したビルディング・タイプとして劇場が社会・文化の中に位置づけられる以前の萌芽的現象であるがゆえに、ヴェネツィアの社会・文化の特質を如実に映し出すものであったのではと考えている。

青木香代子

博士課程

Kayoko AOKI

Doctor course

16世紀後半ヴェネツィアにおける劇場建築の誕生について

Study on the construction of two theaters in the late 16th century venice

This is the study on two theaters for comedies built in 1581 in Venice, by researching the manuscripts kept in the Archivio di Stato di Venezia. These are commonly known as one of the oldest theaters in Europe. However, because of lack of buildings and visual materials, it is still difficult to clarify their forms and the functions. In this study, the nobles who owned these theaters, actors and the parish are pointed out, because I think that the functions and the forms of these theaters reflect the characteristics of the culture and the society of the late 16th century Venice.

芦原湖子

Koko ASHIHARA
Master 2nd grade

(修士論文題目)
ミラノのモンテ・ナポレオーネ通りの街路景観におけるパラッツォ建築の研究ー商業の流入とファサードの継承ー

The research on palazzo on Via Monte Napoleone at Milan

イタリア・ミラノの世界有数の商業通りであるモンテナポレオーネ通りでは、商業の流入という機能転化を受け入れながらも人々の生活の中で、19世紀の連続するパラッツォ建築からなる街路景観を継承してきたことが都市の価値を創出することにつながった。背後には既存の都市とその時代時代の社会状況をいかにおりあいをつけていくかという人々の知恵と意志があり、次なる世代へと都市を継承する力となっていたのである。

Via Monte Napoleone is one of the world's most eminent boutique street.There are typical palazzo in the 19th century. Originally they were houses. In 20th century They changed a use of it to commerce. And it succeeded to a street scene. It created the value of the city. There were wisdom and the will of people how kept the balance in the social situation with the existing city.

大西佑季

Yuki ONISHI
Master 1nd grade

「マッジョーレ湖上の庭園の空間構成・形成過程」

Space composition and forming process of the garden on the Lake Maggiore

北イタリア湖水地方には湖を背景とする優れた庭園が点在している。マジョーレ湖では17世紀にミラノの貴族ボロメオ家によって湖上にいくつかの庭園が形成された。「バビロンの空中庭園」と言われるイソラ・ベッラもその一つである。本研究は、アルプス山脈の風景・四方を湖に囲まれている環境・異国種の熱帯植物が多用されたことを考慮し、その要素が庭園としてどのように構成されていたのか、形成過程を明らかにしようとするものである。

There are dotted with excellent gardens background the lake in the north of Italy.On the Lake Maggiore ,Milanese aristocrat Borromeo made several gardens on the island.Isola Bella, called as "The Hanging Gardens of Babylon ",is one of them. In this work,I will reveal the process of forming the garden,considering the environment as scenery of the Alps, surrounding with the lake,and using a lot of exotic plants in the tropical zone.





會田涼子

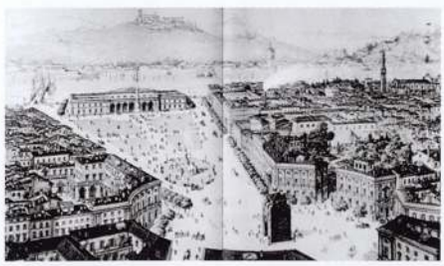
Ryoko KAITA
Master 2nd grade

(修士論文題目)
19世紀のフィレンツェにおける建築家ジュゼッペ・ポッジの都市計画

The urban modernization of the architect Giuseppe Poggi of Florence in 19th century

ジュゼッペ・ポッジ（1811-1901）は、イタリア統一後のフィレンツェにおいて近代化都市計画を委任された建築家である。近代のフィレンツェという知られざる時代を、ポッジの計画を中心に明らかにし、歴史都市から近代都市への変容過程を理解するのを研究の目的としている。ポッジは市壁を解体して都市を拡大する際に市門をモニュメンタル化し、周辺を広場として新しい地区と旧市街の境界点とした。そして丘の上から都市全体を見渡せる広場を建設した。特にこの2つの事例に彼の歴史への見解が見て取れると考えている。

Giuseppe Poggi is an architect who executed a city planning to modernize of Florence after the unification of Italy. The purpose of this study is to focus on this period that hasn't been widely studied and to interpret the process of changing a historical city into a modern city. Poggi broke down the city wall and arranged surroundings to monumentalize the city gates. And those gates became nodes between the old center of the city and the new resident area. He also designed a large piazza from which you can look down at the entire city of Florence. These two examples can be considered to reveal his vision of Florentine history.



矢崎徹太

Tetsuta YAZAKI
Master 2nd grade

(修士論文題目)
テルミニ駅の形成過程と近代ローマ都市計画ー1850年から1950年のローマに求められた象徴性と機能性ー

Formative process of the station Termini and modern urbanism of Rome

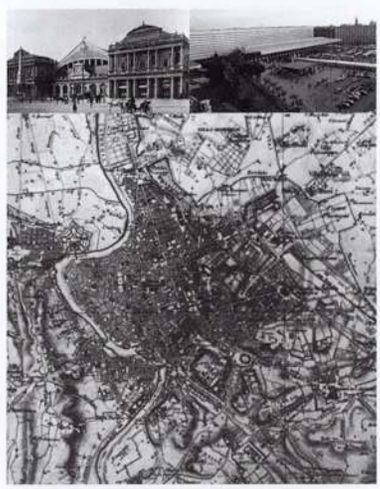
テルミニ駅の形成過程を軸に、ローマの近代都市骨格を読み解くことが本研究の目的である。テルミニ駅は、ローマの市壁内に位置する唯一の鉄道駅であり、時の為政者の意図する象徴性を色濃く反映した。

教皇領下1862年に旧駅舎が設計され、これはイタリア王国の都市計画の中で「取り込むべき存在」と扱われ周辺街区形成が行われる。この都市操作は成功し、旧駅舎は1948年まで改変を受けつつも存続した。

近代初期都市計画の後、ファシズム政権によって都市は郊外拠点施設の整備に向かう。郊外連結のため「機能上の必要性」を用いてファシズム政権は旧駅舎の改変を計画し、A.マッツォーニにより、威圧的で巨大な列柱を持つファサードが計画された。しかし共和国となった二次大戦後、現在もその形を残すファサード案は、ファシズムのボリュームを覆い隠すような機能配置であった。

本論文においてテルミニ駅は、近代のローマ都市骨格を読み解く鍵として、また近代においても「積層させる」という手段を用いて都市と対峙する「イタリア」を知る事例として、有用である、ということが明らかとなった。

The station of Rome Termini had grown up to be a symbol of the economy, the society and the culture of modern Italy from 1860. Its changes reflected social and political request of the era, influenced on city planning. My study treats mainly relation of the changes to city planning of Rome.



まち　建築　ひと

gallery

西新の家

設計

梶垣　宏





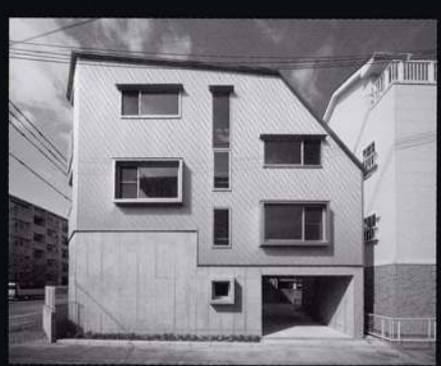




「家」づくりの想い

福岡市内の狭小敷地に建つ混構造（RC造＋木造）の3階建住宅である。スキップフロアを介して内から外へ縦横に視線が抜ける立体的な空間を、自由に閉じたり開いたり、家族がお互いの気配を感じ、会話をする姿を思い描いた。
時とともに表情を変えていく光と影が日々の生活に新鮮な息吹きを与え、凛とした佇まいを保ちながら、愛着を持って住み続ける「家」になることを願っている。

西新の家：福岡市早良区　2009年2月竣工



梶垣　宏（かじがき　ひろし）

1965　和歌山県生まれ
1989　福岡大学工学部建築学科卒
1989-1995　鹿島建設㈱
1995-2005　㈱徳岡昌克建築設計事務所
2005　梶垣建築事務所設立
http://kajigaki-ao.com

撮影：イクマサトシ（Techni Staff）
編集企画：居内章夫（作品作風小委員会）

創業110周年記念特集

NIKKEN SEKKEI



contents

9 挨拶「創業110周年特集にあたって」
代表取締役社長　岡本慶一

10 組織とリアルな物語―日建設計100周年からの10年とこれから―
花田佳明（神戸芸術工科大学教授）

16 座談会1「事務所運営の理念と展開」
林直樹・中井進・小堀徹・富樫亮・川島克也・江副敏史

22 座談会2「これまでの10年とこれからの姿」
若林亮・大谷弘明・児玉謙・村井達也・岡田耕治・下坂浩和・佐藤教明・塩田哲也＋花田佳明

28 works

京都迎賓館

大阪弁護士会館

モード学園　スパイラルタワーズ

東京ミッドタウン

中之島ダイビル

兵庫県立芸術文化センター

武庫川女子大学　建築学科・大学院建築学専攻　建築スタジオ

中部国際空港〝セントレア〟旅客ターミナルビル

トヨタ自動車　本館

グラントウキョウ　ノースタワー

経団連会館

山陽新聞社　本社ビル

福山市まなびの館　ローズコム

鈴鹿市立旭が丘小学校

徳島赤十字病院

東本願寺　真宗本廟　御影堂　修復

オムロン京阪奈イノベーションセンタ

栄三丁目ビルディング〝LACHIC〟

東京スカイツリー

北京電視中心

ベトナム国立歴史博物館

50 chronology 2000-2009

創業110周年特集にあたって

日建設計 代表取締役社長　岡本慶一

日建設計は、1900年（明治33年）の創業以来、設計事務所としての独立性を堅持しつつ、組織の整備・充実を図りながら、総合的で価値の高いサービスを提供してまいりました。本年2010年には創業110周年を迎えますが、これを期に「建築と社会」に創業110周年特集をまとめさせていただくことになりました。

先の2000年には100周年特集をまとめておりますので、この特集では100周年以降今日までの10年間に的を絞ってご紹介をさせていただくことにいたしました。

巻頭論文として、神戸芸術工科大学の花田佳明先生にご寄稿いただきました。花田先生は、教育・研究・設計と多方面にご活躍中ですが、1982年から10年間に渡り日建設計に在籍された経歴をお持ちです。その際のご経験を踏まえてこの10年間の日建設計についてのご考察をお願いいたしました。

また、日建設計の組織を運営する立場の役職員による「事務所運営の理念と展開」をテーマとした座談会と、設計の第一線に立つ担当者による「これまでの10年とこれからの姿」をテーマとした座談会の、二つを収録させていただきました。

第２部では、日建設計の、この10年間を代表する作品を抄録と合わせて約60作品ほどご紹介しています。日建設計の現在を内外の視点と実際の作品を通じてご理解いただければ幸いです。

世界経済は一昨年来急激な変化に見舞われていますが、グローバル化の流れの中で、日建設計は世界40カ国で実績を重ね、大きな評価をいただけるようになってきました。地球規模の課題である低炭素化社会実現に向けて、私どもは従来から積み重ねてきた提案や実践をもとに国内外で環境建築分野をリードする高い技術力を育んできました。

さらに日建設計グループとして、マネジメントやコンサルティング、総合研究所などの様々な分野を擁して、総合的にサスティナブルな社会環境を作ってゆく体制も構築してまいりました。私たちは、常に社会とクライアントの求めるところによく耳を傾け、深く考え、価値ある仕事によって社会に貢献し、それを通じて個人と集団がともに成長していく、というグループ理念のもと、引き続き総合力を生かした環境づくりに邁進していきたいと思います。

この特集をまとめるにあたりまして、これまで私どもに設計の機会を与えてくださいました建築主の皆様方に、また、ご寄稿いただきました花田佳明先生に、心から感謝申し上げる次第です。

組織とリアルな物語

—日建設計100周年からの10年とこれから—

花田　佳明
（神戸芸術工科大学教授）

はじめに

日建設計の創業は、1900年6月に住友本店に設置された臨時建築部とされており、そこから数えると2010年で110周年を迎えることになる。100周年に際しては、本誌2000年8月号で特集が組まれ、『北浜五丁目十三番地まで』に続く社史の後編『北浜五丁目十三番地から』（橋本喬行、創元社、1999年3月）が出版され、さらに『設計の技術—日建設計の100年』（2001年4月）という、主に技術面からの社史といえる大著がまとめられるなど、さまざまな動きがあった。

それから10年。110周年記念の本特集号において、この間の変化について考察せよという宿題を日建設計からいただいた。

しかし、この巨大組織を一朝一夕に語れるはずはない。にわか仕立てのインタビューや資料収集では、正確な描写など不可能だろう。それでも意を決して引受けたのは、まさにこの10年の間に、「日建設計が変わってきている」と感じる機会が少なからずあり、私はそのことが気になっていたからである。また私事で誠に恐縮だが、私自身も、1982年から92年までの10年間、日建設計に勤務した。そして現在、私と同期入社、あるいは近い世代の皆さんが働き盛りの主力メンバーになっており、自分の中の残像のようなものに輪郭を与えてみたいという気持ちも後押しをした。

日建設計らしくない建築

さて、「日建設計が変わってきている」と感じた機会はいろいろあるが、最も印象的なことは、建築雑誌に発表された作品を見て、それまでは「日建設計の作品だ」とほぼわかったのに、ここ10年ほどの間には、言い当てられない建物がいくつかあったという事実である。

それは、たとえば「瀬戸市立品野台小学校」（1999年）、「パシフィックセンチュリープレイス丸の内」（2001年）、「京都大学医学部百周年記念施設　芝蘭会館」（2004年）、「桐朋学園大学アネックス」（2005年）、「大阪弁護士会館」（2006年）といった建物だ。

それぞれ、初めて建築雑誌の写真や実物を見たときに、実に特徴的なデザインだと目を引かれ、有名個人建築家、大手ゼネコン設計部などの名前を頭の中で反芻したが、いずれとも判じ難く、しかし日建設計の名前も浮かばなかった。

私の眼が曇っているからだといえばそれまでだ。しかし、一応10年間そこに勤め、退社後もその新作を気にしてきたつもりの私としては、これらの作品の中に、過去との連続性よりも何らかの変化を読み取らざるを得なかった。

以下、そのような個人的記憶を出発点として、日建設計のこの10年間の変化について思うところを記してみたい。ただし、私にわかるのはそのごく一部、すなわち建築設計に関する部分だけであることはお断りしておく。

距離の測定

前節で述べた5つの建物の印象をもう少し詳しく書くと次のようになる。

・**瀬戸市立品野台小学校**：思い切ったオープン形式の平面構成が、その大胆さとは対照的な安定したディテールや技術で守られている様子が新鮮だった。そのことは、建築計画学的先鋭さの目立つ近年の学校建築の話題作に対する批評とも思われた。

・**パシフィックセンチュリープレイス丸の内**：東京駅前のシンボルを意識したデザインだろうが、コア部分に聳える黒々とした壁面とそれ以外のガラス面との強烈な対比が印象的で、これまでの超高層ビルにはない立面構成だと思われた。

・**京都大学医学部百周年記念施設　芝蘭会館**：細い肉厚鋼管と重量感のある水平連続窓、そしてコーナーの曲面という異色の組み合わせが、近代建築の語彙を使った知的なゲームにも見え、しかもその結果が、日本的ともいえる質の空間を獲得していることに驚いた。

・**桐朋学園大学アネックス**：音響や周辺環境との関係などの条件から生まれた四角錐台のブロックの集合は、都市の街路パターンを縮小して建築化したかのような構成にも見え、その機能性と抽象性の見事な両立に驚いた。

・**大阪弁護士会館**：高層ビルの一般的スケールとは全く異なる感覚のフレームだけで、あたかも無限に空間を生み出そうとするかのような建築的実験に、近代建築という概念への知的な挑戦すら感じた。

以上の印象に共通するものを私なりの言葉でいえば、これらの建物の背景には、現代建築という分野が抱える問題や枠組みや文脈とリンクした建築的思考が存在している、ということである。

もちろん、日建設計のすべての作品は「現代の」建築であり「現代に」関わっている。しかしそれらが同時に、現代の建築的思考の最前線につながっているかどうかは別の問題だ。

少し昔を振り返るなら、日建設計の作品は、その時代の多様な建築表現のマトリックスの中に、たしかに自らの場所をもっていた。

たとえば、薬袋公明が「百十四銀行本店」(1966年) において、銅板の外装や街区を囲む低層部という構成で試みた一種の古典回帰ともいえるデザインは、同じ町にある丹下健三の「香川県庁舎」(1958年) に代表される現代建築のメインストリームとは異なる、もうひとつのモダニズムの可能性を示す実験だったといえるだろう。また、林昌二が「掛川市庁舎」(1956年) や「パレスサイドビルディング」(1966年) で実践した独自のテクノロジカルなデザインは、建築の決定根拠を上記のメインストリームから解放して現実の社会へと拡張する試みであり、薬袋同様、近代建築のもうひとつの姿を探る挑戦だったということができる。

つまり薬袋や林は、欧米の近代建築の延長線上でデザインをおこなってきた個人建築家たちとは別の建築的語彙を探るという難問に挑んでいたのである。

しかし、それがいつの間にか、たとえば「銅板屋根とくり型」といったクリシェ（＝紋切り型）の反復や、経済性や社会性を免罪符としたデザイン根拠の曖昧化へと後退してはいなかったか。おそらく意図的に「流行の」建築的語彙から距離を置き、「独自の」建築的語彙を開発するという禁欲を自らに課した日建設計は、ときに「流行の」でも「独自の」でもない、つまり、現代建築の流れとの距離の測りようのない建物を生んだこともあったのではないか。

ところが先にあげた作品群に対しては、すでに記したように、現代の建築計画学や建築史学、あるいは建築論を基本にしたさまざまな解釈が可能である。つまりそれらの作品においては、クライアントから求められた要望に対しては当然のことだが、現代の建築思潮とリンクした建築的課題に対する解答としても、そのデザインが成り立っているといえるのだ。

言い換えれば、そこには、薬袋や林が実践したように、現代建築の流れと自らの作品との距離を測定し、現代建築史の中に自らの作品を定位しようとする姿勢がある。おそらくそのことに私は反応した。そしてこの10年間の作品群の中には、同様の傾向をもつ建物は少なからずあり、私は、そういった建物と意識の誕生こそが、日建設計のこの10年間について指摘すべき最初の変化であると思うのである。

新しい言葉

以上のようなデザイン上の変化に対応するかのように、日建設計の設計者がデザインを語る新たな言葉も生まれてきた。

これまでの日建設計から発せられる言葉といえば、2種類の、しかも両極端なものばかりが目立っていた。

ひとつは文字通りのクリシェだ。大きな設計組織に共通することかもしれないが、日建設計の作品とともに建築雑誌に発表される担当者の自注の多くは、与条件の整理と解説、そしてそれらへの対応の結果として生まれた空間の言葉による描写でしかなく、自らの設計手法を語るメタ言語のようなものが記されることはきわめて少なかったといえるだろう。最後の文句は、ほとんどが「願ってやまない」だったのではないかと思うほど、それは定型化していた。

もうひとつは、これとは全く対照的な批評性を帯びた言葉である。



瀬戸市立品野台小学校



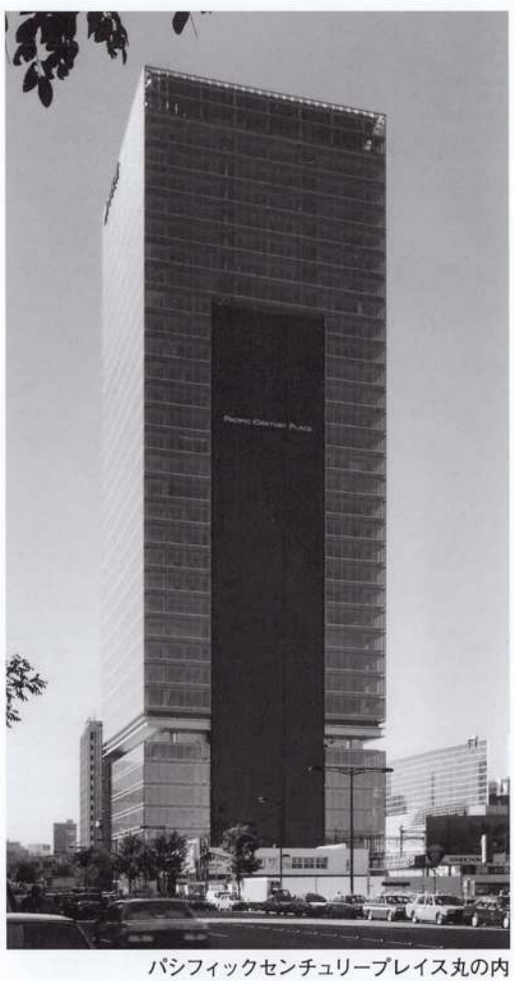
京都大学医学部百周年記念施設　芝蘭会館

たとえば、林昌二の「建築家先生たちへの弔詞」や「その社会が建築をつくる」など、後に『建築に失敗する方法』(彰国社、1980年)に収められた文章は、いずれも日本の建築界の閉鎖性に対する痛烈な批判だったということができる。また薬袋公明の「牧歌的建築家と組織建築家」(『新建築』1985年10月号)も同じような内容であり、個人建築家からの反発すら引き出す強烈さだった。

しかし今の時点で振り返るなら、林と薬袋の文章は、大組織による設計の論理を確立するための、やや無理をした、あるいは役割を強く意識したアジテーションであったといえなくもない。また、その基本は組織論であって、建築のデザインそのものを語る言葉ではなかったともいえるだろう。

それらに比べるとき、この10年、日建設計の設計者から発せられる言葉は大きく変化した。クリシェでもアジテーションでもなくなったのだ。

そのことを最初に感じたのは、『GA JAPAN』16号(1995年)の「日本建築の○と×」という記事だった。『GA JAPAN』がコンスタントに日建設計の作品を掲載するようになった最初の号である。



パシフィックセンチュリープレイス丸の内

その記事は、磯崎新、鈴木博之、二川幸夫の3人が、日建設計が設計した「JTビル」を見学し、座談会形式で批評するという企画であったが、全体のトーンは、「で、ぼくの印象は“So what?”」という磯崎の言葉に象徴されるような、批判的ニュアンスに満ちたものだった。

日建設計側はその座談会には参加せず、記事の最後の「返信」欄に平井堯と亀井忠夫が感想を寄せた。私はその亀井のコメントに目を引かれたのだ。

それは「幕の内弁当はお嫌いですか?」と題された1200字ほどの短い文章なのだが、亀井はそこで、評者3人による議論の大半が「案の定、組織事務所のあり方について」だったことを指摘し、その中味には不満もあることを述べた上で、高層ビルデザインの歴史についての簡潔な要約と、その中での「JTビル」の位置づけをきちんと主張し、最後に、「JTビル」では複雑なプログラムを解いて「味の良い幕の内弁当を、厳選された素材によりつくったつもりでしたが、お口に合いませんでしたでしょうか」と、さりげない、しかし挑戦的な言葉を返していたのである。

それは、評者3人の議論の方がむしろ「幕の内弁当」のようにクリシェ化した組織設計事務所論ではないかと批判しているようにも解釈できる言葉であり、臆することなくそのような反論を返した亀井の姿勢とともに、私は「日建設計から発せられる言葉が変わった」と感じたのである。

同じような言葉の変化は、すでに取り上げた5つの作品を巡る設計者の自注にも読み取ることができる。

たとえば、「京都大学医学部百周年記念施設　芝蘭会館」を担当した川島克也と大谷弘明は、その設計意図を、「格子窓をつけたり、障子や床の間をつくるのではなく、京都という立地性を表すには日本の美学をプロポーションで表現するしかないと考えていました」とか、「柱を可能な限り細くしたのも、和の気分が底流としてあったからです」と説明している(『NIKKEN SEKKEI Quarterly』(2005年Summer)。

やや情緒的な言い回しとはいえ、ここに記された建築的操作を説明する語り口の抽象性は、これまでの日建設計の担当者の言葉には珍しい種類のものであると思われる。そして何より、実際の空間が、それらの言葉が示す意図通りの質を獲得していることが驚異的で、これらの言葉と空間の間に成立している関係は、まさに近代建築の日本的解釈としてきわめて完成度の高いものといえるだろう。

また「桐朋学園大学アネックス」においては、担当者・山梨和彦の言葉はいっそう抽象度を増している。

彼は、さまざまな条件を調停した結果として街区の中に引いたグ

リッドを、「バイアスをかけたグリッド」と呼ぶ。そして、それがもつルールを手がかりとして、空間性から素材や色彩計画までを「ある種の合理性、客観性」のもとで決定する作業として設計プロセスを語るのだ（『NIKKEN SEKKEI Quarterly』（2006年Autumn）。これらの言葉がもつ論理性や構築性は、川島や大谷とは別のタイプの、しかし言葉と建築との関係についてのきわめて鋭敏な知性を反映したものといえるだろう。

他の例をあげる紙幅はないが、この10年間の秀作とともに発表された設計者の言葉は、一種のニヒリズムも漂う林や薬袋のアジテーションとは別の種類の、より建築内部の論理の可能性を引き出すことに賭けた対話のようなものではないかと感じられる。そしておそらく、こういった言葉のしなやかさに、私は変化を感じたのだ。

リアルな共同幻想

さて、日建設計のような大組織にとって、それをどのような「点」と「線」、つまり人とネットワークで構成するのかという組織論は、作品の質にも大きな影響を及ぼすひときわ重要な課題であるだろう。ただし、それは外の人間には見えにくい。組織改革、人事異動、世代交代などが大きな影響をもつからだ。

しかし私には、日建設計という組織自体の構成についても、この10年ほどの間に大きな変化があったように思えてならない。ただしそんなことを感じたきっかけは、本稿のような場に書いてよいのかと迷うほど些細な出来事である。

それは、ROUND ABOUT JOURNALという企画を展開する若手建築家・藤村龍至の「BUILDING M 日記」というブログの中の小さな記事を見つけたときのことだった。彼が設計した「BUILDING K」という建物を、「日建設計 山梨知彦さん率いる山梨チームの皆さん」が見学に訪れたのだ。そして、見学の様子を写した4枚の写真と、「事務所にて。山梨さんが担当された飯田橋ファーストビルとの類似性、ビッグネスvsスモールネス、ジェネリックvsスペシフィック、組織vsアトリエといったキーワードが飛び交い、議論が白熱しました。続きは日建設計で行いましょう、とのこと」という藤村のコメントが掲載されていた。

私は、その写真の中で楽しそうに議論する「山梨チームの皆さん」の様子を見て、「まるで大学の研究室みたいだなあ」と感じ、「うらやましいなあ」と思ったのだ。

大学の研究室の先生と院生や学部生で新しい建物を見学に行く。そして先生と設計者を中心にしつつ、皆でその建物を巡る議論をする。先生は自分の研究を理論的根拠とした批評を述べ、設計者もきちんとした反論をする。学生はその様子を見、自分たちの意見も述べる。さらに学生たちは、設計者と丁々発止のやり取りをする先生に対する敬意のようなものを感じるとともに、自分が属する研究室に対するプライドも再認識する……。

私はそんな夢のような光景を、ブログに掲載された写真とコメントから勝手に想像し、さらに、「山梨チーム」における人と人の関係や仕事の進め方そのものを、大学の研究室における活動のイメージに重ねてしまったのだ。

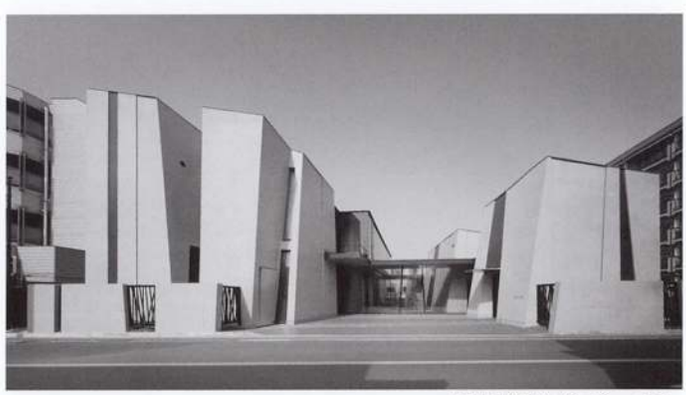
若手個人建築家によるポレミックな作品を、設計チームのボスとスタッフで見学に行き、そこで自由に議論するというようなことは、少なくとも私が日建設計に在職していた頃には思いもしなかった光景である。

したがって私には、それらの写真とコメントは、「日建設計が変わってきた」と推理するには十分な根拠であり、「うらやましいなあ」と感じるだけの魅力をもつものだった。何しろ、自分の上司に対する敬意と、所属する組織に対するプライドの確認につながる経験なのだ。組織に属する人間にとって、自分の存在意義を確認する手がかりとして、これ以上のものはないだろう

さらにそのような目で観察してみると、この10年の間には、日建設計の設計者が自らの組織を語る口調には大きな変化が生まれたことがわかってくる。

たとえば、100周年記念の本誌（2000年8月号）に掲載された座談会「100年を考える―過去から未来へ―」と、その約6年後に出版された『日建設計　ひと・環境・建築』（『新建築』2006年3月別冊））に掲載された座談会「「日建流」デザインの現場」を読み比べてみるならば、組織を語る言葉の変化に気づかざるを得ない。

もちろん、出席者や世代構成が異なる座談会だから安易な比較はできないだろう。しかし、明らかに前者においては、日建設計という組織を、その歴史的経緯、生命体との比較、社会・都市・環境といった言葉との関係など、組織の外部にある世界からの視点で語る



桐朋学園大学アネックス

発言が多いのに対し、後者においては、具体的な設計活動の中での思考や建築デザインの論理といった内部の視点から語る発言が目立つのだ。しかも後者の座談会の出席者は、本稿の冒頭で挙げた「日建設計らしくない建物」の設計者ばかりなのである。彼らは、たとえば以下のような言葉を残している。

・**亀井忠夫**：その「プラットフォーム」をベースにしていかにジャンプできる個人が存在できるかがわれわれの課題だと思います。

・**川島克也**：もはや「アトリエと組織」という構図で語る時代は終わろうとしているのではないでしょうか。

・**若林　亮**：「プラットフォーム」という話がありましたが、さまざまな個性を持った建築家や技術者の集合体である日建設計が、外の一流の人たちと一緒に設計をすることで、個性のメリハリが強く太いものになっていけばいいですね。

・**山梨和彦**：文化人を生み出せる土壌を日建設計の中に育てないといけないということです。

・**大谷弘明**：「パレスサイドビルディング」が日建設計の最高の建物だと今だに言われるのは恥ずかしいことで、僕たちはあれを乗り越えないといけない。

これらの言葉を、日建設計らしい優等生的な個と全体の論理だと切り捨てるのは簡単なことだ。しかし私はそこに、日建設計で働く個人と組織との関係の質の変化を読み取らざるを得ない。なぜなら



大阪弁護士会館

ば、クリシェ化したビジネス書的な組織論の反復ではなく、各個人が自分にとって必要な共同幻想のようなものを、自分自身の実感を通して日建設計との間に描こうとしている気配を感じるからだ。

ところで、これまで日建設計の組織論を最も多く外部に向けて発信したのは、おそらく林昌二だろう。彼が発した言葉のうちのかなりの数は、組織そのもののデザインを語るものだ。『建築に失敗する方法』は3つの章に分かれているが、第3章「建築家先生たちへの弔詞」は、全体が日建設計の組織論である。

林はその中で、大規模な設計組織の役割や目標についてさまざまなことを指摘しているが、最も強調されるのが、「組織ではなく集団」でありたいという願望である。「組織」と「集団」の差異に関する厳密な説明は林の文章にも見当たらないが、人々が全体の枠組みに縛られず、常に局面に応じた最適のメンバー構成を組み替えることのできる柔軟な状態のようなものを、「集団」という言葉で表していると考えられる。そこには、建築設計という行為を軸にした、林なりの共同幻想がある。

それは、ある意味では、彼の思い描いた戦後社会の理想像ともいえるだろうと私は思う。

林の約50年間の文章を集めた著書『建築家　林昌二毒本』（新建築社、2004年）の巻頭に書き下ろされた「設計、その悦楽の世界を求めて」という文章は、そのタイトルのイメージとは裏腹に、彼が経験した戦時下の苦い軍国主義と戦後間もなくの「革命」的雰囲気を詳しく記述した上で、両者に共通して潜む権力志向の心理を徹底的に批判したものである。

林はこの文章の最後に、「必要に応じて働き、必要に応じて使うという社会が訪れれば素敵ですが、人間の心に潜む卑しさや権力志向が、ことを厄介にしてしまいます。といって、放任の資本主義がどんなに惨めな社会をつくるかについては、今進行中の現実が明らかにしてくれそうです。／いつの日か、新たな社会革命が訪れるものでしょうか」と書いているが、そのシニカルな言葉の裏には、かつて彼が夢見た「集団」と、その集合としての社会に対する希望が込められてもいるように感じられる。

戦争体験の上に描かれたこのような理念的共同幻想が、その後、日建設計においてどのように具体化されたのか、あるいはされなかったのかという問題についての考察は、本稿の任をはるかに超える。

しかし私には、すでに引用した5人の設計者の言葉からは、彼らの中に、林が考えた「集団」のイメージと、少なくとも輪郭においては似た共同幻想が形成されていると思われる。

しかし、その中身には変化がある。つまり、林が戦争や戦後体験を手がかりにしていたのに対し、現在の設計者たちは、より「リア

ルな」感覚を根拠にしているのだ。

ここで私は、すでにふれた藤村龍至のブログの中の「山梨チームの皆さん」という言葉を思い出し、空想がさらに広がっていく。「日建設計の方々」ではなく、「山梨チームの皆さん」である。もちろん「山梨さん」も「山梨チームの皆さん」も、「山梨チーム」に属する前に日建設計に所属している。しかし私の中には、その逆、つまり「山梨チームの皆さん」なる人々が、たまたま日建設計にも属しているというイメージがわいてきてしまうのだ。

そして、そのような「○○チームの皆さん」の集合として日建設計という組織が存在する……。

途方もない空想である。ただ、「○○チームの皆さん」という言葉がもつ暖かな感触は、「組織対個人」「組織対集団」といった大仰な問題設定によるのではない、個人と組織との間の緩やかな共同幻想を保証しているように思えてならない。そこには、「○○チーム」という共同体へ参加することの喜びと、それによって生まれる安心感や自己実現感がある。「リアルな」と書いたのはそのような感覚を支える手触りのようなもののことだ。

「個人としてジャンプし」、「組織とアトリエという構図を乗り越え」、「個性のメリハリをつけ」、「文化人を生み出し」、そして「パレスサイドビルディングを乗り越える」という５人の設計者の目標は、きわめて具体的かつ実践的だ。私は、日建設計がそのような個々のリアルな感覚に満ちた共同体に変身しつつあるのではないかと感じたのだ。

リアルな物語の共有

日建設計のこの10年間の変化について、誠に勝手な感想を書き記してきたが、結局のところ私の最大の関心は、人間はなぜ働くのかという問題が、この大きな組織においてどのようなかたちで意識され、それへの答えが、どのような姿で描かれようとしているのかという問いに集約されるような気がしてならない。

建築の設計という仕事は、さまざまな職場で、しかもさまざまな方法によって実現できる。そのとき、ではなぜこの組織で働くのか、そしてそこで過ごす時間にはどのような意味があるのかという問題は、いうまでもなくきわめて個人的なものであり、むしろ組織とは無関係の、あるいは組織が立ち入るべきではない問題としてとらえられるかもしれない。

しかし逆に、そのような問いがその組織の中で共有されることによってこそ、個人と組織はつながり、その間に共同幻想が生まれるのではないだろうか。

そのとき必要となるのが「物語」だ。

短い生の時間の中で、私たちはきわめて限定的なことしかできないけれど、その限られた行為や成果が、組織外の何らかの流れの中に位置しているということを思い描き、自己の役割を確認する「物語」である。それは、ビジネスや生活の糧としての設計行為が生む現実の世界とは別の、固有の時間と要素から成る可能世界といってよい。

私の目に、日建設計のこの10年間の最大の変化であり収穫であると映ったのは、このような「物語」を自分の中にもつ設計者が多く登場し、しかもそれぞれの「物語」がきわめて「リアル」だということだった。本稿で延々と書いてきたのは、まさにその一点に集約される。

現実的な背景としては、前社長・中村光男による「全社一元化」という改革があるのかもしれない。それによって、東京、名古屋、大阪という３つの事務所の壁がなくなり、デザインに関する議論をより大きな枠組の中でおこなうことが可能になった。各設計者は、自らの「物語」にとって、より広い舞台を手にしたのだ。

また、大組織ならではの世代交代の影響もあるだろう。当然のことながら、大組織は退職者と新入社員によって毎年世代交代を繰り返す。しかし、20年から30年を単位とする大きな世代交代がこの10年の間に完了し、日建設計という組織の螺旋状の上昇運動が、ひとつ上の階層へと大きな移行を完了したのだ。そのことも、より多様でリアルな「物語」を編む自由を、設計者に与えたのではないだろうか。

いずれにせよ、そのような新しい状況を出発点として、これから日建設計がどのような方向へ進むのか、私は期待を込めた観察を続けたいと思っている。

（はなだ　よしあき）

事務所運営の理念と展開

出席者
林　直樹
中井　進
小堀　徹
富樫　亮
川島　克也
江副　敏史

地域の特色と流動化

富樫（司会）　日建設計は2010年で創業110周年を迎えますが、この10年を以前と比べると、地区を越えてとても流動的になり、それに伴い、各地区の設計スタイルもずいぶん変わってきたように思います。

本日は、こうした変化についてリーダーの方々に語っていただきたいと思います。

川島　数年前までは地域ごとにそれぞれ別の事務所という感じがありましたが、最近では非常に流動化が進みました。各地域特有の設計のこだわりみたいなことに対して、それまで他地域の人はかなり距離を置いて見ていましたが、最近ではそれぞれが大事にしてきたことをお互いに理解し始めました。

富樫　私は今年から大阪オフィスに来ていますが、もともと日建設計の出身母体であった大阪オフィスのDNAといいますか、大阪の人が余り意識していないであろう大阪的ないい面がすごくよく見えるんです。

それぞれの地区で、強いDNAを持っていたがゆえに、地域の特性を踏まえながらも、そこにとどまらない。さらに遺伝子が複合して進化しているんじゃないかという気がします。

中井　日建設計は2,000人を超える大きな組織になりましたが、いつでも組織が硬直化しないように時代の環境に合わせて変化してきたと思います。最近では、クライアントと直面する担当者がやりやすいように、組織をフラットにすることが大事だと位置づけてきたのです。地域割の組織を全国一元化・部門制とする前に、大きな設計部を小さな設計室として、小さい組織で小回りがきいて早くフラットに動けるための試みをやってきました。その総仕上げが地域割の組織を崩したということじゃないかと思います。これまで各地域がお互いに建築の質を競争するようなところもありましたが、組織が固定化する弊害を防ぎ、垣根を取り払うことでいろんなものも見えてきました。

クライアントの志向も随分違いますが、大阪の伝統とか歴史に根ざしたやり方があり、また東京のスマートな手法の良さもあり、その違いやうまい点が、とてもよく見えるようになったと思うのです。モード学園スパイラルタワーズもそうですが、経団連会館とか大阪弁護士会館とかは組織をそういう方向に持っていったことの一つの結果だと思います。

常に組織が流動化し、しかもフラットなものを目指していくというのは、ものづくりをする人の気持ちを最も大切にする理念につながっているのだと思います。

江副　私が入社したときは、まさに大阪の濃密な設計の真っただ中に入ってきたという感じでした。大阪府立中之島図書館から始まり、住友ビルディングとか日本生命ビルが原点としてあって、その後の、大阪市庁舎、日本銀行の大阪支店とか、大阪らしい特徴のある建築が次々と生み出された時期でした。極端に言うと、点と点を結ぶのに、東京の人は真っすぐ直線でつないでいくところを、大阪では何回も屈折を経ながらつないでいく感じです。ディテールはもちろん、建築計画においてもそのようなものだったと思います。私は大阪にいながら東京の設計を見てうらやましく思っていました。内心では東京的な設計をしたいと思いなから、大阪色に染まっていったのですけれども。

川島　大阪の設計は、職人的で古臭いやりかたと見られていたように思います。デザインの現場で、もうちょっとこうかああか、プロポーションはどうだ、もう一回一から書き直して見よう、といってやる。そんなやり方を古臭いと……、そんな空気があったんじゃないでしょうか。

全社一元化になって、各地区で竣工した主要な建物の見学会をできるだけ開催しようとしています。他地区の人が、大阪の人がつく

ったものを見たときに今までの思いとは違う何かを感じ、我々も他地区へ行って何かを感じています。これが一番いい文化交流になっています。見るだけじゃなくて、見学会後にみんなで結構激しい意見を闘わせていますよね、あれで良い交流が生まれてきています。

それまでは地域間の一種のライバル心だったかもしれないけれども、日建設計そのものを内側からしっかりと見つめられるようになって、そこから社会、さらには一線の建築家を見るというような目に広がりつつあるのかなという気がします。

小堀　私はこの10年の大半を構造設計部門で過ごしましたけれど、部門代表をしていて感じたのは、エンジニアリングにも地域性があって、仕事の進め方は微妙に違うということでした。例えば、日建設計は設計に用いる人工地震波を独自に作成しましたが、その浸透度は東京が高く、名古屋や大阪ではまだまだのところがありました。しかし長周期地震動の対応などを契機に少しずつ状況が変わりました。この10年で随分情報交換がすすみ良い方向に来ていると思います。構造計算偽装事件の際も、以前のように地域ごとに動いていたらもっと苦労していたと思いますが、何とか乗り切れたのも一元化の効果だと感じました。

例えばモード学園スパイラルタワーズは、当初名古屋で設計していたのを、構造は東京と名古屋の混成チームにしました。地区を越えた部門制の象徴的なプロジェクトだと思います。

富樫　我々の仕事の実態と組織が見合うようになったのが設計室制の導入だと思うんです。

それまでは、設計チームの上に設計部があり、それらがいくつか集まって事務所になって、その事務所が幾つか集まって１つの地域のオフィスを形成するという形だったと思います。それが組織がフラットになってお互いの顔が地域を越えて社内同士で見えるようになったというのが大きいと思うんです。

他地区の設計者がこういうことをやっている、おれも頑張ろうと、そういうことが割と社内でフランクに意識されるようになってきた。



中之島

ここ10年で進む「多様化」

林　この10年の動きというのは、一言で言うと、良い意味で「たが」が外れたんだと思います。僕が入社した当時は、地域ごとに組織がかっちりしていました。

今のリーダーは、その縛りを知っている世代だけれども、設計室長の世代はそこを全く意識していないという意味で長い時間が経過したのかなという気がします。

組織を見直し、フラット化や全社一元化を進め、「たが」が外れ、一線で設計する人たちが自分のやり方・感覚を磨き、自分と日建設計というより自分と世の中という接点に重きを置いてデザインするという動きが加速されました。

日建設計が次のムーブメントを起こす場になり得るのかというのは、一線にいる人たちの大きなテーマのような気がします。クリエイティブに個々人が自由に世の中と接点を持ちながら活動している。最近では「日建設計は、個々人の顔が見えるようになりましたね。」と言われるけれど、その中に日建設計としての共通項があるのかどうか、深く考えることで議論が収斂していくのかなと期待しています。

この間、職員組合の広報誌を見たら、日建設計のデザインについて議論したいとありました。組合主導で、今のリーダークラスの下の世代の人たちが中心になってデザインの議論をしようよと言い始めたというのは、結構おもしろいなと見ています。

富樫　僕が入社したのは1980年で、それまでの高度成長にオイルショックなどの影響で陰りがさしたころです。それまで日建設計は社会の正当な要請にこたえるというスタンスが非常に明快で大規模なテナントオフィスや本社ビルが看板の仕事でした。ところが、



林　直樹（はやし　なおき）
取締役副社長　大阪代表



中井　進（なかい　すすむ）
取締役副社長
設計部門統括兼設計部門代表

それまでの社会の明快な構図が崩れて、本当にいろんなニーズが出てきました。私が入社して最初に関わったのは大学のキャンパスの設計でしたが、その後も大学や、教育施設、病院の仕事がふえていきました。ニーズが多様化、多元化していったんです。

特に、環境問題では、地域によって求められている建築の理想形というのは違うわけで、それに応じたものをつくらなきゃいけない。北海道から沖縄まで、さらに海外も含めてそれぞれの地域に合った建物を提案するというのが仕事になってくるんじゃないかと思います。

川島　江副さんも僕も、いろんな意味で日建設計を作ってきた諸先輩の薫陶を強く受けた最後の世代で、そのことが無意識の自分の血になっていますよね。目からうろこというようにハッとする指摘を受けてみたり、今になってようやくずしりと実感できるけれど当時は意味がよくわからない話であったり、自分のデザインに対する強いタガというか制約を感じもしました。

たがが外れたという話がありましたが、一方でこのたががどこかで自己規制として働いているんじゃないかと思います。日建設計のデザインについて組合が語るも我々が語るもよし、みんなが自由に日常的に議論し批評しあうことによって、次のものが生まれてくるのかなという気がします。

中井　この10年のキーワードというのは、多分富樫さんが言われたように、多様化ということだと思います。世の中も日建設計もそうなってきたのです。国外の仕事が随分増え、建築用途も随分広がりました。昔は、銀行、庁舎、工場みたいなものが日建の得意分野だったのですが、今は全て何でもやっています、設計監理だけじゃなく、プロジェクトマネジメント、省エネコンサルティングなど、随分業態も広がってきました。 昔は、明確な意思を持ったリーダーがいて、大きなチームでゆったりと銀行の本店の設計をしていました。設計担当者とクライアントの担当者がつながっていて、そのすぐ後ろにそれぞれ意思決定できる人たちがいる形というのはフラットでないと多分できないのです。クライアントの重要な立場の人とストレートにコミュニケーションができ、レスポンスも早いというのが重要なのです。けれども、フラットな組織の中でどうやって筋を通していくのかということもあると思うのです。日建設計らしさみたいなものをどうやってその中で残していくのかが大きな課題のように思います。

小堀　世界のデザインの潮流も随分多様化したと思います。私は少しも良いと思いませんが、北京の「鳥の巣」はその極端な例で、ただそういう潮流もあって日建設計のデザインもかなり多様化したと思います。私が入社した頃は、日建設計の建物は一目見ればわかるとよく言われたけれども、今や必ずしもそういう傾向にはなく、この状況でデザインが今後どういう方向に行くかというのは、大きなテーマだと思います。

富樫　昔のように一目見て、日建設計だとわかるという事は随分減ったと思うんですけれども、まだ残っていることも事実で……。

川島　外から見るとそれでもわかると言われますよ。

富樫　最近、若い担当者の図面を見る機会が随分ふえてきたんですが、ふと気がつくと、つい小言のように言ってしまうことは、やっぱり昔、先輩たちから言われたことなんです。例えば、「手すりの先端を切りっ放しにしたら袖がひっかかるでしょう、必ず下に曲げなさい。」とか、本当に基本的なことだけども、そういうことがつい口から出る。だけど、世の中には切りっ放しの手すりというのは実は結構多くて、ああこれは「格好は良いけれど危ないな。」と思いながらわきを通り過ぎるんです。日建への建物を見るとそういうところがちゃんとやってある。そういうことを次の世代につなげていくというのは我々の責任だと思うんです。一方でニーズの多様化にも対処していかないといけない。

中井　ある種の作法みたいなものが実は随分残っていると思います。手すりのこともそうですが、若い人の図面を見たときに、光の入らない階段室とか便所はだめだよ、みたいなことをつい言ってしまいます。刷り込まれた作法みたいなものがあるのです。しかもそれが緩いのです。この加減がすごく大事なところです。

小堀　私は構造部門代表から名古屋事務所代表に異動するに当たり、私が構造に在籍した最後の締めとして、構造設計の理念をまとめようと室員に呼びかけ、いわば遺言として置いてきたつもりなんです。(笑)

以前は日建設計の構造部門は固いとか、すぐできないと言うとか



小堀　徹（こぼり　とおる）
常務執行役員　名古屋代表



富樫　亮（とがし　りょう）
執行役員　設計部門代表



大阪市庁舎

言われていましたが、この10年で随分柔軟になったと思います。許容の幅が広がり、チャレンジしようという姿勢が出てきたと思いますが、一方で状況の変化の中で、自分たちのポリシーがかなり揺らいできたところもあったので、みんなで一度そこを考えようというのが発端でした。日建設計の構造らしさというのは当然あって、モード学園スパイラルタワーズでも、あのような造形の中でも構造の筋をしっかり通すことによって、日建設計の構造らしさは出せたと思っています。

富樫　私はあの構造設計の理念を拝見してひざを打った一人なんです。最初の、「私達は構造が得意な建築の設計者である。」という一言は、うちのエンジニアリング部門のあり方を端的に表現した言葉で、骨組み部分だけを考える構造設計者ではなくて、建築をつくるために構造の部分を主に担当する設計者、建築家であってほしいですよね。構造、設備が社内にいるだけでなく、意匠設計者も彼らの意見を尊重して提案も求める、一緒に考える、自分の専門分野にとどまらない、場合によっては自分たちが全部決めるぞ、もっとしっかりしろみたいな姿勢がすごくうちのエンジニアリング部門にはあって、そのことを明文化してくれたマニフェストだと僕は思いますね。

江副　昨今のマスコミをにぎわすような建物も、構造的に建築の骨格のしっかりした考え方を打ち出さないと評価されないという時代になってきて、アトリエ事務所でも優秀な構造設計者とコラボレーションを組んで、構造技術者がまた脚光を浴びるような時代になっています。日建設計は構造を中に抱えているということで、日常的に綿密な打ち合わせができる。そういう意味でもこれから建築の設計をリードできる環境にあると思います。

林　デザイナーと構造家がコラボレーションしたのを目の当たりにしたのは、関西空港のターミナルでレンゾ・ピアノとピーター・ライスのコラボレーションでした。ピーター・ライスが時々日建設計に来て打ち合わせしていたのを横で聞いていたけれども、すごい構造家だなと感心しました。

富樫　中之島ダイビルのプレキャストSRCや、大阪弁護士会館のあんなにスレンダーな柱というのも考えられなかった。ましてやモード学園スパイラルタワーズみたいなねじれたビル、ああいうものが実現できたというのは、確かに大きな変化ですね。

川島　構造と意匠というのは、区分して考えたくないですね。同じデザイナー同士という感じでやらないと、なかなか成功しません。同じ目標をつくれるか、共有できるかが鍵ですね。

「環境」は従来からのテーマ

林　構造と意匠のコラボレーションという、小堀さんの遺言で、次の世代が現実にいい方向に向かっているという気はするけど、僕は直接設計ワークにかかわらず、DR（デザインレビュー）への参加や、完成後のクレームに対応せざるを得ない立場にあるんだけど、設計段階でのコラボレーションが、設備と建築意匠系の間ではやや希薄なように見えるんだけど、どうですか。

富樫　構造は建築の歴史の発生期から意匠と一体のものだけれども、設備というのは、照明にしても空調にしても、100年ぐらいで歴史が浅いんですよね。確かに構造よりは一歩おくれているという印象はあります。日本の近代建築はアメリカの建築の影響を受けていますから、まず骨格ができて、設備は別の設計者が後からつけるみたいな、そういう発想がどうしてもまだ残っていますね。

本来は、意匠とは切っても切れないエレメントの一つであって、設備設計者にも設備設計が得意な建築設計者にすぎないという意識は持ってほしいですし、そういう意識を持っているエンジニアも沢山います。

林　これも関空の話ですけれども、4階の出発ロビーのオープンエアダクトは完璧に空調計画を空間化していますね。アラップの設備のエンジニアからの提案だったけれども、そこに新宮さんのモビールを設置することで、より躍動的なロビー空間になっていますね。ここまで意匠と設備ががっぷり横綱相撲をして空間を生み出すというところまで、日建はまだいっていないような気がします。

川島　私は常々、建築現場はとてもエキサイティングだと思っています。力を伝達する構造体が組みあがり、開口から自然光が射し込む情景は、建築の力・空間の力を強く感じます。この状態が一番象徴的で、設備を組み込み、そこから天井を張って設備を全部隠蔽



日本銀行大阪支店



川島克也（かわしま　かつや）
執行役員　設計部門代表



江副敏史（えぞえ　さとし）
執行役員　デザインプリンシパル

してしまうと、空間の力が萎えてしまいます。関空は、建築・構造・設備が一つの統合されたデザインに昇華しており、そういうデザインを目指すためには、設備をどうするかということが主要課題になるわけですね。

そんな豊かな空間をどうやってデザインするか、天井の概念をなくして設備をどう計画するか、ということにも取り組み始めています。それはものすごく時間がかかるし、コラボレーションにエネルギーを要する。でもそれは始まっていると思います。

林　最近の日建の高層ビルで、自然の空気を入れて、縦に空気を逃がすようなダブルスキンの外装は、ある意味ではそうなのかなと思います。それが結構意匠に大きく影響していますよね。

中井　今は過渡期にあると思います。設備は既成概念の固まりみたいなところがあるので、環境といっても、既成技術の積み重ねですから、その殻を破るというのは難しい、とても力がいるのかもしれません。

川島　設備が隠蔽されてきたところが進化を遅らせてきた一番の原因ではないでしょうか。隠蔽しないとなった途端に相当頭を使わないとできなくなったわけです。

江副　日本経済新聞社東京本社ビルでは、大梁を空調ダクトとして利用していましたが、合理的な解決策だなと思いました。

川島　昔の建築は中に入ると、天井も何も張ってないから、単純に気持ちいいですね。それが天井を普通に張った最近のビルでは全然受ける印象が違います。昔のあの空間のよさを取り戻すためには、階高の1/3ぐらいを占めている天井内を開放することが必須になると思います。

富樫　生き物は、骨格の周りに肉がついて、その間に血管が走っているし、空気の流れも自然にできている。原始的な生物の循環器は単純ですが、哺乳類になるとものすごく複雑になって、全部が一体で効率がよくないと生き抜いていけない。建築もどんどん高度化していって、構造も設備も、意匠も、お互いにジャストフィットの関係にデザインされないといい効率、いい環境が得られないということになっていくと思います。

最近、CO_2の削減という観点から「環境」が語られる事が多いけれども、日建設計の社是にはもともと「社会環境デザインの先端を拓く」という言葉が入っていて、これは建築よりもずっと広い言葉なわけですね。我々は建築の設計者だけれども、建築だけでなく、都市も、建築の中の人とか家具とかも視野に入れて環境を設計しているんだと思うんです。

その中で、電気や機械という、設備設計の占める役割は非常に大きいと思うんです。

19世紀末に、シカゴ派の建築というのがアメリカに出てきたころは、まだ蛍光灯がなくガス灯か何かでやっていたから、オフィスの奥行きがそれで決まっていた。蛍光灯という電気設備の大革命が起こった瞬間に、初めてミース・ファン・デル・ローエのユニバーサルスペースが実現できて、それにエアコンという設備が加わり、完璧に快適な空間がそこで得られた。技術的に自由になってくると、もっと構造や設備と意匠とのコラボレーションは進んで、有機的に絡み合った建築ができていくんだと思いますね。

林　建築単体じゃなくて、環境をつくるとか、都市とのかかわりとかいう話はすごく大事な視点で、僕が若いころは、施主から、「日建さん、建物はしっかりつくるけど、建物周りは何も考えてないね。」みたいなことを言われた記憶があります。でも、最近それは言われなくなったという気がします。単体の建物であっても沿道の風景、都市デザイン、足元回りの外構、ランドスケープあたりをかなり注力してやり始めたからで、とてもいいことだと思います。

川島　建築は単体で考えるなと強く教え込まれました。隣のビルとの関係、壁面の位置や、隙間から何が見えるのかということまで考えろと。妙に後退させたらひどい景観になるじゃないかとかいうようなことをたたき込まれました。

江副　立面、断面、平面図に、隣の建物を正確に表現しないと怒られましたね。

川島　周辺との関係ということでは、林さんの言われたことはきちんと受け継がれていて、今後もしっかりと語り継ぐべきと思っています。

林　昔は声高にそういうことを社内で言っていたけれども、最近言わなくなってきた。でも、それが普通の作法として浸透しているから、あまり世間からそういう非難というか、皮肉を聞かなくて済んでいるという気はします。

中井　単体で物を考えずに、街並や周辺環境を考えないとだめだということは、随分定着したんじゃないかと思います。埋立地に初めての建物を建てるにしても、その先この街がどうなっていくかということを考えて一つ目を作らないといけないということも作法としては重要です。

林　ゼネコンさんの設計施工とか他の事務所が設計したキャンパスに新しい単体の建築の設計依頼があったときなど、いきなり鉛筆を取らずに、まず全体を見直しましょうみたいなやり方が普通に定



関西国際空港旅客ターミナルビル

着しています。大事な話だなと思います。

今、日建設計は積極的に海外に出ていき、苦労しながらも成果を上げています。そのときに、僕の考え方で言うと、やっぱり日本での今までの積み重ねが基盤だと思います。直接、和の建築様式を持ち込むわけでもないし、それができるとも思えない。今、日建設計がやっている個々のデザインは、欧米の設計事務所のテイストとは一味違うけれども、オーバーに言うと、どうやら日本で100年以上続いた事務所によるものらしいよということを、向こうの社会がいや応なく意識する。これが、日建のブランドだと思います。

日本人イコールグローバルな地球人で、無国籍でいったほうがかっこいいみたいな話があるけれど、決してそうじゃないですね。歌舞伎とか能の伝統芸能の世界だけでなく、現代音楽でも、世界で通用している芸術家たちというのは明らかに日本を背景としていますよね。日建設計は個々の顔が見える集団になってほしいけど、でもそれはこれまでの伝統を踏まえてのことだということを思い切り意識してほしいと思っているんですけれどね。

中井　すごく緩いのですが、ある種の筋の通し方、日建設計らしさというのが必要なんだと思います。

不易流行とは

川島　私は日本人ということに誇りを持っていますし、日建設計にも誇りを持ちたいと思っています。不易流行っていう概念がありますが、不易というのは、変わらぬもの。さっきの語り継ぐべきことも含めて歴然と存在するのだと思います。それに対して流行という部分をどうとらえていくのか、ということがとても重要になってきていると思います。

林　不易は、変わらない価値みたいな、真実、真理みたいな話だけれど、流行というのは時代の中で常に新しいものを求めて新しいものをつくっていく姿勢です。日建設計は近代建築に倣って、それを乗り越えるという区切りをつけて、よりグローバルに、新しさを求めていく。日建設計の全員が自分と世界のかかわりをどう持ち、新しいものをどの様につくり出そうとしているかという意味では、流行を追っていると思います。



中井　新しいことに挑戦するけれどもそこには必ず裏付けがあるというのはすごく大事なことで、これも一つの筋の通し方だと思います。

組織と世代交代

富樫　うちのいいところはいや応なしに世代交代をするところだと言われています。これが不易流行の一つの原動力になって、諸先輩のいいところをどんどん積み重ねて、次の世代が育ってくれるというのは、非常にうれしいと思いますね。

川島　それは、みんながふだん語り合う合ことが、世代を超えて、ある種不易の部分を伝えていくのだろうということですよね。

林　いい意味での流行を追っていくためには、常に新陳代謝しなければいけない。人間は年を取ると熟練はするが新しい発想は余り出てこなくなるわけですから、若い人にバトンタッチしていかなければいけない。会社が魅力的で、この世界を目指す若い人たちが日建設計に入りたいと思ってくれるためには、日建はしっかり繁栄して生き続けなければいけません。その責任はこのメンバーにあります。したがって、老害にならないうちに消え去るというのが作法なんです。(笑)

中井　組織を受け継ぐというのはそういうことだろうと思います。

組織としてやっていることと、やっている個人が見えることとは何も矛盾しません。組織としてやっているけれども、個人も見える、当然そうあるべきです。

林　名前は知っていても顔を知らない私たちの大先輩が何十年も前に設計したものを、改修、建て替えたいんだけど、ちょっと来てくれないか、と顧客から声がかかるというのは日建設計の長い歴史があってのことで、ありがたいことです。

富樫　本日はどうもありがとうございました。

場　所　日建設計大阪オフィス

日　時　2009年10月29日（木）

これまでの10年とこれからの姿

出席者

若林　亮
大谷　弘明
児玉　謙
村井　達也
岡田　耕治
下坂　浩和
佐藤　教明
塩田　哲也
＋
花田　佳明

――日建設計は2010年に110周年を迎えますが、今日は日建設計の100周年以降の特にこの10年について、神戸芸術工科大学の花田先生にご参加いただき、設計の最前線で活躍中の皆さんにいろいろお話をお聞かせいただきたいと思います。

日建設計の作品デザインについて

花田　ここ最近、日建設計の作品で印象的なものがとても多い。しかも担当者の名前とともに広報されているように感じます。さらにそれぞれの方の作風が全く違うとすら言えるぐらい、デザインのバリエーションも広くなっている。個人の能力がもともとすぐれた方が入っておられるのは当然としても、そこには、何か組織全体のあり方にかかわるような変化があったのではないかと思っていました。

そういうお話しをすると、この10年間にずいぶん組織の変革があったと教えていただきました。個と全体の関係が大きく変わり、日建設計がよりダイナミックな設計組織に変わったのかなと思いました。先日、江副さんに大阪弁護士会館を見せていただき大変に驚きましたし、大谷さんの山陽新聞社本社ビルや一連の作品にはずっと関心をもっています。若林さんがやられている小学校にも興味をもっていて、失礼ながら、大組織でも小学校をこんなに繊細にデザインするんだと驚いています。

大谷　組織は変わっているんでしょうけれども、自分自身は全く変わってないような気がしますね。周りがだんだん変わっていくというか。私は、今日の出席者の中では、特に旧世代の人に濃厚な教育を受けた人間だから、昔の良さと今の良さと両方知っていて、今の良さについて言うと、確かに風通しがよくなった。重しが少なくなったというか、自分がその分年をとっているということなんですけれども、実行力さえあればしたいことがちゃんと実現できる組織になっていますね。みんながそれぞれの個性で考えて「もの」を創っていけるようになってきたことはとてもいいと思います。

山陽新聞社本社ビルについてですが、もともとオフィスビルというビルディングタイプは、全国共通の建物が出来てしまう分野ではあるけれど、岡山の地に根差した企業の本社ですから、土地柄と気候を考えてつくるということで建築主の理解を頂くことが出来ました。

だからどことも似ていないというか、きれいにつくり過ぎないようにしたディテールがいっぱいあるんですが、そのがさがさっとした風合いというのが、中国地方の瀬戸内海気候のムードに合っているんじゃないかと思っています。そういうことが大阪にいると出来やすい空気は強いかもしれません。いつも頭の中にあるのは、いかにして東京から遠くに居るかという発想でして、（笑）今や東京も名古屋も大阪も一元化されているんだけれども、でも地方色も捨てない。両方両立させたいと願っています。

――そういうもともとあったものと最近変わってきたものについて、皆さんのお考えを聞きたいと思いますが。

児玉　私は入社して20年になりますが、前半の10年とくらべて後半の10年は、かなり変わったなと思います。

個人的には本当に様々な設計を担当させていただきましたが、この10年はプロポーザルの時代といえるかと思います。まずはコンペ、プロポーザルに勝ち残らないと仕事にならない。しかも、官民問わず最初からチームメンバーが登録されて出ていくという形が、増えたのではないでしょうか。

以前はもっと日建設計千数百人一丸となって対処するという姿勢で仕事をお受けするのが前提だったと思います。それが、この設計

者はどういう人間で、あなたの仕事にフィットするはずだから、このチームに担当させますという言い方に変わりました。中東の巨大なプロジェクトから、地方自治体の小学校まで様々なチーム編成を行います。当然戦略的にならざるを得ませんから、外から見ると、「とてもバリエーションが増えましたね。」というご評価につながっているのではないかと思います。

若林　私は名古屋オフィスに在籍していますが、東京の小学校も東京オフィスのメンバーと一緒に担当させて頂いています。先鋭特化という意味では、勝ち抜くために、今までの経験にプラスアルファの提案をしていきますので、それがデザインのバリエーションや案の深みにつながっているんじゃないかという気がします。
94年の愛知県瀬戸市の品野台小学校のプロポーザルをはじめに、今まで7つの小学校を設計させて頂いていますが、プロポーザルというのは実績が重視されるので、一つ小学校のプロポーザルをとると次の小学校のプロポーザルでもまたアサインされる。同じ分野の設計経験を重ねることで、いろんなことを深めていくということがやりやすくなったのも、プロポーザルの功績かもしれません。

――若林さんが担当されたモード学園もコンペでしたよね。あれは東京と名古屋のスタッフで一緒にやられたのですか。

若林　コンペは名古屋オフィスで担当して、東京オフィスからは設計段階で構造のメンバーが、監理段階で監理のメンバーが加わりました。技術力という面では幅が広くなったと思います。

花田　例えば大阪だと、いろいろな設計事務所やゼネコンの設計部がありますよね。東京には個人の有名建築家がいっぱいいる。でも名古屋という場所は、大阪と東京の狭間にあって、街と日建設計の名古屋オフィスが一体化しているような、そういう全部を引き受けられるような関係があったりしませんか。

若林　そういった街のスケール感はすごくありますね。

花田　街を一緒につくることができるいい関係みたいなものがあるのでしょうか。

若林　駅前にあれだけ並び出したわけですから、街の人の評価も様々だと思いますが。規模からすれば、名古屋の駅前に比べればずっと規模の大きい東京ミッドタウンが竣工しても、あれは、東京というスケールからすると、ある街の一角で起こっていることにすぎないんですよね。ところが、名古屋で駅前に3つのビルができると、これは明らかに街の表情が一変するわけで、やりがいという意味では、ここは非常にやりがいのある街なんです。例えば久屋大通りで、一つつくると、明らかにその建物の周りで人の動きが変わるのがわかりますから、そういう意味では、まちづくりに参加できているという実感は非常に深いですね。街に向かって鐘をたたくと必ずカーンと鳴って、それが響くやりがいのある街だと思います。

――この10年の作品の変化ということに関してはいかがですか。

村井　私が入社した時は、バブル絶頂期で当時は官庁の仕事が多かったですね。近年は民間の割合が増えてきて、特に名古屋は製造業の企業が多く、かつ小さな会社でも世界に通用する非常に高い技術を持っていらっしゃいますので、その辺りをかなり意識しています。冒頭の花田先生の日建は顔が見えるようになったという話は、2000年以降フラットな組織を目指して、室長制への移行という動きがありましたよね。それでかなり顔が見えるようになったのかなという気はします。

――それは、世代が変わって来ているということでしょうか。

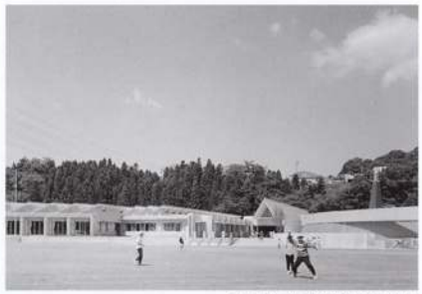
若林　相互乗り入れといいますか、いろいろあえてタイプの異なる人と組ませているんですね。例えば、設計部門では部門代表が地域にまたがって所管していることですね。例えば、東京の代表は、東京だけじゃなくて、九州を一緒に見ている。別の代表は、大阪と東京や名古屋と大阪を見ているというふうに、必ず複数の地域にまたがって所管しているんです。

当然行き来は増えます。同じ目線で複数の地域を見て、そこの中で、人をアサインしたり情報の交流が起こったりすると、これは組織図として一元化と書いている以上の効果があると思うんです。

博物館が得意な人に地区を越えて参加してもらって一緒にやるなんていうことは、以前だったらなかなかなかったことですね。そう



若林　亮（わかばやし　まこと）
設計部門副代表兼設計室長



瀬戸内市立品野台小学校



大谷弘明（おおたに　ひろあき）
設計部門副代表兼設計室長



京都大学医学部百周年記念施設　芝蘭会館

いうことが今全社的に起きていると思うんです。大阪の人が非常に技術的に挑戦的でインターナショナルな試みをやったり、東京の人が地域性を意識した作品をつくったり、そんなことが今起きつつありますね。

佐藤　僕らの世代ぐらいになると、例えば東京の同期の者や知っている人達は、極端に言えばすぐ近くの席にいるような感覚でいると思うんです。東京も大阪も名古屋も、距離感はすごく縮まっていて、メールや携帯などの浸透もありますが、それ以上にかなり感覚的な近さが生まれている。この状況こそが、ここ10年ぐらいの間で起こった最大の変化だと感じています。この状況を土壌として、仕事の進め方から提案内容にいたるまで、意図してなくても結果的に様々な変化が起こっていると感じています。

岡田　全社的に仕事量にアンバランスが生じたときに数年間かけて大阪から東京へ人を動かしたことが、今に繋がる大きなきっかけになっています。地域間で人と人との関係に垣根がなくなり流動感が生まれ、設計した本人たちが作品をひっ提げて全国を行脚して回るような、そんな土壌ができたというような実感があります。それと前後して大人数の設計部単位から、少人数を志向した設計室への転換を行って、フラットで風通しの良い組織づくりと、世代の交代が重なってきていますので、決して偶然ではないですね。

花田　組織事務所に勤務して、一生組織で添い遂げるということができるということはすごくいいことだと思いますが、そういう場所に日建設計はどんどん今変わってきているのかなと、外から見ていると思うんです。昔以上に設計のことをちゃんと考えられる。そんなことはないと言われるかもしれないけれども、まあ言わば研究室的な存在、ムードに変わってきているんじゃないかなと、外野からは見えますが。

大谷　よく我々が話しているのは、日建設計はファームとも言えるけれども、むしろプラットフォームだと思うんです。いろんな人たちが航空母艦から戦闘機で飛び立ってまた戻る場所、いわゆる母艦ですよね。ピラミッド構造の組織の中にキッチリ納まっているというよりは、ベースの上を飛びまわっている人たちの集団というのが一番近い描写じゃないかと思います。

若林　正直、組織に所属しているという感じじゃなくて、小さな設計事務所がたくさん集まっている集団みたいな感覚ですね。もちろん、組織として価値観やナレッジを共有するプラットフォーム的なところありますが、やっている自分たちはもう少し身軽で、例えば若林設計室というと若林設計事務所、大谷設計室だと大谷設計事務所というイメージです。

花田　そのイメージ自体は、昔から日建設計が目指していたものじゃないかと思います。僕らのころは、古くさい言い方ですが、「会社の中に自分の店を構えろ」とか言われましたが、実際にはなかなか難しかった。しかしここにきて、それがむしろ当然のことになってきたのではないでしょうか。だとすればすごいことだし、考えようによっては恐ろしいというか、アトリエ事務所の人はどうしたらいいの、みたいな感じもしないでもない。

下坂　私は1991年に入社しましたが、その頃の日建設計は大阪と東京がそれぞれのスタイルで設計をしていて、先輩たちを見るとお互いに自分たちの方が正しいと自分に言い聞かせながらやっているように見えました。その少し前までは雑誌に発表するときも日建設計・大阪というように地区名が事務所の名前にくっついていたくらい各地域が独立した設計事務所のようだったと思います。2000年以降、各地区の業務量と人員のバランスを取るために人の移動が増え、私も4年間東京に行って、また大阪に戻ってきています。両方を経験して感じるのは、人が行き来することでそれぞれのスタイルに固執することが無意味になったのではないかということです。さらに、会社としての組織がそれまでの地区ごとの縦割り組織から設計・構造・設備などの横断的な組織に変わりましたが、そのことによってますます自分のいる地区と他地区との区別が薄まったと思います。今では、隣の席の人の仕事を参考にするのと同じように他地区の人の仕事を参考にしてよりよいものつくれば良いじゃないか、という雰囲気があります。それでいて、地理的に離れている分だけ競争心



児玉　謙（こだま　けん）
設計部門副代表兼設計室長



神戸栄光教会



村井　達也（むらい　たつや）
設計室長



金山センタープレイス

も残っていて、今はちょうど良い距離感なのではないかと思います。

DPI(デザイン・プロセスイノベーション)の利点

塩田　私は入って12年経つんですが、私にとってこの12年間で設計を進める中で一番大きな出来事というのはDPIなんです。皆さん多分そのころには一人前に設計ができるようになっていて自分のやり方も確立していて、かえって邪魔くさいものだと思っているかもしれないですけれども、僕らにとっては、あれができたおかげで、先ほどの大谷さんの言葉をかりると、航空母艦の形がわかるようになったというか。あれができて、みんなこの程度は考えるというラインもわかって、それにプラスして何かやろうとか、全然違うものをやろうとか、そういったことを考えるようになりました。

花田　DPIとは何ですか。

児玉　DPIというのは、5～6年ぐらい前から展開している活動で、デザイン・プロセス・イノベーションのことです。デザインの過程を分析して、共有できる設計プロセスを抽出して共有化したりして、ロスをできるだけ減らそうじゃないかという活動です。この時期にこの提案をするとか、この時期にここまで決めるとか、手戻りができるだけ少なくなるように進めていくための柔らかいマニュアルの様なものです。

花田　そういう冊子か何かが配られたりしているのですか。

児玉　一連の運動です。ポータルとかネットワークみたいなものが発達したものです。例えば他の地区や他のチームでつくっているオフィスの基準、窓まわりの比較資料みたいなものをリアルタイムに近い状態で見ることができます。

若林　DPIの一つとして情報ツールが整備されて、全員でナレッジを共有できるベースができたおかげで、一から調べ出さずに、まずはそのベースまでは学習して、そこから考え出すということをやりながら、なるべくクリエイティブな時間をふやそうという運動ですね。

花田　それは、標準仕様の共有なんていうレベルではなくて、もうちょっとやわらかいものですね。

若林　そうですね。来週クライアントにプレゼンテーションする、なんていうときに、例えば名古屋にいて、他の地区で去年やったあるビッグプロジェクトのときに使った資料が見られるわけです。どんな説明をしているかが資料から直接わかります。だから、まずそれらを見て、今回の自分たちのプロジェクトはこうだからどう攻めるかということが、そこからスタートできるんですよ。いきなりゼロから、白い紙を前にしてどうしようということでなくてもいい。

これは決して強要はしていないんだけれども、みんながある程度考えて、一番標準的に、一番無駄のない手順はこうではないかというふうなものを一応決めて、それを共有してもいます。若い人はそれを見ると、なるほどそうかとわかる。

塩田　単なるマニュアルととらえられてしまうと、すごくつまらないんですけれども、人のやっていることを見るようになったということを思うと、良かったかなと思います。

花田　僕の頃はそんなものはなかったし、当時は雑誌で見て初めて東京の仕事を知るような状況でした。正直言って、社内にお手本がないという感覚がありました。日建設計全体として、デザインに関する知的なデータベースが共有されているとすれば、それはすごいことですね。

若林　DPIは当初第一線で活躍中の設計のベテラン勢から大変な反発があるやに思えたんです。ところが、実際に始めると、意外にそうしたベテランが、これはいいじゃないと言ってくれたんですよ。

というのは、そういう要領のいいやり方というのは、そんなに変わったことをやっているのではないわけです。優秀な設計者だったら誰でもやっていることなんですね。実際に良い事例というのを見てみると、「これっておれのやっていることと大して変わんないじゃないか。」ということになったわけです。だから、割とみんながすんなりと受け入れてくれました。

花田　最近の日建設計の作品は、現代のいろいろな建築デザインの流れとの距離をきちんと測定していて、第三者からもその距離感が見えるというか、何を考えておられるかが共有できるという感じがするのです。ベテラン勢にDPIが意外に好評だったとおっしゃっ



岡田耕治（おかだ　こうじ）
設計室長



財団法人慈愛会谷山病院



下坂浩和（しもさか　ひろかず）
設計室主管



日本興亜日本橋ビル

たのは、やはりそれが自分のデザインのポジショニングを助けるツールになった証拠だろうと思いましたね。

岡田　私はこういうマニュアルのようなものは最も苦手な領域で、猛反対をしていた一人です。それでも、若い世代の人たちがそれらを一通り俯瞰することによって、日建設計の設計プロセスなり、集積されたナレッジがわかるというのはとてもいいことだと思います。僕は入社して20年近くなりますけれども、素朴に、いちから設計をたたき込まれてきた世代です。90周年から100周年ぐらいが僕の最初の10年間だったんですが、当時は先輩の設計者というのは厳然とかくあるべしというスタイルを持っていたし、自らを頼む意識がとても強かったんじゃないかと思うんです。

だから、他の人がやっていることに目も向けなかったんじゃないかと思います。そういう先輩たちから口伝えに聞いたことは、DPIのような意識されて整理されたノウハウに限らず、いろんなものは根はもともと日建設計の中にあったものなのではないかと思います。DPIが、今や契約社会となった日本にあって随分と役に立っていることは、それは間違いありません。

児玉　どちらかというと、組織として情報を共有して、ちゃんと蓄えて、過去の失敗をまたやってはいけないというような気持ちとか、そういうのは、もともと強かったんだろうと思うんです。

花田　こういう自由にしゃべれる場があったり、作品のレビューとか、最近はいろいろあるんでしょう。

DO（デザインオリエンテーション）と DR（デザインレビュー）

若林　もうちょっとフラットにDO（デザインオリエンテーション）とかDR（デザインレビュー）とかいう場で、事務所内の経験者や専門家から第三者の目でいろんなアドバイスを受けて、いいアイデアはどんどん採り入れるような仕組みはあります。

花田　DRは、もうちょっと小さい単位や設計の途中段階とかでやるのですか。どれくらいの単位でやるのですか。例えば、大谷設計室だと、その中だけですか、それとも他の設計室がジョイントしたりもするのですか。

大谷　役員レベルの人たちにレビューを受けます。各地域単位でやっている場合もあるし、これは全社的にちょっと見てもらおうというので、東京まで出かけていってやる場合もあります。プロジェクトの最初の段階でDOをやり、DRは途中で必要に応じて何回もやります。

若林　以前は、二転三転するようなこともあったようですが、今はずっとオープンで、直接議論ができる場なので、手戻りやストレスが少ないですね。

岡田　回数も多くなりました。日ごろ机に張ってあるスケッチを見てもらう。そこから思考のプロセスを共有して、代表クラスの人から、先輩の意見として聞くという感じです。構造や設備、営業の人も参加して、プロジェクトの進め方まで含めた、かなり柔らかくて幅広いテーマを話します。

花田　そういうときに、デザインの話ができているという実感がおありなんですよね。

児玉　そうです。実はデザインレビュー自体も、最初は設計の自由が損なわれるんじゃないかという危惧もあったんですが、今のところ、とてもうまくいっています。デザインというと非常に幅広い概念ですけれども、広い視野に立って議論が一応できているんじゃないかという気がするんです。

ただ、もちろん建築家同士の話だから、デザインの話になると、これが好きだとか嫌いだとかいった話も当然あるんだけれども、それでまとまらないという事は余りなくて、いいところにランディングするようになってきています。 ベースにはみんな同じ血が流れているみたいなところがあるようです。話していると、何となくまとまっていく。

若林　例えば他地域の連中が同じテーブルで話をしても、何となく共感し合えるものが何かあるんですね。それがないと、議論をしてもなかなか話がかみ合わないというか、高め合わないというか、



佐藤　教明（さとう　のりあき）
設計室主管



大手前大学さくら夙川キャンパス
メディアライブラリー“CELL”



塩田哲也（しおだ　てつや）
設計室主管



いちい信用金庫新本店

そういうところが必ずあると思うんです。僕らの組織は、デザインのこともちろんちゃんと語るし、社会の中で建築をどういうふうにつくり込んでいくかみたいな話が全部等価なんです。

だから、あるときこの庇の先端がかっこ悪いねという話が出るかと思うと、次の瞬間、じゃあこのコスト配分はどうなっているんだとか、構造形式や空調方式は本当にこれでいいのかとか、というような話が、全く同じ土俵の中で同時に出てきているということだと思うんです。それが割と今、どの地区でも素直にできている。

花田　同時だと思えているという点が重要だと思います。そういう議論が広くできるようになった背景があって、最近の日建設計のデザインに変化が生まれてきているように思います。

若林　私自身は日建スタイルだと言われないように気をつけてます。(笑) 街並みやクライアントの想いに合わせて、いろんな形、デザインがあっていいかなとは思っています。

日建設計は航空母艦？

大谷　日建設計は、クライアントと社会のために、次の10年も、次の100年も存続し続けていかなきゃならないので、いろんなことをしなきゃ危ないんです。すぐ動脈硬化が起こってしまう。だから、航空母艦にしておく必要があるのだと思います。

花田　航空母艦のイメージというのはすごくわかりやすい。でも、そこに発着する戦闘機が皆さんだとすれば、航空母艦自体は何なのかという問題が残ります。優秀な人がただ利用するためのネットワークみたいなものなのかとか言い出すと、また逆に寂しい感じもあったりするし、航空母艦自体を動かしている人たちもいる。

大谷　それはもちろん、監理や工務やいろんな部門は、船の中で一緒に働く大事な人たちなんです。

花田　そう、航空母艦は何のために存在するか。建築の設計って１人でもやろうと思ったらできますよね。だけど、2,000人以上も集まってやっているのはどうしてか。１人だと航空母艦はできないけれど、航空母艦だからできることって別にあるんだろうなと。

大谷　昔は、多分外からも内からも、日建設計の見え方は戦艦大和スタイルで、46センチ砲とかついていたんだけれども、それじゃ役に立たないことがわかった。(笑) 大艦巨砲主義じゃだめでしょうね。そこまではわかったと。

花田　航空母艦そのものは大砲を持っていない。

大谷　航空母艦をどうやって使うかは今から考える。(笑) 社会のためになるのかと。

花田　そこですね。誰が何のために日建設計という航空母艦に乗りに来て、彼らはどこへ行こうとしているのか。

大谷　どこへ向かって進んでいるのかは、確かに謎ですね。(笑)

若林　次の10年、その次100年に日建設計がずっと存続するためには、大切にする価値観をみんなで共有しながら、日建設計というプラットフォームはもっとやわらかい感じがいいんじゃないかと思ってます。

大谷　外から見えているのとは違って、内側にいると、結構アメーバー的な不定形な組織になっているんですね。悪の帝国という感じじゃない。特殊な環境に特化した生物は次の環境変化に追随できないとかね。どこかで別なことをやっている連中が次の世代のリーダーかもしれない。それがまた、本能的にみんなわかっているんだと思います。

——本日は、どうもありがとうございました。

場　所　日建設計大阪オフィス

日　時　2009年10月19日（月）



花田　佳明（はなだ　よしあき）
神戸芸術工科大学デザイン学部
環境・建築デザイン学科　教授



日土小学校保存再生

NIKKEN SEKKEI
works

京都迎賓館

大阪弁護士会館

モード学園　スパイラルタワーズ

東京ミッドタウン

中之島ダイビル

兵庫県立芸術文化センター

武庫川女子大学　建築学科・大学院建築学専攻　建築スタジオ

中部国際空港〝セントレア〟旅客ターミナルビル

トヨタ自動車　本館

グラントウキョウ　ノースタワー

経団連会館

山陽新聞社　本社ビル

福山市まなびの館　ローズコム

鈴鹿市立旭が丘小学校

徳島赤十字病院

東本願寺 真宗本廟 御影堂 修復

オムロン京阪奈イノベーションセンタ

栄三丁目ビルディング〝LACHIC〟

東京スカイツリー

北京電視中心

ベトナム国立歴史博物館



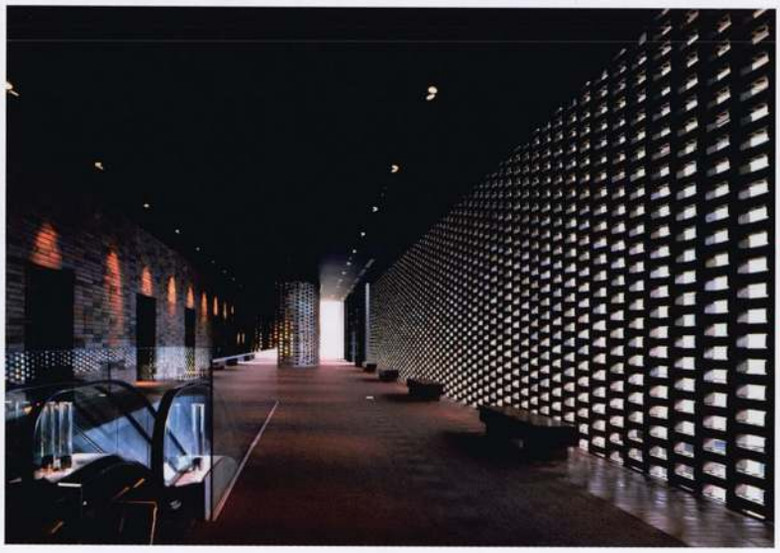
京都迎賓館

建築主	内閣府
所在地	京都市上京区京都御苑
敷地面積	20,140.00㎡
建築面積	8,074.03㎡
延べ面積	15,623.36㎡
構造規模	RC・S・SRC / B1F・2F
竣工	2005年3月

（設計監修：国土交通省大臣官房官庁営繕部
共同監理：国土交通省・京都営繕事務所）











大阪弁護士会館

建　築　主	大阪弁護士会
所　在　地	大阪市北区西天満
敷地面積	5,078.06㎡
建築面積	2,250.92㎡
延べ面積	17,005.29㎡
構造規模	S・RC（制振構造）/ B2F・14F・P1
竣　　工	2006年７月





モード学園 スパイラルタワーズ

建築主	学校法人モード学園
所在地	名古屋市中村区
敷地面積	3,540.06㎡
建築面積	2,365.75㎡
延べ面積	48,988.95㎡
構造規模	S・SRC・RC（屋上制振）/ B3F・36F・P2
竣工	2008年2月







東京ミッドタウン

建　築　主	三井不動産 全国共済農業協同組合連合会 明治安田生命保険 富国生命保険 積水ハウス 大同生命保険
所　在　地	東京都港区赤坂
敷地面積	68,891.63㎡
建築面積	37,994.31㎡
延べ面積	563,801.02㎡
構造規模	S・RS・SRC / B5F・54F・P2
竣　　工	2007年1月

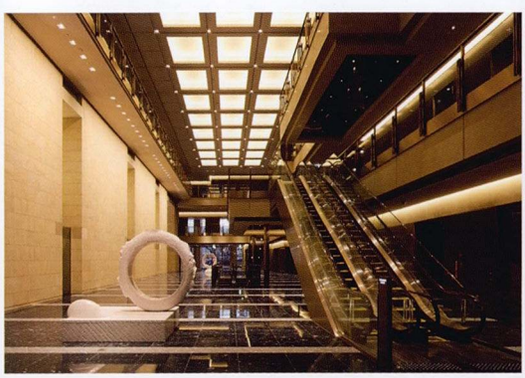
■東京ミッドタウン全体計画

マスターアーキテクト	：SOM
コアアーキテクト	：日建設計
ランドスケープデザイン	：EDAW Inc.
商業空間デザイン	：Communication Arts, Inc.
アート計画	：清水アートオフィス
パブリック・アート	：安田侃ほか
サイン計画	：井原デザイン事務所 エモーショナル・スペース・デザイン



中之島ダイビル

建　築　主	ダイビル
所　在　地	大阪市北区中之島
敷地面積	20,989.32㎡
建築面積	2,693.04㎡
延べ面積	79,543.04㎡
構造規模	S・SRC・RC・SRC-PC（制振構造）/ B2F・35F・P3
竣　　工	2009年３月

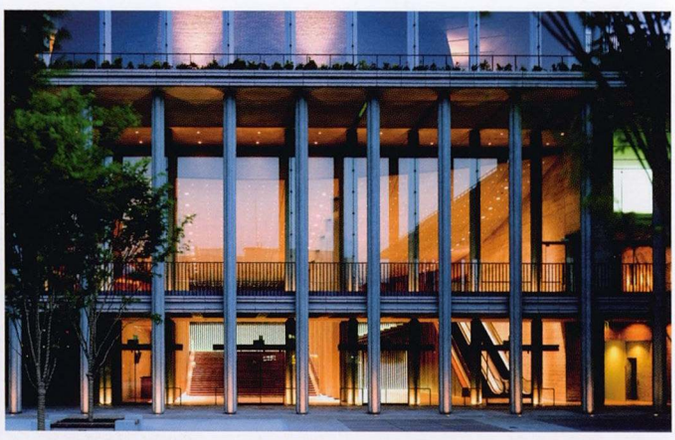


兵庫県立芸術文化センター

建　築　主	兵庫県
所　在　地	兵庫県西宮市高松町
敷地面積	13,227.00㎡
建築面積	10,530.53㎡
延べ面積	33,144.92㎡
構造規模	SRC・S・RC・PC / B1F・6F
竣　　工	2005年5月

（共同設計・監理：兵庫県県土整備部
まちづくり局営繕課・設備課）





武庫川女子大学
建築学科・大学院建築学専攻　建築スタジオ

建　築　主　学校法人武庫川学院
所　在　地　兵庫県西宮市戸崎町
敷地面積　35,626.86㎡
建築面積　3,871.60㎡
延べ面積　7,559.94㎡
構造規模　RC・一部PC・S / 3F
竣　　工　2007年３月

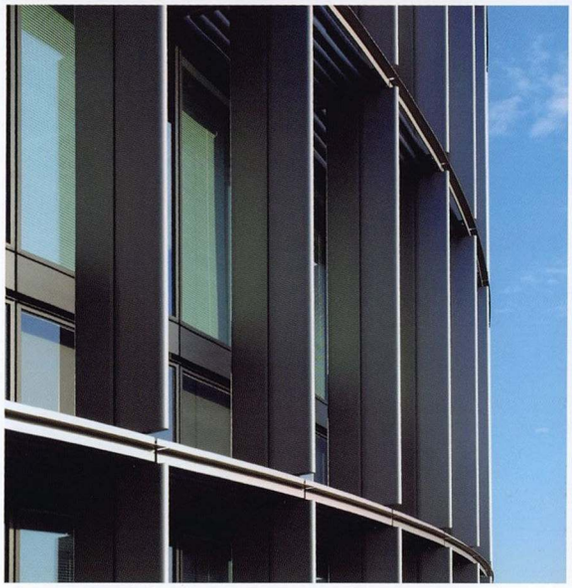




中部国際空港〝セントレア〟旅客ターミナルビル

建　築　主　中部国際空港
所　在　地　愛知県常滑市セントレア
敷地面積　4,733,339.05㎡
建築面積　107,160.54㎡
延べ面積　262,503.20㎡
構造規模　S / 4F
竣　　工　2004年９月
（共同基本計画：梓設計・HOK・ボヴィス
共同基本設計・実施設計・設計監理：梓設計・HOK・アラップ）







トヨタ自動車 本館

建　築　主	トヨタ自動車
所　在　地	愛知県豊田市トヨタ町
敷地面積	194,129.42㎡
建築面積	9,671.99㎡
延べ面積	64,987.98㎡
構造規模	S・一部SRC（免震構造）/ B1F・15F・P1
竣　　工	2005年1月

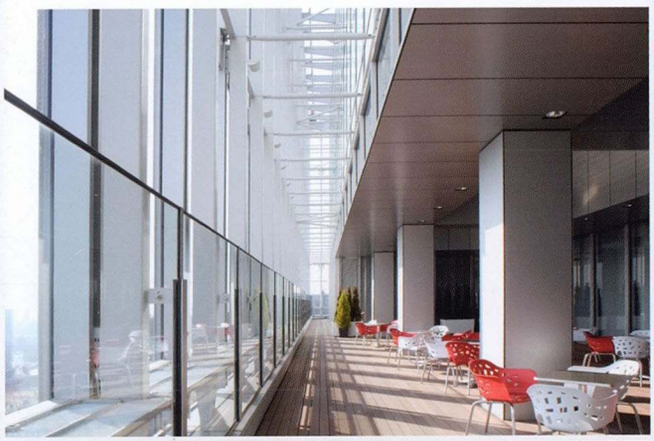
（基本設計・性能発注図書：日建設計
申請業務・実施設計監修・監理：日建設計
実施設計：清水建設）



グラントウキョウ ノースタワー

建　築　主	東日本旅客鉄道 三井不動産
所　在　地	東京都千代田区丸の内
敷地面積	14,439.18㎡
建築面積	12,795.01㎡
延べ面積	212,495.07㎡
構造規模	S・SRC・RC / B4F・43F
竣　　工	2007年10月（1期）

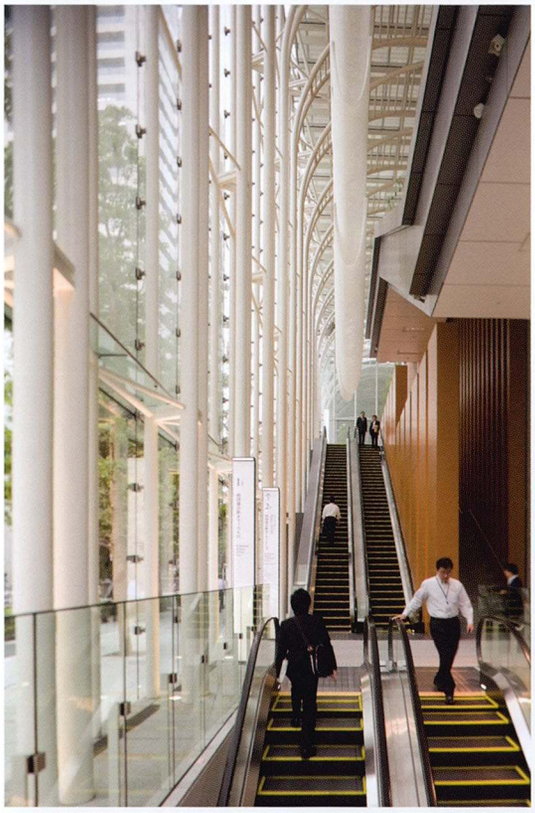
（設計：東京駅八重洲開発設計共同企業体
（日建設計・ジェイアール東日本建築設計事務所）
デザインアーキテクト：マーフィー／ヤーン）













経団連会館

建　築　主	大手町開発 社団法人日本経済団体連合会
所　在　地	東京都千代田区大手町
敷地面積	13,399.08㎡
建築面積	9,156.74㎡
延べ面積	71,226.55㎡
構造規模	S・SRC-CFT / B4F・23F・P2
竣　　工	2009年４月

（共同設計・監理：三菱地所設計）

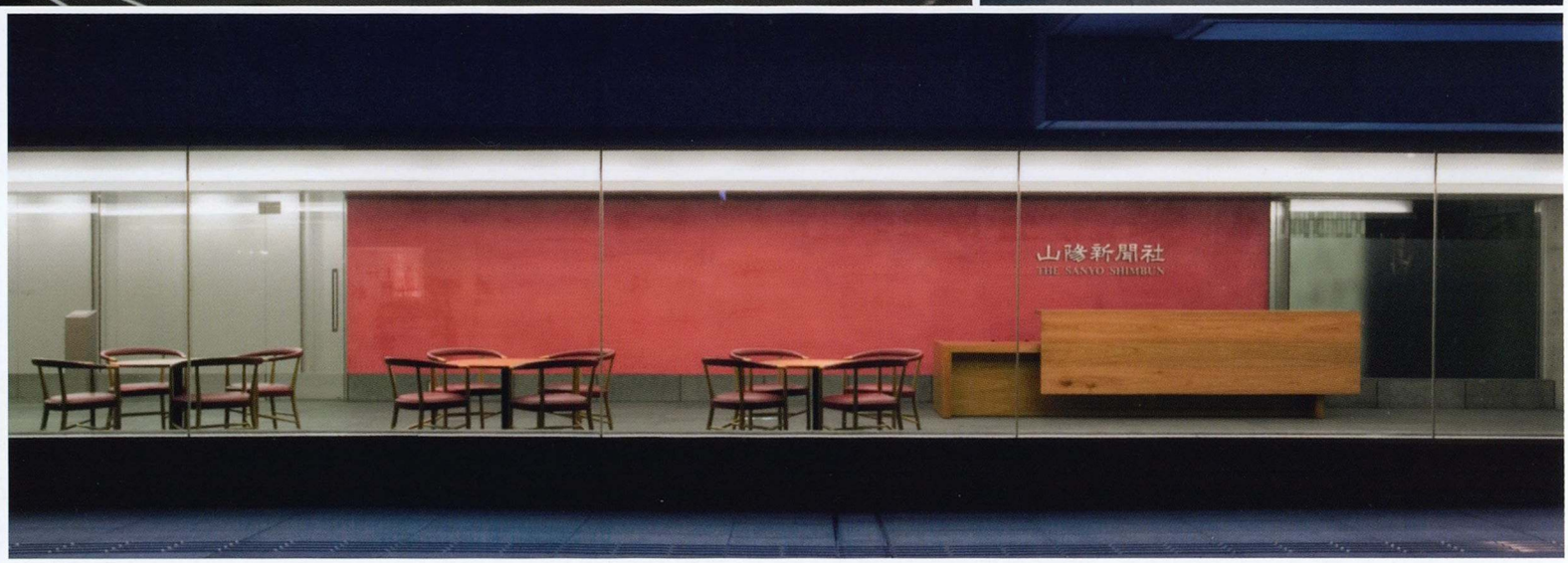


山陽新聞社 本社ビル

建築主	山陽新聞社
所在地	岡山県岡山市柳町
敷地面積	3,827.77㎡
建築面積	2,835.02㎡
延べ面積	22,981.47㎡
構造規模	S・SRC・RC / B1・20F・P2F
竣工	2006年6月

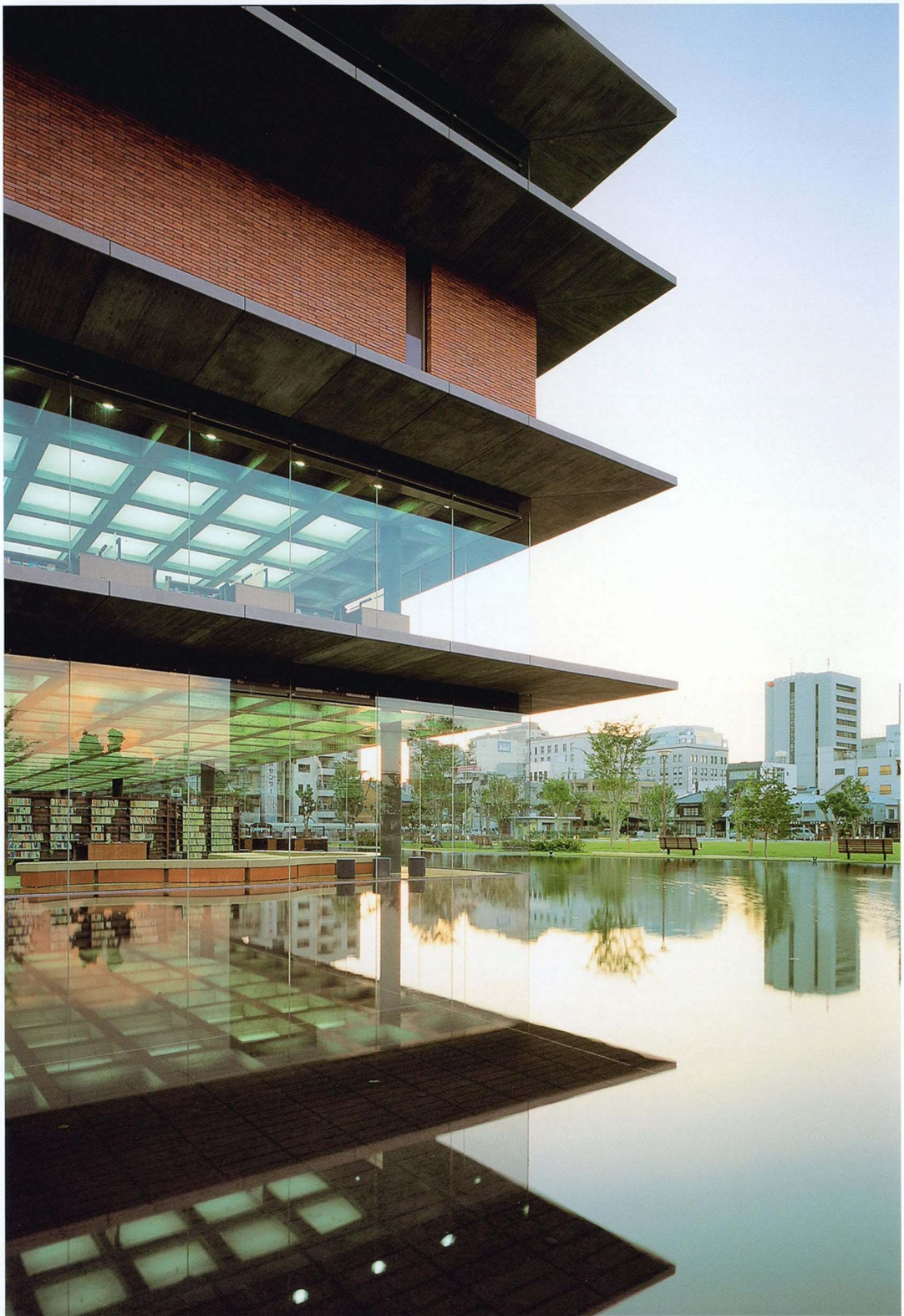








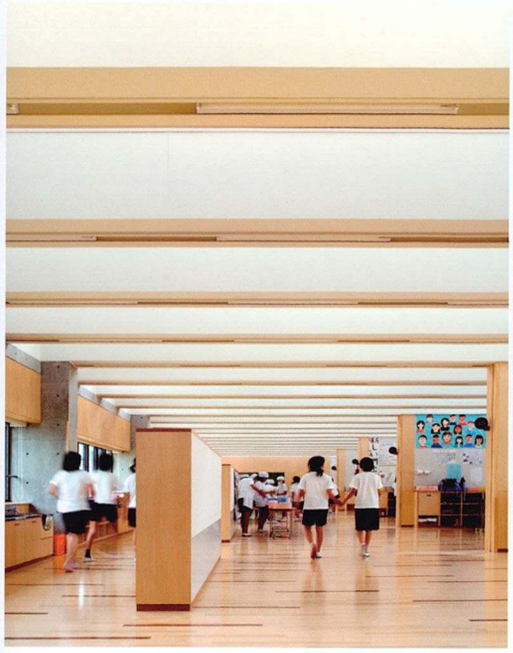




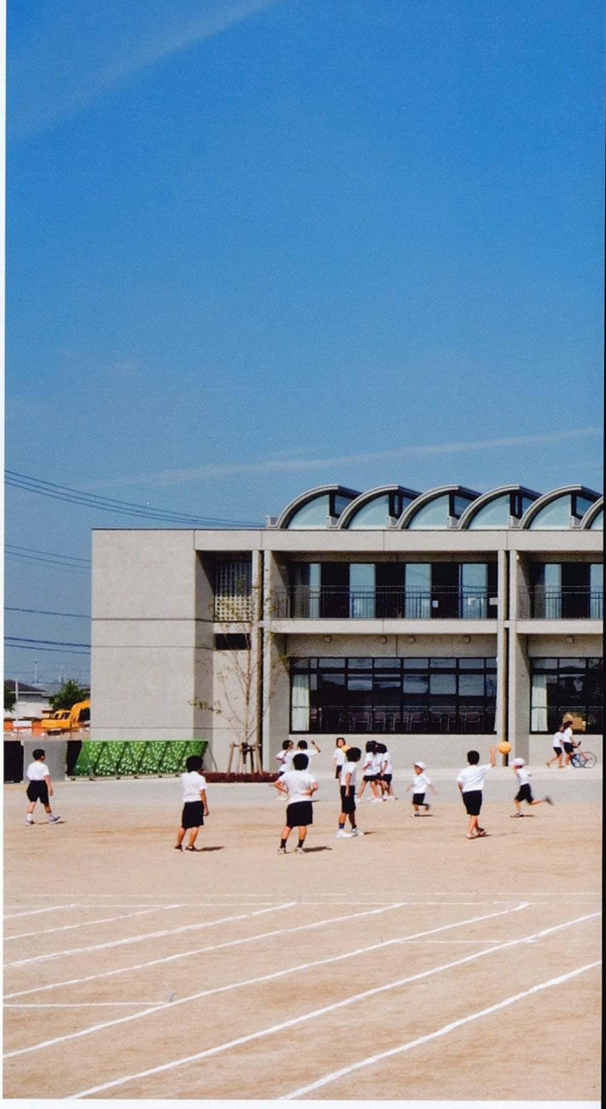
福山市まなびの館　ローズコム

建　築　主	福山市
所　在　地	広島県福山市霞町
敷地面積	4,837.89㎡
建築面積	3,864.51㎡
延べ面積	13,789.89㎡
構造規模	SRC・RC / B1・4F・P1F
竣　　工	2008年３月

（監理：福山市建設局建築部営繕課
設計意図伝達業務：日建設計）







鈴鹿市立旭が丘小学校

建　築　主	鈴鹿市
所　在　地	三重県鈴鹿市東旭が丘
敷地面積	25,357.12㎡
建築面積	5,779.88㎡
延べ面積	9,894.66㎡
構造規模	RC・PC / 2F
竣　　工	2007年３月

（監理：鈴鹿市管財営繕課
設計意図伝達業務：日建設計）







徳島赤十字病院

建　築　主	徳島赤十字病院
所　在　地	徳島県小松島市小松島町
敷地面積	30,117.63㎡
建築面積	5,773.29㎡
延べ面積	30,046.04㎡
構造規模	SRC（免震構造）/ 9F・P1
竣　　工	2006年１月

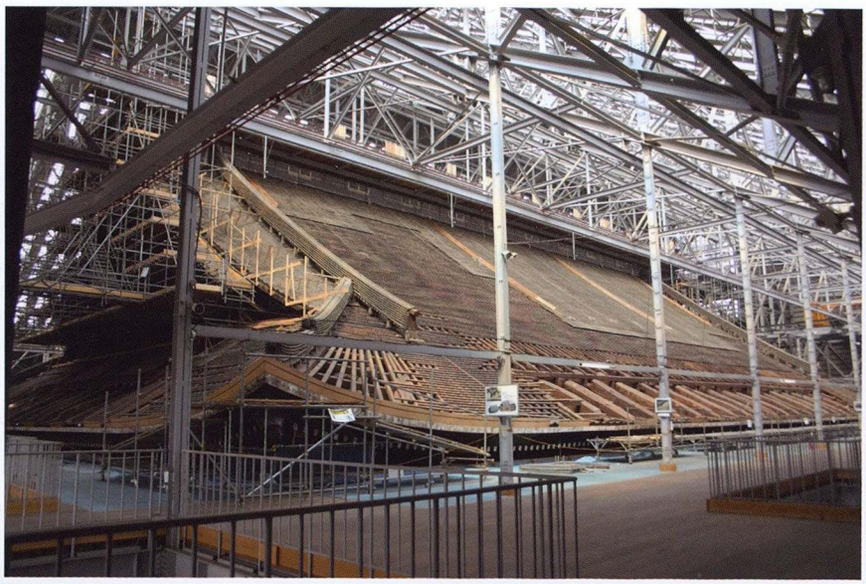
（病院棟設計監理：日建設計
複合施設棟・防災エネルギーセンター設計監理：安井建築設計事務所）

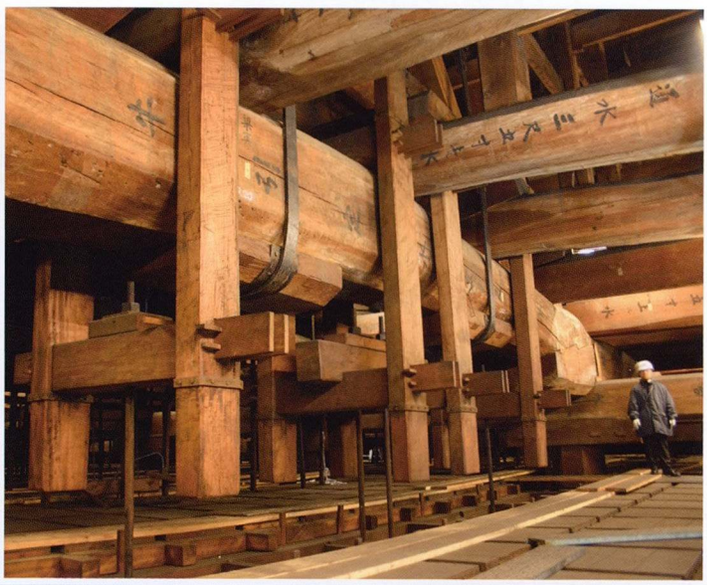




東本願寺 真宗本廟 御影堂 修復

建　築　主　真宗大谷派
所　在　地　京都市下京区烏丸通
敷地面積　92,388.30㎡
建築面積　4,107.55㎡
延べ面積　2,891.98㎡
構造規模　W / 1F
竣　　工　2008年12月

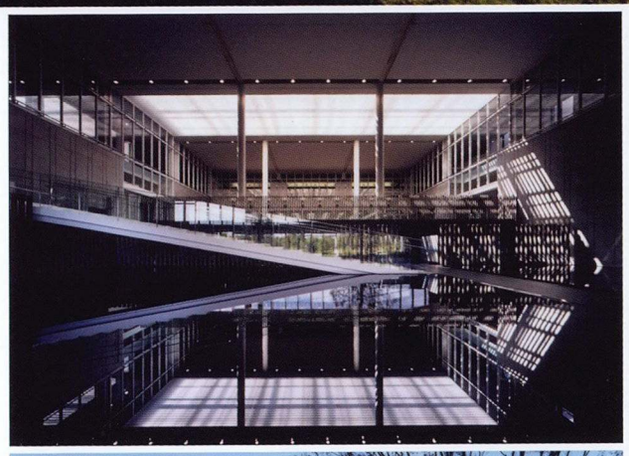






オムロン京阪奈イノベーションセンタ

建　築　主　オムロン
所　在　地　京都府木津市木津川台
敷地面積　71,883.90㎡
建築面積　15,975.30㎡
延べ面積　30,335.04㎡
構造規模　RC・S / B1・3F
竣　　工　2003年３月
（監修：高松　伸
構造設計・監理：久米設計）







栄三丁目ビルディング〝ＬＡＣＨＩＣ〟

建　築　主	栄三丁目６番街区市街地再開発組合（LACHIC：三越）
所　在　地	名古屋市中区栄
敷地面積	6,348.80㎡
建築面積	5,609.83㎡
延べ面積	69,969.17㎡
構造規模	S・SRC・RC / B4・12F・P2
竣　　工	2005年２月









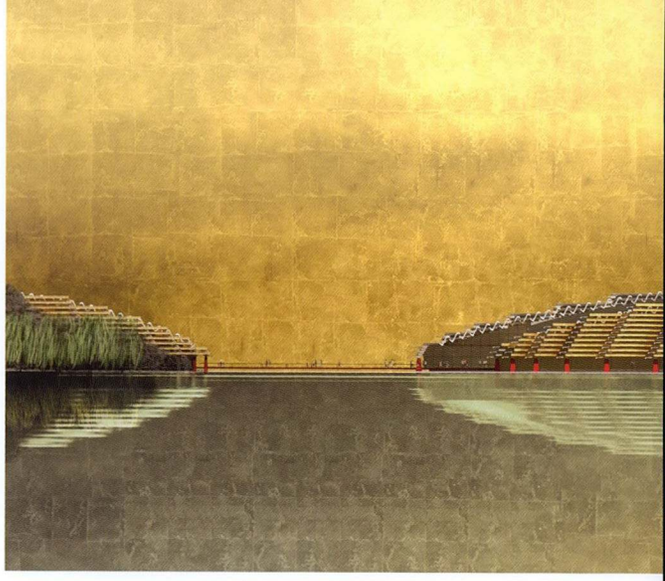




東京スカイツリー

建築主	東武鉄道 東武タワースカイツリー
所在地	東京都墨田区押上
敷地面積	約 36,900㎡
建築面積	約 31,600㎡
延べ面積	約230,000㎡
最高高さ	634m
構造規模	S・SRC・RC / B3・31F・P3
竣工	2011年12月 予定 2012年 春 開業予定

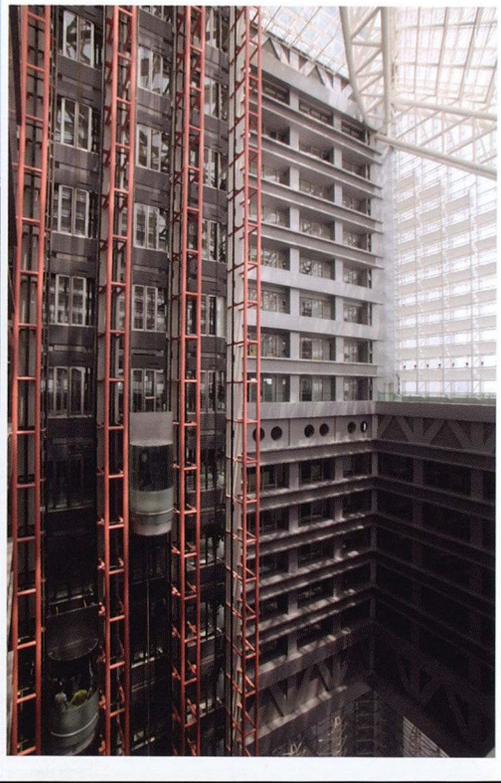


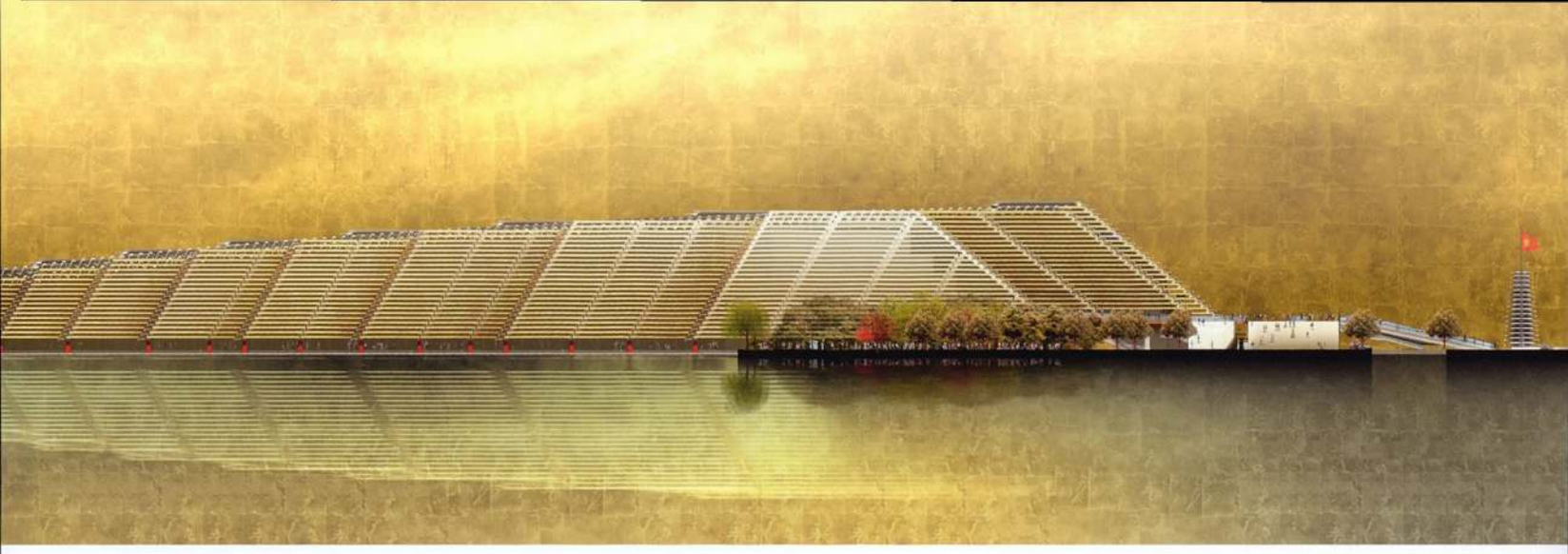


北京電視中心

建　築　主	北京電子台
所　在　地	北京市朝陽区建国路
敷地面積	44,900㎡
建築面積	11,764㎡
延べ面積	197,925㎡
構造規模	S・SRC・RC / B3・41F
竣　　工	2008年12月

（共同設計：北京市建築設計研究所
国家広播電影電視総局設計院
監理：北京遠達監理公司）







ベトナム国立歴史博物館

建　築　主	ベトナム社会主義共和国
所　在　地	ハノイ
敷地面積	約280,000㎡
建築面積	約 34,000㎡
延べ面積	約 88,000㎡
構造規模	RC・S・PCa / B1・5F



chronology
2000 — 2009


1

中銀大厦上海

建 築 主：上海浦東国際金融大厦
所 在 地：上海浦東銀城路
敷地面積：　9,919.00㎡
建築面積：　4,149.00㎡
延べ面積：116,945.00㎡
構造規模：SRC・S / B3F・53F・P1
竣 工 年：2000年8月
（設計：上海現代設計集団（上海建築設計研究院）
共同監理：上海建工設計研究院）


2

東北電力 ビッグスワンスタジアム

建 築 主：新潟県
所 在 地：新潟県新潟市清五郎
敷地面積：462,000.00㎡
建築面積：　36,702.67㎡
延べ面積：　88,417.71㎡
構造規模：SRC・S / 5F
竣 工 年：2001年2月
（共同監理：新潟県）


3

日本科学未来館

建 築 主：独立行政法人 科学技術振興機構
所 在 地：東京都江東区青海
敷地面積：19,636.65㎡
建築面積：　8,881.01㎡
延べ面積：40,589.74㎡
構造規模：S・RC / B2F・8F・P1
竣 工 年：2001年3月
（設備設計・監理：久米設計）


4

京エコロジーセンター
（京都市環境保全活動センター）

建 築 主：京都市
所 在 地：京都市伏見区深草池ノ内
敷地面積：17,500.00㎡
建築面積：　1,138.78㎡
延べ面積：　2,849.60㎡
構造規模：RC / B1F・3F・P1
竣 工 年：2002年1月
（共同設計・監理：京都市都市計画局営繕部）


5

地球環境戦略研究機関（IGES）

建 築 主：神奈川県住宅供給公社
所 在 地：神奈川県三浦郡葉山町上山口
敷地面積：20,974.49㎡
建築面積：　4,404.06㎡
延べ面積：　7,408.11㎡
構　　造：RC・SRC・S / B1F・2F
竣 工 年：2002年4月


6

ポーラ美術館

建 築 主：財団法人 ポーラ美術振興財団
所 在 地：神奈川県足柄下郡箱根町
敷地面積：56,572.24㎡
建築面積：　3,389.04㎡
延べ面積：　8,098.04㎡（美術館のみ）
構造規模：S・SRC（免震構造）/ B3F・2F
竣 工 年：2002年5月



7

泉ガーデン

建 築 主：六本木一丁目西地区市街地再開発組合
所 在 地：東京都港区六本木
敷地面積： 23,868.51㎡
建築面積： 11,989.73㎡
延べ面積：208,401.02㎡
構造規模：S・一部SRC・RC / B2F・45F
竣 工 年：2002年6月



8

理化学研究所 横浜研究所
（第1期～第3期）

建 築 主：独立行政法人 理化学研究所
所 在 地：神奈川県横浜市鶴見区末広町
敷地面積：46,338.65㎡
建築面積：17,174.11㎡
延べ面積：47,885.36㎡
構造規模：SRC・PCaPC・S・RC・W / 9F・P1
竣 工 年：2003年2月



9

トヨタインスティテュート グローバルラーニングセンター

建 築 主：トヨタ自動車
所 在 地：静岡県引佐郡三ヶ日町都筑字長坂
敷地面積：17,307.62㎡（業務区域10,766.13㎡）
建築面積： 3,735.41㎡
延べ面積：10,322.07㎡
構造規模：S・一部SRC / 5F・P1
竣 工 年：2003年8月



10

財団法人慈愛会 奄美病院

建 築 主：財団法人 慈愛会
所 在 地：鹿児島県名瀬市小宿
敷地面積：23,771.32㎡
建築面積： 6,147.57㎡
延べ面積：16,838.53㎡
構造規模：RC・S / 5F
竣工年：2003年9月
（共同設計・監理：下舞建築設計事務所）



11

京都大学 桂キャンパス

建 築 主：京都大学
所 在 地：京都市西京区京都大学桂
敷地面積： 186,000.00㎡
延べ面積：50,060.00㎡
構造規模：RC・PCaPC / B2F・5F・P1
竣 工 年：2004年3月
（監理：京都大学施設部）



12

京都大学医学部百周年記念施設
芝蘭会館

建 築 主：国立大学法人 京都大学
　　京都大学医学部創立百周年記念事業後援会
所 在 地：京都市左京区吉田近衛町
敷地面積：59,915.88㎡
建築面積： 1,240.91㎡
延べ面積： 2,609.65㎡
構造規模：RC・一部プレストレストコンクリート造 /
　　B1F・2F
竣 工 年：2004年3月



13

高山市立南小学校

建 築 主：高山市
所 在 地：岐阜県高山市岡本町
敷地面積：15,382.00㎡
建築面積： 5,032.05㎡
延べ面積： 6,643.54㎡
構造規模：W・RC / 2F
竣 工 年：2004年3月



14

兵庫耐震工学研究センター “E-ディフェンス”

建 築 主：独立行政法人 防災科学技術研究所
所 在 地：兵庫県三木市志染町
敷地面積：59,876.82㎡
建築面積：11,122.00㎡
延べ面積：16,642.90㎡
構造規模：S・SRC・RC / B1F・2F
竣 工 年：2004年3月



15

神戸栄光教会

建 築 主：宗教法人 日本基督教団神戸栄光教会
所 在 地：神戸市中央区下山手通
敷地面積：1,179.63㎡
建築面積：　798.85㎡
延べ面積：2,213.25㎡
構造規模：RC / B1F·2F·P2
竣 工 年：2004年９月



16

関電ビルディング

建 築 主：関電不動産
所 在 地：大阪市北区中之島
敷地面積：　21,089.32㎡
建築面積：　3,055.17㎡
延べ面積：106,483.88㎡
構造規模：SRC·RC·S / B5F·41F·P1
竣 工 年：2004年12月
（共同設計：ニュージェック
監理：関電不動産（支援：関西電力））



17

トヨタエンタプライズ “テラス蓼科”

建 築 主：トヨタエンタプライズ
所 在 地：長野県茅野市北山
敷地面積：102,812.09㎡
建築面積：　4,819.76㎡
延べ面積：　7,168.62㎡
構造規模：RC·W·S / 2F
竣 工 年：2005年５月



18

総合地球環境学研究所

建 築 主：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所（事業発注者）
SPC地球研サービス（PFI事業実施者）
所 在 地：京都市北区上賀茂本山
敷地面積：31,354.17㎡
建築面積：　6,256.28㎡
延べ面積：13,154.37㎡
構造規模：RC·一部S / B1F·2F
竣 工 年：2005年12月
（SPC地球研サービス・構成会社
設計監理：日建設計
建設：西松建設
維持管理：東急コミュニティー）



19

龍谷大学大宮学舎 大宮図書館 改修

建 築 主：学校法人 龍谷大学
所 在 地：京都市下京区堀川通
敷地面積：3,289.44㎡
建築面積：1,910.74㎡
延べ面積：6,924.95㎡
構造規模：RC·S / B1F·4F
竣 工 年：2006年１月



20

岐阜県 警察本部庁舎

建 築 主：岐阜県
所 在 地：岐阜県岐阜市薮田南
敷地面積：139,037.80㎡
建築面積：　4,852.59㎡
延べ面積：　24,786.12㎡
構造規模：SRC·S（免震構造）/ 11F·P1
竣 工 年：2006年１月
（共同設計・監理：岐阜県基盤整備部公共建築課
岐阜県建築設計監理協同組合
設計業務特別協同企業体）



21

エプソンイノベーションセンター

建 築 主：セイコーエプソン
所 在 地：長野県塩尻市大字広丘原新田
敷地面積：29,525.44㎡
建築面積：11,463.44㎡
延べ面積：53,372.05㎡
構造規模：S·SRC·RC（基礎免震）/ 7F·P1
竣 工 年：2006年２月



22

NHK 徳島放送会館

建 築 主：日本放送協会
所 在 地：徳島県徳島市寺島本町
敷地面積：2,579.57㎡
建築面積：1,902.04㎡
延べ面積：6,828.33㎡
構造規模：SRC·S（中間免震構造）/ B1F·4F·P1
竣 工 年：2006年４月



23

ミッドランドスクエア

建 築 主：東和不動産
　　トヨタ自動車
　　毎日新聞社
所 在 地：愛知県名古屋市中村区名駅
敷地面積：11,643.15㎡
建築面積：8,090.78㎡
延べ面積：193,450.74㎡
構造規模：S(制振構造)・SRC・RC / B6F・47F・P2
竣 工 年：2006年９月



24

エクシブ京都 八瀬離宮

建 築 主：リゾートトラスト
所 在 地：京都市左京区八瀬野瀬町
敷地面積：39,479.76㎡
建築面積：9,956.42㎡
延べ面積：40,399.02㎡
構造規模：RC・S / B1F・4F
竣 工 年：2006年10月



25

財団法人慈愛会 谷山病院

建 築 主：財団法人 慈愛会
所 在 地：鹿児島県鹿児島市小原町
敷地面積：24,115.65㎡
建築面積：7,015.95㎡
延べ面積：17,973.19㎡
構造規模：RC・S / 6F・P1
竣 工 年：2006年10月
（共同設計・監理：堂園設計）



26

淀屋橋フレックスタワー

建 築 主：積水ハウス
所 有 者：住友信託銀行
所 在 地：大阪市中央区高麗橋
敷地面積：1,530.39㎡
建築面積：945.73㎡
延べ面積：11,362.18㎡
構造規模：SRC / B1F・12F・P1
竣 工 年：2006年11月
（共同設計：大成建設株式会社一級建築士事務所
監理：大成建設株式会社関西支店）



27

フジテック滋賀製作所　Big Wing
研究塔・厚生棟・商品開発棟・実験棟・第２工場棟・他附属棟

建 築 主：フジテック
所 在 地：滋賀県彦根市宮田町
敷地面積：134,214.18㎡
建築面積：30,155.35㎡
延べ面積：37,956.76㎡
構造規模：S・RC / 2F・研究棟 40F
竣 工 年：2006年11月（一部2007年４月）
（共同設計：昭和設計・安井建築設計事務所
共同監理：昭和設計）



28

名古屋ルーセントタワー

建 築 主：牛島市街地再開発組合
所 在 地：名古屋市西区牛島町
敷地面積：14,100.54㎡
建築面積：5,892.67㎡
延べ面積：137,289.01㎡
構造規模：S・SRC・RC(制振構造) / B3F・42F・P1
竣 工 年：2007年１月



29

川本製作所 東京ビル

建 築 主：川本製作所
所 在 地：東京都豊島区南大塚
敷地面積：214.37㎡
建築面積：170.76㎡
延べ面積：931.35㎡
構造規模：SRC・S / 6F
竣 工 年：2007年１月



30

西南学院大学

建 築 主：学校法人 西南学院
所 在 地：福岡市早良区西新
敷地面積：39,803.78㎡
建築面積：7,288.10㎡
延べ面積：15,115.44㎡
構造規模：RC・S / B1F・2F・P1
竣 工 年：2007年３月



31

焼津信用金庫 本部社屋

建 築 主：焼津信用金庫
所 在 地：静岡県焼津市五ヶ堀之内
敷地面積：14,169.38㎡
建築面積： 2,770.94㎡
延べ面積： 6,113.22㎡
構造規模：RC・PCaPC / 3F・P1
竣 工 年：2007年4月



32

大手前大学さくら夙川キャンパス メディアライブラリー“CELL”

建 築 主：学校法人 大手前学園
所 在 地：兵庫県西宮市御茶家所町
敷地面積：17,394.63㎡
建築面積： 2,483.34㎡
延べ面積： 4,478.60㎡
構造規模：RC・SRC・S / B1F・2F・P1
竣 工 年：2007年6月



33

INAX 大阪ビル

建 築 主：INAX
所 在 地：大阪市西区新町
敷地面積： 638.64㎡
建築面積： 507.13㎡
延べ面積：6,060.94㎡
構造規模：S・SRC / B1F・13F・P1
竣 工 年：2007年12月



34

淀屋橋 odona
三井住友海上大阪淀屋橋ビル・淀屋橋三井ビルディング

建 築 主：三井住友海上火災保険（A棟）
三井不動産（B棟）
所 在 地：大阪市中央区北浜（A棟）
大阪市中央区今橋（B棟）
敷地面積： 3,170.67㎡（A棟）、 3,172.91㎡（B棟）
建築面積： 2,600.49㎡（A棟）、 2,589.25㎡（B棟）
延べ面積：46,818.82㎡（A棟）、44,936.57㎡（B棟）
構造規模：S・SRC・RC /
B4F・16F・P1（A棟）
B3F・16F・P1（B棟）
竣 工 年：2008年3月
（外装デザイン協力：
ペリ クラーク ペリ アーキテクツジャパン）



35

宮内庁 正倉院事務所

建 築 主：宮内庁
所 在 地：奈良県奈良市雑司町
敷地面積：81,616.20㎡
建築面積： 1,886.87㎡
延べ面積： 1,956.66㎡
構造規模：RC・Sおよびプレキャストコンクリート構造 / B1F・1F
竣 工 年：2008年3月



36

中部労災病院

建 築 主：独立行政法人 労働者健康福祉機構
所 在 地：名古屋市港区港明
敷地面積：65,342.30㎡
建築面積：13,937.75㎡
延べ面積：46,044.24㎡
構造規模：RC・S（病棟・中央診療棟のみ免震構造）/ 9F・P1
竣 工 年：2008年3月



37

かごしま環境未来館

建 築 主：鹿児島市
所 在 地：鹿児島県鹿児島市城西
敷地面積：10,162.44㎡
建築面積： 2,755.52㎡
延べ面積： 3,042.52㎡
構造規模：RC・PCa / 2F
竣 工 年：2008年5月
（共同設計・監理：下舞建築設計事務所）



38

いちい信用金庫 新本店

建 築 主：いちい信用金庫
所 在 地：愛知県一宮市若竹
敷地面積： 3,927.50㎡
建築面積： 1,386.89㎡
延べ面積：10,286.70㎡
構造規模：SRC・・PCaPC・S（免震構造）/ 12F・P1
竣 工 年：2008年9月
（共同設計監理：垣見設計事務所）



39

ろうきん肥後橋ビル

建 築 主：近畿労働金庫
所 在 地：大阪市西区江戸堀
敷地面積： 1,617.99㎡
建築面積： 1,213.98㎡
延べ面積：13,515.67㎡
構造規模：RC・S(中間免震構造) / B1F・13F・P1
竣 工 年：2008年10月



40

日本経済新聞社 東京本社ビル

建 築 主：大手町開発、日本経済新聞社
所 在 地：東京都千代田区大手町
敷地面積：13,399.08㎡
建築面積： 9,156.74㎡
延べ面積：74,751.03㎡
構造階数：S・SRC・RC(柱：一部CFT) / B3F・31F・P2
竣 工 年：2009年４月
(共同設計・監理：三菱地所設計)



41

出雲市新庁舎

建 築 主：出雲市
所 在 地：島根県出雲市今市町
敷地面積： 9,596.82㎡
建築面積： 5,091.07㎡
延べ面積：24,868.00㎡
構造規模：S・RC・SRC(地下部集中制振構造) /
B1F・7F
竣 工 年：2009年４月
(共同設計・監理：みずほ設計)



42

光雲荘 移築

建 築 主：パナソニック
所 在 地：大阪府枚方市菊丘南町
敷地面積：1,005,219.50㎡
建築面積： 893.95㎡
延べ面積： 995.59㎡
構造規模：W・RC / 2F
竣 工 年：2009年４月



43

シティタワーズ豊洲 ザ・ツイン

建 築 主：住友不動産
阪急不動産
敷地面積： 13,826.52㎡
建築面積： 6,040.89㎡
延べ面積：126,619.72㎡
構造規模：RC / B1F・48F・P1
竣 工 年：2009年６月
(共同設計・監理：日建ハウジングシステム
構造設計・監理：KAJIMA DESIGN)



44

日本興亜日本橋ビル

建 築 主：日本興亜損害保険
所 在 地：東京都中央区日本橋
敷地面積： 1,871.33㎡
建築面積： 1,763.59㎡
延べ面積：22,014.57㎡
構造規模：S・一部SRC・RC / B2F・11F・P2
竣 工 年：2009年８月



45

(仮称) 中之島フェスティバルタワー

建 築 主：朝日新聞社、朝日ビルディング
所 在 地：大阪市北区中之島
敷地面積： 8,150㎡
建築面積： 5,400㎡
延べ面積：146,000㎡（東棟）
構造規模：S・SRC・RC / B3F・39F
竣 工 年：東棟 2012年（予定）



46

梅田阪急ビル

建 築 主：阪急電鉄
所 在 地：大阪市北区角田町
敷地面積：17,465.64㎡
建築面積：11,764.54㎡（増築部分）
延べ面積：253,896.65㎡（増築部分）
構造規模：S・一部SRC・RC / B3F・41F・P2（既存
B3F・32F・P1）
竣 工 年：2012年春 予定

フォトクレジット（五十音順/敬称略）

組織とリアルな物語

エスエス	11左
岡本公二	11右
ナカサアンドパートナーズ	13
東出清彦	14
堀内広治	12

座談会 1

エスエス	17、20
黒田青巌	18
東出清彦	19

座談会 2

エスエス	23左、26左、26右
岡本公二	23右、25左
車田　保	24右
スタジオムライ	25右
東出清彦	24左

works

新　良太	47上
岩崎　稔	48
エスエス	32下左・下中、33、36上、37上右・上左、38左上
岡本公二	35、40
柄松　稔	44下、49下
川澄建築写真事務所	32上
車田　保	36下、42上左、43上
写真のイナトミ	42下、43下右・下左
鈴木研一	31、41
ナカサアンドパートナーズ	46下右・下左
東出清彦	30、34、45
堀内広治	38左・右中・右下
村井　修	29、37下、46上

東京スカイツリー　CG提供：東武鉄道㈱・東武タワースカイツリー㈱

chronology

石黒　守	6
エスエス	1、4、14、20、27、28、29、31、32、38
上山スタジオ	2
川澄建築写真事務所	7
車田写真事務所	13、17
サララ	17
篠澤建築写真事務所	8、43
秀英	36
新写真工房	23、40
伸和	24
センターフォト	9
岡本公二	10、12、25、26、30
ナカサアンドパートナーズ	3
ナトリ光房	18
花城辰男	11
東出清彦	15、19、22、33、34、39
フォト・ビューロー	16
古田写真事務所	41
三好芳昭	37
三輪晃久写真研究所	5
村井修	35、42、44
ロココプロデュース	21

日建設計　編集委員

富樫　亮
下坂浩和
三井祐介
山野睦代
鳥海宏太
大西由希子
前田衛（事務局）

372
構造の頁

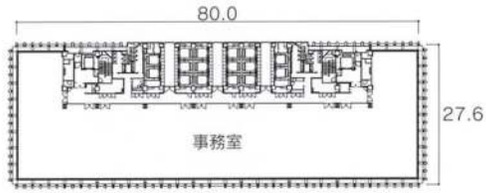
中之島ダイビル～プレキャストSRC柱の設計と施工～

石田大三
㈱日建設計構造設計室主管

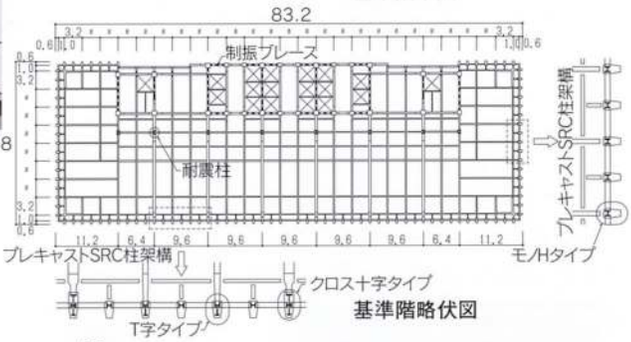

全景


事務室内観

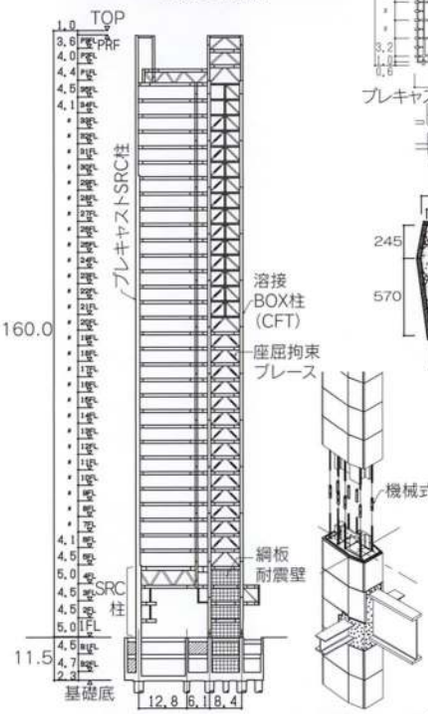
所在地　大阪市北区中之島３丁目１番他
建築面積　2693㎡（延床面積　79543㎡）
階数高さ　地下２階、地上35階、塔屋３階、160m
主要用途　事務所
施　主　ダイビル株式会社
設計監理　日建設計
施工者　鹿島建設　PC製作／ピーエス三菱ほか
工　期　2006年10月～2009年３月
基礎地業　場所打ちコンクリート杭地業
構造種別　鉄骨造、プレキャストSRC造（外周柱）、SRC造及びRC造（地下）、履歴型座屈拘束ブレースを用いた制振構造



基準階平面

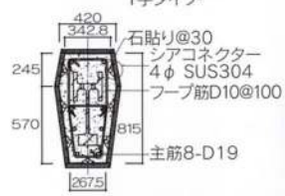


基準階略伏図



構造概要図

現場接合イメージ図



PCSRC断面図


変形性能確認実験


PCSRC製作状況


石型枠セット状況

本建物の建築計画においては、品格のあるハイグレードな高層オフィスビル、環境共生型の外装システムを基本方針としている。

環境共生型の外装システムとして、建物外周部分の柱と庇を縦ルーバー及び水平ルーバーとして日射遮蔽を行うことにより、環境負荷を低減する計画である。よって、基準階事務室の外周部分の柱は@1600で配置された細柱のアウトフレームとなっており、また、各柱周囲は石貼り仕上げとして、格調高い外観ファサードの実現を目指した。

外周柱の構造設計

外周部分の柱は、構造的に本柱であるため、長期的にも建物重量を支え、地震時等には水平力を負担する。外装デザイン上は石貼り仕上げであり、採光面確保の観点から、柱の見つけ幅を最小限に抑えることが重要となる。通常の高層ビルのように鉄骨柱に乾式工法で石貼りする工法では、柱の見付け幅を十分細く出来ないことから、外周柱をプレキャストのSRC柱（以降PCSRC柱）とし、PC工場にてコンクリート打設する際に石材も打ち込む方法を採用した。この方法の採用により、プレキャスト化による品質確保、高所における石貼り作業の軽減も可能である。

PCSRC柱は@1600にて配置され、内蔵鉄骨の形状により、クロス十字タイプ、T字タイプ、モノHタイプの３タイプがある。クロス十字タイプとT字タイプは、XY両方向の水平力を負担し、モノHタイプは主としてH形鋼の強軸方向水平力のみを負担する。

石貼りディテールと要求変形性能

PCSRC柱への石貼りのディテールには、石材の重量を支持するシアコネクターと裏面処理剤を用いている。裏面処理剤は、防水及びエフロレッセンスによる石表面の汚れの防止のほかに石材とコンクリート両方に対する接着性、地震時の柱変形を直接的に石材へ伝達しないようにするための緩衝材として使用している。大地震時における外周柱の変形に対して石材の割れが生じないように裏面処理剤の材質と厚さを選定した。選定した仕様について、石貼り柱の変形性能確認実験を行い、問題ないことを確認している。

PCSRC柱の工場製作と現場施工

プレキャストSRC柱は、２層分を１ピースとして製作した。型枠内に裏面処理済みの石材を敷き並べ、予め配筋された鉄骨を挿入、鉄骨現場接合部分の精度確認後、Fc60の高流動コンクリートを打設する。コンクリートを投入する型枠上面部分の石貼りは、コンクリートを天端まで打設後、コンクリートの上から石材を敷き並べる方法とした。

現場接合については、鉄骨及び鉄筋の接合後、仕上げ石材を型枠がわりとして周囲に設置して、高流動コンクリートを打設した。コンクリート投入口となる面の石貼りは、後施工となる。

おわりに

超高層建物の柱としてプレキャストSRC柱を採用し、製作施工において高流動コンクリートを有効に活用することで、石貼り仕上げの細柱による外観を実現した。

（いしだ　だいぞう）

469

法令コーナー

大阪府屋外広告物条例及び同施行規則の一部改正

森下嘉弘

大阪府住宅まちづくり部建築指導室建築企画課
景観推進グループ課長補佐

大阪府では、良好な景観形成を推進するため、景観法の積極的な活用を図ることとしており、平成20年10月に、大阪府景観計画を策定し、法に基づく届出により建築物等の規制・誘導を行っている。

屋外広告物は、まちの景観を形成する重要な要素であり、これら新たな景観施策と連携した屋外広告物行政が求められている。

また、道路内への屋外広告物の掲出要望の高まりなど、公共団体が有する施設等への屋外広告物を取り巻く社会的認識も大きく変化している。

これらの状況に対応するため、大阪府では、平成21年10月、大阪府屋外広告物条例及び同施行規則の一部を改正した。

経過

平成20年10月
・大阪府景観計画の策定・施行
・「新たな景観施策や社会情勢に対応した今後の大阪府の屋外広告物の規制のあり方」について、大阪府屋外広告物審議会に諮問
平成21年6月
・大阪府屋外広告物審議会　答申
平成21年9月
・「今後の大阪府の屋外広告物規制の基本方針」を策定
・規則改正
平成21年10月
・条例・規則改正

表示制限区域の追加（平成22年1月1日施行）

大阪府が定める7つの景観計画区域を許可区域とし、うち下記の区域を新たに表示制限区域に追加する。

①表示制限路線に2路線を追加
・第二京阪道路
・国道170号（大阪外環状線）

併せて、広告物の相互間距離規制（100m以上）の廃止等、実情に即した規制への見直しを行う。

②面型表示制限区域を新設
・淀川等沿岸区域
・生駒山系区域

・遠景に影響する「屋上広告物」の高さ制限を強化する（建物の高さの2/3以内→1/3以内）。
・生駒山系区域の市街化調整区域における非自家用広告物の面積制限を強化する（7㎡以内）。

図1
表示制限区域図
（追加）

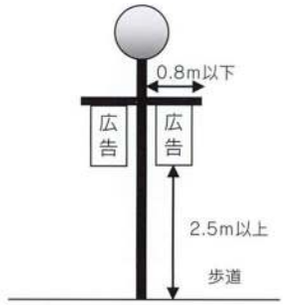


公共施設等への屋外広告物掲出（平成21年10月30日施行）

以下の屋外広告物については、禁止物件・禁止区域などの規制の適用を除外し、知事の許可を得たうえで公共施設等へ掲出できる。

①地域における公共的な取組への費用充当を目的とする広告物（「地域における公共的な取組みに要する費用への充当を目的とする広告物の道路占用の取扱いについて」<平成20年3月25日国通知>によるもの）
・イベントや道路の清掃・美化活動、防犯活動等への費用充当
・街灯やベンチ、花壇などの利便施設の整備等への費用充当
Ex.街灯へのバナー（垂れ幕）広告など
※広告物の設置場所は、道路管理者が管理する道路施設や、公共団体が管理する沿道の公園や公共施設の敷地などに限る。

②地方公共団体が行う道路施設の整備・維持管理費用への充当を目的とする広告物



（禁止物件である）街灯への広告掲出例
（広告料収入をイベントや美化活動等に充当するもの）



（禁止区域にある）ベンチへの広告掲出例
（広告料収入をベンチの設置・維持管理費に充当するもの）

図2　掲出例

＊許可にあたっては、関係する行政機関（道路管理者、交通管理者、屋外広告物担当・景観担当・まちづくり担当部署等）の意見を聴くこととしている。また、取扱方針を策定した上で運用する。
＊広告物には、広告料を地域活動等に要する費用に充当する旨の記載が必要となる。
（Ex.この広告の収益金は、ベンチなどの施設整備・管理等への費用に充てている）

【問い合わせ先】
大阪府住宅まちづくり部建築指導室
建築企画課　景観推進グループ
電話 06-6944-9333（直通）

※許可・届出等の窓口は、管轄の府土木事務所（管理グループ）となる。

（もりした　よしひろ）

10

再読　関西近代建築
――モダンエイジの建築遺産――

香里団地

和田　康由

所在地／大阪府枚方市香里ケ丘
設計／基本設計：京都大学西山卯三研究室
実施設計：政府関係特殊法人日本住宅公団大阪支所
施工／安藤組、佐藤工業、今西組、淺沼組、大日本土木
別子建設など、計18社（建築工事のみ）
竣工／昭和33年～42年（住宅のみ）
構造／鉄筋コンクリート造（住宅のみ）
規模／地上1階、地上4階、地上5階、地上10階（住宅のみ）
種別／住宅・住宅地

■香里団地とその交通手段

当団地は、昭和60年発行の住宅・都市整備公団（日本住宅公団と開発公団の統合）関西支社『まちづくり30年―近畿圏における都市開発事業―』によると、事業名称を枚方都市計画香里土地区画整理事業といい、施行者は昭和30年７月に設立した政府関係特殊法人日本住宅公団、施行期間は昭和32年７月～37年６月、施行面積は155.2ha、計画人口は22,000人、人口密度は140人／ha、計画戸数は5,850戸、公団用地買収率は84.3％、減歩率は38.8％と発表している。

公団によって実際に建てられた共同住宅の住宅戸数は、建替事業のはじまる直前平成４年度の時点では、賃貸の場合専用住宅4,835戸、店舗付住宅46戸、分譲の場合専用住宅152戸の総計5,033戸である。当時、公団が手がけた最大規模の住宅地開発の一つで、その後に開発された千里ニュータウンなどに、少なからず影響を与えていた。

ベッドタウンとして開発された香里団地への主な交通手段は、京阪電車と京阪バスである。大阪の中心部京阪本線淀屋橋駅から乗車すると最短で約27分、京都三条からは約30分で枚方市駅に着く。枚方市駅南口からは、京阪バス②番のりばより、新香里経由京阪香里園行きか五本松・公孫樹通経由枚方公園駅前行きに乗ると、約12分で住宅地の中心部に着く。新香里バス停で降りると商業施設や図書館などのある中心部に、公孫樹通バス停で降りると１戸建て住宅地に着く。開発から半世紀を迎えた住宅地は、緑のトンネルとして有名な東西道路の新香里中央線愛称ケヤキ通り、南北道路の中振高野線愛称イチョウ通りや数多くの公園・緑地があり、落ち着いた佇まいをつくり出している。

■西山研究室マスタープランの理念

香里団地の開発が公団に決まったのは、設立後間もない時期であった。同31年はじめに、開発に先立って京都大学西山研究室が公団からマスタープランの立案を委嘱された。

西山研究室に与えられた期間はわずか約１カ月という短い期間であったが、京都大学の造園・土木両教室の支援を受けて、第Ⅰ案、第Ⅱ案を公団に提出、その後若干の修正を加えた第Ⅳ案を再提出した。昭和28年度新制大学制度発足後に開設した、西山研究室のはじめての大仕事であった。研究室は西山卯三を筆頭に、その後都市計画・住宅問題などの分野において中心的立場で活躍する絹谷祐規、巽和夫、吉野正治、三輪泰司、足達富士夫、早川和男ら錚々たる人たちが名を連ねていた。マスタープランは、西山の型計画論、近隣住区論、生活圏段階構成論を集約したマスハウジング論の具現化と捉えられる。香里の経験から西山研究室は香里をはるかに超える千里ニュータウン開発の原初計画となる「北大阪丘陵計画」を策定していた。

香里団地の敷地は、山や谷がひだのように織りなす小高い丘陵にあった、旧東京第二陸軍造兵廠香里製造所の跡地を含む地域で、区域の約80％が国有地である。その立地は、大阪中心部から約20kmの東北の鬼門にあたり、京阪本線枚方市駅から南約2.4km、枚方公園駅から南東約2.5km、香里園駅からは東約1.2kmに位置する。

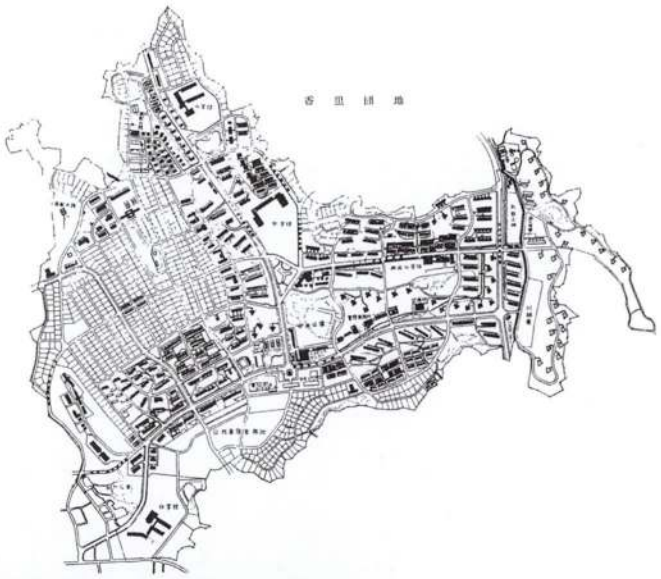
マスタープラン立案にあたって西山研究室は、本団地の居住者層の主流を大阪市への通勤者、そのうちの限られた層と捉え、公団の正常な事業経営と安定した需要層確保のために、以下の４項目を開発の条件として掲げていた。



①香里ケ丘九丁目　当初住棟の現状（一部）



②空中写真（全体）



③昭和37年現況図（『建築と社会』昭和37年11月号より）



④空中写真（部分）

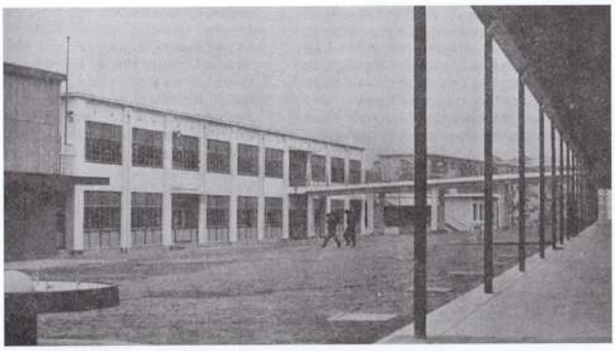


⑤星型住棟と板状型住棟

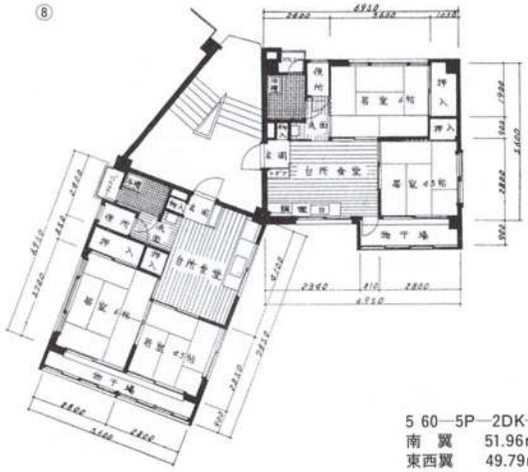


⑥新香里中央線道路西より東を望んだ風景

「建築と社会」第40輯３号（昭和34年３月号）より

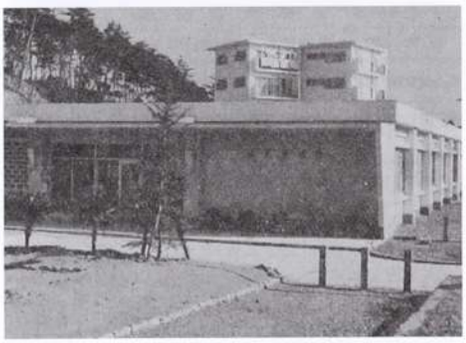


⑦

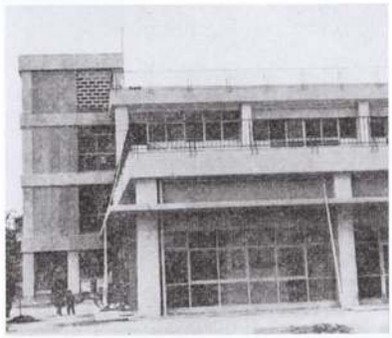


⑧

5 60—5P—2DK—3
南　翼　51.96㎡
東西翼　49.79㎡



⑨



⑩

⑦小学校＊
⑧星型住棟平面図＊
⑨診療所＊
⑩管理棟＊
＊印『建築と社会』昭和34年3月号より



⑪香里ケ丘九丁目　階段室型住棟の現状



⑫香里ケ丘九丁目　星型住棟の現状



⑬新香里中央線ケヤキ通りの現状



⑭センター付近建替の現状（西から東を見る風景）



⑮ケヤキ通りに面する片廊下型住宅の現状



⑯香里ケ丘一丁目　階段室型住棟の現状

1．*京阪沿線に通勤先をもつもの、または京阪天満ターミナルに便利なところに通勤先をもつもの。*
2．*大都会をはなれた自然環境のよい地域を欲するもの。*
3．*5,000戸という大団地にともなう公共施設の完備した住宅地に魅力を感じるもの。*
4．*現下の極度の住宅困窮から、やむをえず入居するもの（公団賃貸住宅）、土地入手難でとにかく宅地を求めるもの（宅地分譲）*

それらの条件を踏まえて居住階層の分析を行い、その結果をもとに開発計画の基本方針として以下の4項目を定めている。

1．*現在の起伏ある自然的風趣を可及的にのこし、特徴ある風格の団地とする。利用困難な急斜面は自然緑地としてのこす。*
2．*公園緑地を大きくとり、維持管理の方法にも工夫をこらす。*
3．*教育施設を充実させ、南部枚方の中心をここにつくりだす。*
4．*その他魅力的な施設（野外劇場、老人ホーム、遊園地、山林と結合した公園など）を設ける。*

上記を受けて、幹線道路、起伏のある地形の利用、住戸の配分、住区と学校、乳幼児施設、緑化、開発順序などが分析・検討され、提案されている。

■日本住宅公団の実施案

公団は、西山研究室の構想をもとに事業実施上の問題点をチェックした上で、公団独自の修正を加えて開発計画を作成したとしている。その計画の方針は下記のとおりである。

1．*最寄り駅までの距離を考慮し、バス輸送による交通体系を確立するとともに、自立性のある市街地とするため、地区中央付近に、中央公園とともに行政、商業等の中心施設を計画し、地区の核として、日常生活の利便性を図る。*
2．*地区周辺部に保存緑地を設けるとともに、景観の良い樹林地を公園に取り込み、自然の景観保存に努める。*
3．*土工事は極力大土工を避けるが、集合住宅用地と宅地分譲地などの種別による利用度に重点を置いた整地計画を立てる。*

などを掲げていた。

土地利用計画では、公共用地が38.6ha24.9%、公益的施設用地18.3ha11.8%、住宅用地98.3ha63.3%と配分し、人口計画では、共同住宅4,250戸に対して14,875人、独立住宅600戸に対して7,040人、公益的施設183,531㎡に対して85人の規模であった。

住戸形式には中層の1DK（32.26㎡）・2K（39.6㎡）・2DK（42.98㎡）・2DK（50.42㎡）・3K（49.88㎡）やテラス付の2D（45.71㎡）・3DK（49.57㎡）の7種類が単身者向け、新婚夫婦向け、家族向けとして計画された。実際にはそれらに加えて3D、4K、4DK、店舗付住宅などが建てられ社会の要求に応える供給を行っていた。

住棟形式は4～5階建てが主流で、階段室型や片廊下型のような板状型のほか、スターハウスと呼ばれる星型住棟も用意され、景観を意識した配置が行われている。

なお昭和33年10月、賃貸住宅や分譲住宅の大量募集を、枚方菊人形館内ではニュータウンのパノラマ式模型などを展示、阪神・阪急・近鉄・高島屋・大丸・松坂屋の百貨店ではモデルルームやパネルの展示、住宅相談所を開設するなど、香里団地の宣伝は大仕掛けなものであった。さらに、住宅地を有名にしたのは、同37年2月7日当時のアメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディの実弟ロバート・ケネディ司法長官夫妻の視察、作庭家重森三玲の設計による日本庭園「以楽苑」、市民が選んだ枚方八景などである。

昭和34年度日本都市計画学会第一回石川賞を計画設計部門「香里住宅団地計画」で受賞した。受賞者は公団の諫早信夫、草野茂、元吉勇太郎、藤原巧であった。この住宅地開発が戦後の大規模住宅地開発の先駆けをなすものとして評価されたといえよう。

■現状と今後

公団は、昭和56年に同50年設立の宅地開発公団と統合して住宅・都市整備公団に、平成11年に都市基盤整備公団に改組後、平成16年に昭和49年設立の地域振興整備公団の地方都市開発整備部門を統合して、国土交通省所轄独立行政法人都市再生機構に生まれ変わった。都市再生機構の略称は都市機構、URまたはUR都市機構と呼ばれている。

公団は、平成5年度から建替事業をはじめ、住棟の建替や賃貸住宅が建てられていた土地を集約して創出した土地を民間に売却するなどを行っていた。おおむね同10年度からは、入居促進の観点から和室の洋室化や間取りの改善などを実施していた。現在のところ、住戸の半数以上が建替られている。

機構は、同19年12月26日「独立行政法人整理合理化計画（同19年12月24日閣議決定）」を受けてUR賃貸住宅ストックを国民共有の貴重な財産として再生・再編するため、同30年度までの方向性を定める「UR賃貸住宅ストック再生・再編方針」を策定している。その策定の内容は基本的類型として①ストック活用、②団地再生（全面建替、一部建替、集約）、③用途転換、④土地所有者等への譲渡、返還等の4項目を掲げている。

香里団地は団地再生（集約）とされ、集約とは団地の一部の住棟を除却、規模を小さくし、残りの住棟は引き続き維持管理していくという扱いである。当初団地はA～Eの5地区に分けて住宅が供給され、現在D地区の香里ヶ丘四丁目と九丁目の一部とE地区の香里ヶ丘一丁目の一部とが当初の住棟をよく残しているが、ほかの地区は高層住棟などに建替られている。D地区には階段室型住棟、スターハウスとして人気を博した星型住棟やピロティを有する片廊下型中層住棟など、E地区には階段室型中層住棟が数棟現存し、使用されている。また、E地区に隣接する公団による分譲住宅も現存する。

なお、団地には、昭和34年8月に香里団地自治会が結成され、7千部の自治会新聞を発行するなど活発な活動をしたが、後に解散し、昭和42年香里団地地区連絡協議会として生まれ変わり活動の場を広げていた。しかし、建替などに伴って次第に住民間の考え方の相違により解散する。その後、それぞれに小規模な自治会が形成されるが以前ほどの活発な活動は行われていない。

団地は、住棟の老朽化や住民の高齢化、さらに建替による住棟の高層化、民間による高層マンションの供給、新しい住民の登場、環境の変化など多くの問題を抱えるが、便利で快適な住宅地としての再生が進められている。

参考・引用文献
1）住宅・都市整備公団関西支社『まちづくり30年―近畿圏における都市開発事業―』昭和60年12月27日
2）日本住宅公団大阪支所諫早信夫「香里ニュータウンの紹介」「共同住宅特集」『建築と社会』日本建築協会　昭和34年3月
3）枚方市助役藤井幸夫「宅地開発と地方財政―枚方市の場合―」「宅地開発」『建築と社会』日本建築協会　昭和37年11月
4）京都大学西山研究室「香里団地計画―大阪府下枚方市」『国際建築』Vol.24　NO.6　昭和32年
5）芝淵荘夫「香里団地の設計と建設」「新都市開発の背景とその方法」『国際建築』Vol.26　NO.4　昭和34年
6）住田昌二・西山文庫編者『西山卯三の住宅・都市論』株式会社日本経済評論社平成19年5月25日
7）枚方市『枚方市史　第五巻』枚方市史編纂委員会　昭和59年3月31日
など

（わだ　やすよし／大阪市立都島第二工業高校）

理事会

第6回常任理事会
11月25日（水）16：00～17：30
出席者　中井会長ほか5名
議　事（1）平成21年度収支予算執行状況
（2）大阪都市景観建築賞への参画について
（3）後援名義等の使用承諾
（4）建築関係団体忘年会
（5）その他報告事項等

編集委員会

第8回編集委員会
11月11日（水）18：00～19：30
出席者　設楽委員長ほか6名
議　事（1）12月号特集「構造家日記～頭の中をのぞいてみたら～」の報告
（2）1月号特集「日建設計創業110周年」の報告
（3）2月号特集「建築とエコ技術」の報告
（4）3月号特集「東海支部」の報告
（5）各小委員会・分科会の報告
（6）その他―8月号特集、第3種郵便物からメール便への切り替え、来年の表紙デザイン―
（7）収支状況報告

第8回法令分科会
11月16日（月）15：00～16：30
出席者　文山委員ほか4名
議　事（1）「法令コーナー」の企画
（2）2010年10月号法令特集の企画のための情報収集
（3）情報交換

第8回構造分科会
11月6日（金）18：00～20：00
出席者　岸本幹事ほか4名
議　事（1）12月号「構造家日記～頭の中をのぞいてみたら～」特集の企画
（2）編集委員会の報告
（3）「構造の頁」の企画

第6回設備分科会
11月4日（水）18：00～20：00
出席者　赤澤幹事ほか2名
議　事（1）見学会の企画
（2）「設備の頁」の企画
（3）新企画の提案
（4）来年の「設備特集」
（5）来年の委員体制
（6）超高層・高層マンションやオフィスビル計画時への提案―検討中―
（7）"測定機器シリーズ"―検討中―

第8回作品作風小委員会
11月26日（木）19：00～20：00
出席者　居内副委員長ほか7名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）前回の編集委員会の報告
（5）その他

第8回広告企画小委員会
11月11日（水）17：00～18：00
出席者　設楽委員長ほか2名
議　事（1）12月号特集「構造家日記～頭の中をのぞいてみたら～」報告
（2）1月号特集「日建設計創業110周年」
（3）2月号特集「建築とエコ技術」
（4）3月号特集「東海支部」
（5）広告掲載状況の報告
（6）収支状況報告

第8回10年委員会
11月5日（木）18：30～19：30
出席者　前川副委員長ほか5名
議　事（1）第3回学生のための現場見学会
（2）第2回続大阪「かくれたええとこ」再発見コンクール

事業委員会

第5回情報見学小委員会
11月12日（木）18：00～19：00
出席者　瀬戸川委員長ほか6名
議　事　本年度事業について

出版委員会

第7回出版委員会
11月19日（木）18：00～19：30
出席者　上原委員長ほか4名
議　事（1）プロのノウハウと特装本の経過報告
（2）進行中のテーマについて
（3）その他

教育委員会

第55回工高生デザインコンクール表彰式
11月14日（土）14：00～16：00
場　所　ドーンセンター4階大会議室3
出席者　受賞者9名
（教員等同伴5名）
審査員　笹村欽也審査委員長ほか3名
委　員　神野副委員長ほか4名

特別委員会

第4回「建築と社会」史料研究会
11月24日（火）18：00～19：40
出席者　山形委員長ほか4名
議　事（1）今後の連載企画内容の検討
（2）「住まいまちづくり教育普及協議会」について

第6回　群　像
11月21日（土）14：00～20：00
出席者　永野一朗（インタビュアー）ほか4名
議　事　関西の建築界「群像」登場者の人間像に迫るためのインタビュー
㈱竹中工務店・荒木邦彦氏



第55回工高生デザインコンクール表彰式





荒木 邦彦　—ARAKI KUNIHIKO—



神戸新聞松方ホールにて

学歴
1976年　大阪工業大学建築学科卒業

経歴
1976年～株式会社竹中工務店

受賞歴
1987年　愛知県新文化会館設計コンペ優秀賞（音響設計担当）
1992年　日本CGグランプリ'92可視化部門優秀賞
1998年　アルバーアアルト生誕100周年記念コンペ入賞（音響設計担当）

論文発表歴
国際音響学会シンポジウムASVA97
　　ホール音響設計システムとその応用例（1997.03）
日本音響学会 宝塚バウホールの音響設計（1978.10）　他8件
日本建築学会 改良型湿式浮床の開発（2002.09）　他4件
その他論文・著書6件

研究開発
ホール音響計画システム、大型スラブの床衝撃音予測システム
集合住宅 音環境体感システム、湿式浮床工法 PSブロック　他6件

写真撮影 河合止揚　大林組
聞き手　永野一朗（大林組）

ヒビキをつくるカタチ

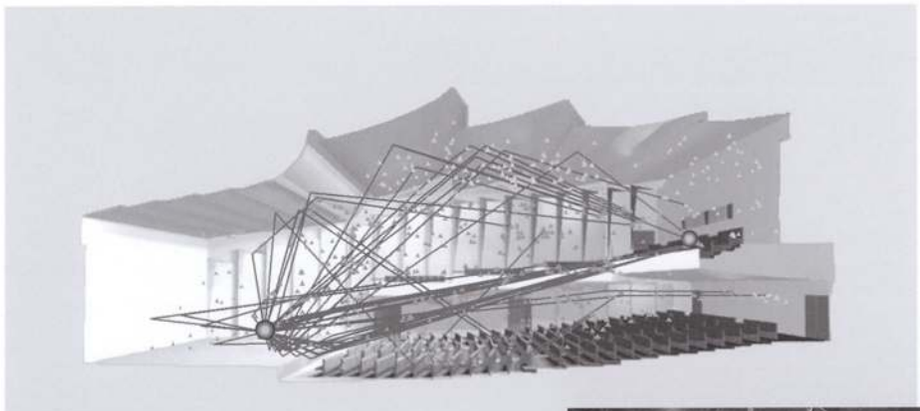
街にクリスマスのディスプレイが咲き始めた初冬の神戸で、荒木邦彦氏は快く我々を迎えてくれた。舞台となった神戸新聞松方ホールは、音響設計の最先端を走り続ける氏の代表作の1つである。ホールの特性や設計プロセスを丁寧に解説するその立ち居振る舞いには、温厚な人柄とホールへの想いが表れている。「ホールの設計とはカタチをつくること」と、道中で氏は何度となく我々に語りかけてくれた。最初はその真の意味がよく理解できていなかったのではあるが。

建築学生であった氏が音響設計を生業としたきっかけは、大学の卒業設計においてオーディトリウムの設計を行ったことに始まる。その後、株式会社竹中工務店技術研究所、同社大阪本店設計部ADR音響設計室を経て現職、音響設計一筋のキャリアを重ねて来た。「師匠はいない」と語るように、王道が確立されていない音響の世界におけるその道程は、トライアンドエラーの繰り返しであったことは想像に難くない。建築設計のお手伝い的なものと見なされがちであったかつての音響設計家の立場を脱却し、基本計画段階から「よいホール」を創るために建築家とコラボレーションできる環境の構築に長年奔走してきた。

転機は1992年。「ホール音響計画システム」の完成である。音の拡がりをシミュレートするシステムと、実際に音を聴くシステムをダイレクトに結びつけた点が画期的なポイントだった。システム上で立体的にビジュアル化された建築モデル内を、音そのものの伝搬ルートが点と線となって可視化されリアルタイムに動き出し、さらにこれらシミュレートされた音の響きを実際に聴くことが出来るのだ。同システムは24個のスピーカーを具備する「音響プレゼンテーションルーム」という形で、2006年に同社大阪本店に新設されている。世界の名ホールにおける音の拡がりをルーム内のスクリーンで視て、同時にその音を聴けば「ホールのカタチが音のヒビキをつくる」と冒頭で語っていた意味は一目（一聴）瞭然。音響デザイン＝建築デザイン、つまり床、壁、天井をデザインすることは既に音づくりそのものなのだ。システムの完成を機に音響設計のプロセスは大きく変貌し、建築の基本計画段階からホールのカタチについて積極的に関わることとなった。現在、氏が率いる音響デザイングループは、劇場やホールのデザインだけでなく集合住宅の騒音シミュレーションまでこなし、日々多忙を極めている。

では、その究極的な到達点は一体どこにあるのか。「演奏者の想いを届けたい」。氏が標榜するのは演奏者の精神や想いが込められたアコースティックな音を、そのまま観客にリアルに伝えることであり、すなわちそれは両者の心を繋ぐことを意味する。クリアで透明感のある音を指向する現代においてデジタルは有効な手段であるが、アナログな音をデジタル化する際には必ず欠落する部分が存在するのだと言う。音響設計に留まるのみならず、昨今のデジタル至上主義に待ったをかけ、アコースティックな音の全てを欠落させることなく再現することで「本物の音を後世に遺していくことが我々の使命と考えている」。

ホールの「カタチ」が音の「ヒビキ」をつくるのであるとするならば、建築や音響と言った枠を超えて人間性の在り方を追及する氏の信念こそ、人と人の「ヒビキ」をつくる目に見えない「カタチ」であると言えるのではないだろうか。



音響性能を
視て確認する
松方ホール音響シミュレーション

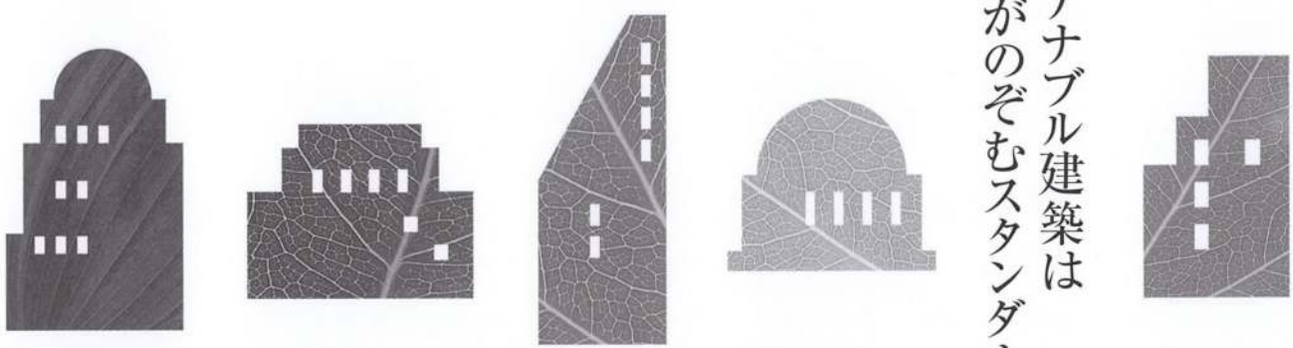


24個のスピーカで
完成時の音を聴く
音響プレゼンテーションルーム

私たちはこのシステムを使って、
ホールの完成時の音響性能を
実際に目で視て耳で聴いて設計を進めています。

音を目で視て聴いて設計できる
音響シミュレーションシステム

TAKENAKA
CORPORATION



サステナブル建築は
地球がのぞむスタンダード。

SUSTAINABLE WORKS®
サステナブル・ワークス

持続可能な社会を未来へ

例えば、生物多様性の保全、資源循環の推進、地球温暖化対策‥‥。
美しい地球を未来の子供たちに遺すため、
建築に課せられたテーマは、たくさんあります。
私たちは、皆さまのパートナーとして
サステナブルな社会を、一緒に築き上げたいと願っています。

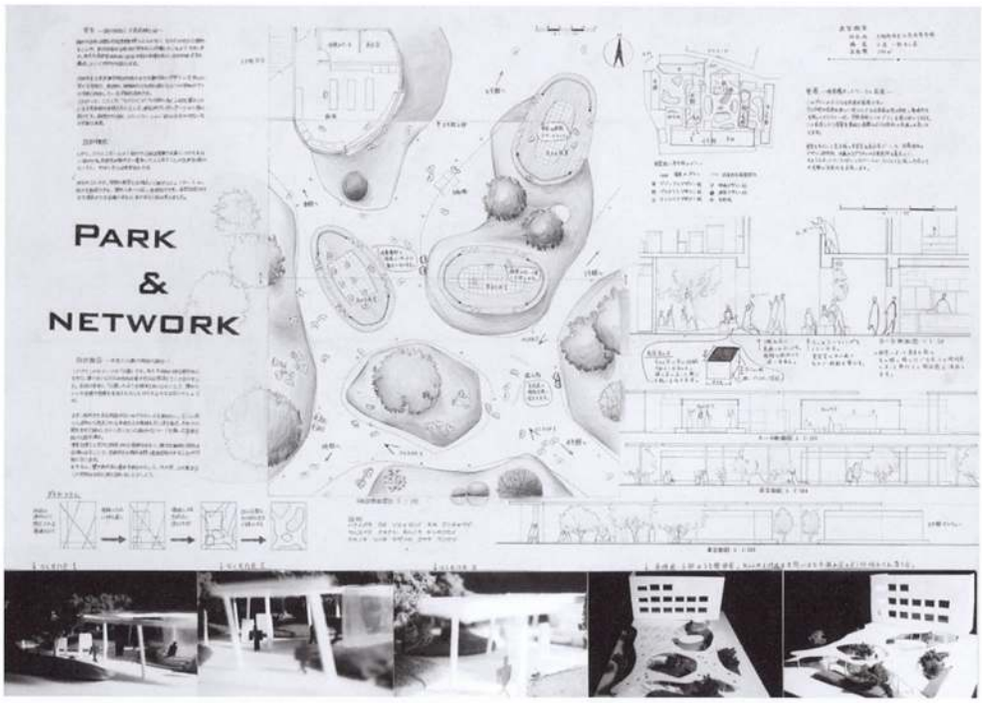
想いをかたちに
竹中工務店

お問い合わせは ―― 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel.03(6810)5140
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605

第55回 工高生デザインコンクール

設計課題／学校に建つ食堂

応募校数●28校　応募作品数●105点
締切日●平成21年９月30日　審査会●平成21年10月17日　表彰式●平成21年11月14日



◀審査コメント／長坂　大

校庭の中に食堂をしのび込ませる、ランドスケープの中に建築を分散配置する、という構想は現代的だと思う。この案はそれだけにとどまらず、既存棟１階を適宜ピロティー化し、隣棟間隔の狭さを解消しながら、既存棟まで新しい校庭計画に組み込んでいることを高く評価したい。これがなければ楽観的な部分が目について最優秀案には推せなかった。もちろん、１階の内部空間をこんなに削ってしまって諸機能が成り立つのか、とか、日照条件の悪い緑地はどうするのか、という現実的課題はある。

入選・最優秀賞　**山崎靖子**　大阪市立工芸高等学校３年

私が一日の大半を過ごしている学校で、面識がある人物はその全体の３割にも満たない。私は、さまざまな人間が集まる学校では、学業よりも“人脈”が欲しいと思っていた。出会いがある場が欲しかったのです。このような賞を頂き身に余る思いです。自分の考えが認められ、評価していただき、とても嬉しかったです。まずはこの制作に協力してくれた、友人、先生方、伯父に感謝とお礼を申し上げます。

審査総評

審査委員長　**笹村欽也**

建築が地域社会にいかに貢献できるか、公共性をどのように確保するのか、建築そのものの価値、建築のあり方が大きく変わりつつあります。建築をつくる者には、クライアントの要求だけでなくさまざまな社会的要求を盛り込みデザイン・創造する＝プロデュース能力が必要とされていると考えます。

伝統ある本デザインコンクールも、この時代の流れとともに課題の内容と評価の視点が変わってきています。建築を学ぶ者にとっても、与えられた課題に対し社会、地域、環境、情報等、さまざまな視点を持って建築空間をつくり上げる能力が問われているのです。そこで今回は、課題に対してまず自らの視点を表明し、テーマをきちんと掲げ、そのテーマにそった建築づくり・空間づくりができているか、といったセルフ・プロデュース力を評価のポイントとしました。

設計課題は、日常の身近な課題として考えてもらおうと「学校に建つ食堂」が選ばれました。一見取り組みやすそうですが、そこには自らの体験や日常生活から導かれる「考え」をまとめないと提案がしづらい課題であると考えていました。応募総数105点は多からず少なからず、やりやすそうでなかなか手強かったのではないかと思います。作品の傾向は、大きくは３つに分かれ、自らの学校のリノベーション計画案、地域の利用を考えた地域活性化案、設定にこだわらない理想型建築案などが見受けられました。入選作は、各傾向の中で審査員からの高評価作品であり、自らの「食」に対する思いをまとめ、A1の用紙にきちんと表現された秀作であったと思います。

最優秀作品である山崎さんの作品は、既存の校舎の隙間を食堂として利用。コミュニケーションの図れる小空間としピロティーの中にちりばめ、ネットワークの広がりを持たせるなど、構成力・デザイン力が各委員から高く評価されました。優秀作品である中村さんの作品は、避難所という社会的要求に対し適切に応えた、着眼点と分析力が評価されました。またプレゼンテーション（表現力）の巧みさもポイントとなりました。江端さんの作品は、地域とのかかわりをうまく捉え、リアリティーと説得力のあるバランスの良さが評価されました。入選作品である土肥さん、山口さんの作品は、学校における「食事」する空間そのもののあり方を純粋に考えた姿勢が評価されました。海野さん・佐野さんの共同作品、そして矢野さん、泉本さんの作品は、日常の問題に取り組み、既存の学校施設をリノベーションし、快適な食堂空間をつくり出している点が評価されました。角川さん、右田さんの作品は、独特の物語をつくり出し理想的な「学校食堂」とは何かを楽しく導き出している独創性が審査員を魅了しました。

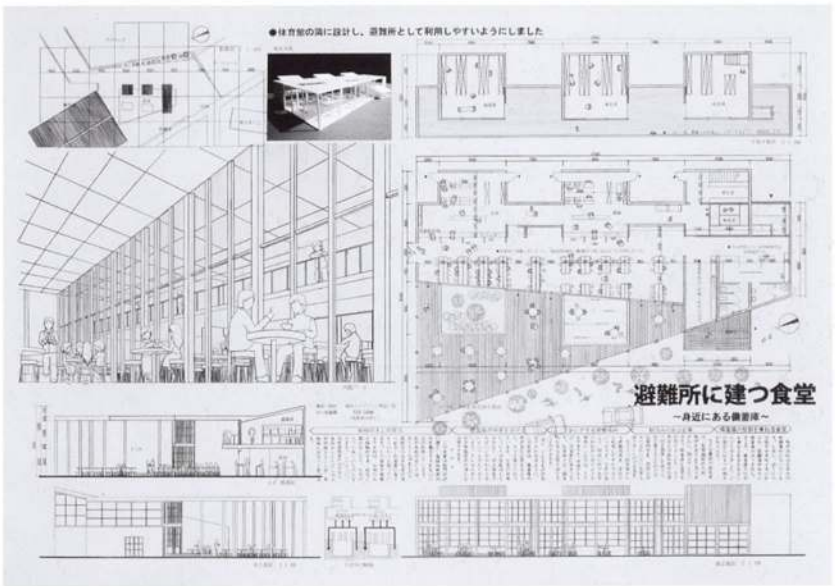
105点の応募作品の中、一次審査でかなり多くの作品が残ったということは、課題に対し皆が真摯に取り組んでいただいた証しであると考えています。また全般的に見て、楽しそうに課題に取り組んでいる感じはうかがえました。これも現代の工高生の気質が表れているのでしょう。残念ながら選に漏れた方々も、授業の中で、また授業時間外、夏休みに取り組んでいただいたことでしょう。結果は、今後に活かされるものと信じております。皆さんのこれからの活躍を大いに期待しています。

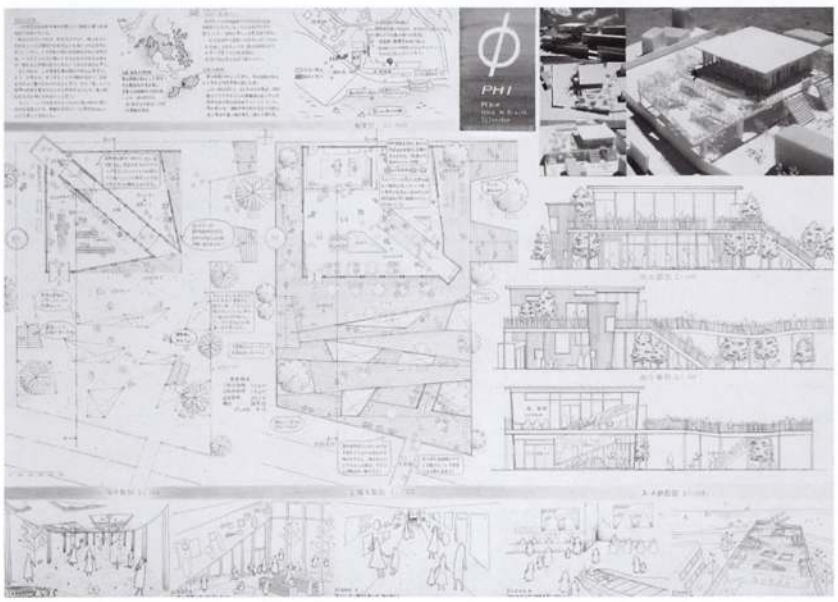
入選・優秀賞 **中村知華** 三重県立四日市工業高等学校２年

私が通っている高校には、備蓄庫はありません。学校を避難所としてより有効に活用するため、食堂の上に備蓄庫を設け、校門近くに食堂を建てました。そうすることで地域の人々も利用でき、避難所のどこに何があるのかを確認することができます。私は自分の作品に自信がなかったので、いい結果で本当によかったです。応援してくれた家族、励ましてくれた先輩方、ともに頑張ってきた友人たち、たくさんの人々が支えてくれたおかげです。

審査コメント／濵田　徹▶

まず印象に残ったのは、プレゼンテーションの巧みさである。図面、文章、タイトル、パース、模型写真が周到にレイアウトされ、しかも表現は必要かつ十分で、高いレベル。計画内容も、防災拠点としての学校という着眼点はほかになく、かつ説得力のあるものであった。一方で、備蓄庫とともに広いスペースをあえて２階に設けたユニークな構成の必然性とリアリティーについて、表現不足なのが惜しまれるが、そのオリジナリティに今後の可能性を感じる秀作である。





入選・優秀賞 **江端佐知** 大阪市立工芸高等学校３年

“学校の食堂”とはどんなものか、問題点は何か、それを改善するにはどのような建物を建てればいいかという所から、コンセプトを考えていきました。優秀賞と知った時、正直とても悔しくて全然喜べませんでした。しかし周りの人からたくさん言葉をもらって、悔しさで次の作品を頑張ろうと思えるなら、最優秀賞以上のものを得られたんじゃないかと思えます。次も頑張ります。

◀審査コメント／小笠原絵理

島にある高校が計画地。生徒数の少ない条件を、生徒はもちろん、島の誰もが使える食堂、新たな交流の場とした設定が、地域とのかかわりという点も含め、見る側に説得力、リアリティーを与える。食堂に加え図書スペースやテラスなど、人々の交流を促すさまざまな場が計画され、思い思いに過ごす人々の楽しげな様子や交流が、ゆたかに生き生きと描かれ、見るものを惹きつける。建築の「人の居場所」としての大切さを感じとれる作品。

●審査記録

10月９日　予備審査：応募作品について応募規定違反の有無を調べ、その検討を行った。
（教育委員会・工高生教育小委員会）

10月17日　審査会：欠席の審査委員４名による事前審査と、当日欠席の１名を除く審査委員10名により当日審査を行った。（審査時間13：30～17：45）

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校数、応募作品数の報告と大きな違反がなかった旨の予備審査報告が行われた。続いて、審査委員長より審査方針の確認があり、審査に入った。

■１次審査（審査委員10名、事前審査４名）105作品→29作品
全応募作品について、審査委員１名につき10作品を選んで投票し、事前審査を行った審査委員４名の票を加え集計した。

得　票	14	13	11	9	7	6	5	4	3	2	1
作品数	1	1	2	1	2	4	3	2	2	4	7

票を得た29作品を１次審査通過とした。（審査時間13：40～15：00）

■２次審査（審査委員10名）29作品→18作品
１次審査にて得票１、２及び３の13作品について審議し、得票３以上の18作品を２次審査通過とした。（審査時間15：00～15：25）

■３次審査（審査委員10名）18作品→13作品
２次審査を通過した18作品について、審査委員１名につき５作品を選んで投票を行った。

得　票	10	8	6	5	4	3	2	1
作品数	1	1	1	1	1	2	5	1

票を得た13作品を３次審査通過とした。（審査時間15：25～16：00）

■４次審査（審査委員10名）13作品→入選10作品
３次審査にて得票３以上の７作品を入選とした。引き続き、得票１及び２の６作品について審議を行い、内３点を入選とし、合計10点の入選作品を決定した。（審査時間16：00～16：20）

■５次審査（審査委員10名）入選10作品→最優秀作品１点、優秀作品２点
優秀作品３点を選ぶにあたり、入賞作品10点について審議し、審査委員１名につき３作品を選んで投票を行った。

得　票	9	7	4	3	1
作品数	1	1	2	1	3

得票の上位４作品について再度審議し、最優秀作品１点、優秀作品２点を決定し、審査を終了した。（審査時間17：05～17：40）

会誌「建築と社会」への審査経過報告掲載にあたり、10点の入選作品について審査委員が分担し、評価を紙面にまとめることを約束し、審査会を終了した。（審査会終了時間17：45）

●審査員（50音順・敬称略）―職場は平成21年10月当時―

笹村　欽也／㈱東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
―委員長―
飯田　匡／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻講師
伊藤　直幸／㈱大林組本店建築設計部課長
小笠原絵理／間工作舎主宰
佐々木　栄／㈱昭和設計執行役員都市・建築本部統括
菅　正太郎／すがアトリエ代表
髙砂　正弘／大阪人間科学大学環境・建築デザイン学科教授
田代　純／大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授
長坂　大／京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
中平　勝／中平勝建築設計事務所代表
濵田　徹／鹿島建設㈱関西支店建築設計部長
細田みぎわ／Migiwa Hosoda Archi-Studio主宰
増田　俊哉／㈱竹中工務店大阪本店設計部副部長
三好　裕司／㈱安井建築設計事務所設計部設計主幹
渡邊　豪秀／㈱日建設計設計部門設計室長

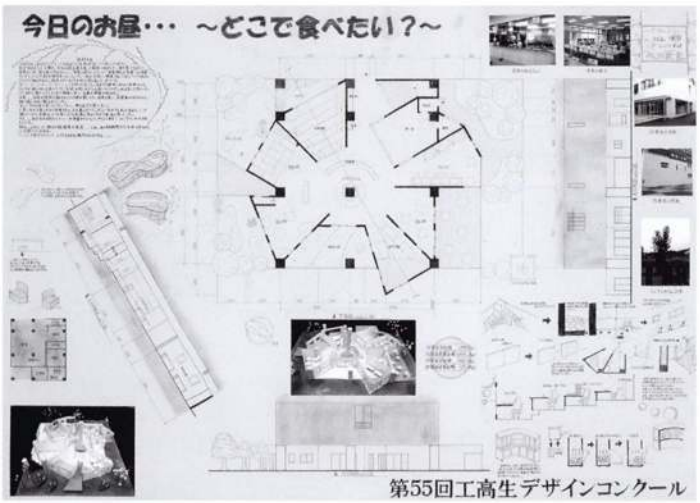


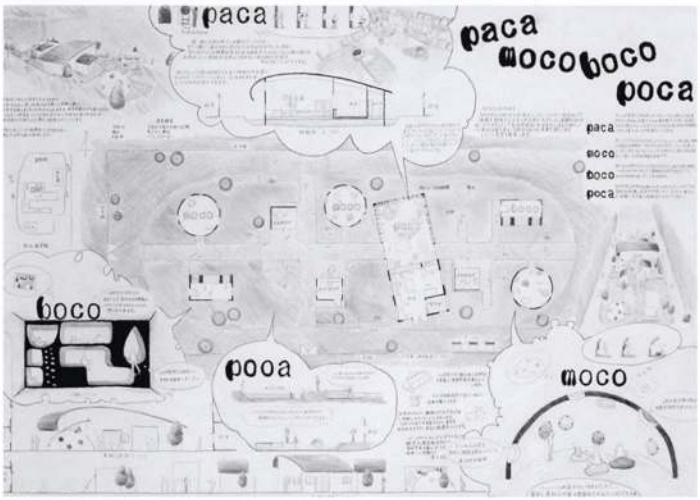
入選 **土肥将也** 山梨県立甲府工業高等学校３年

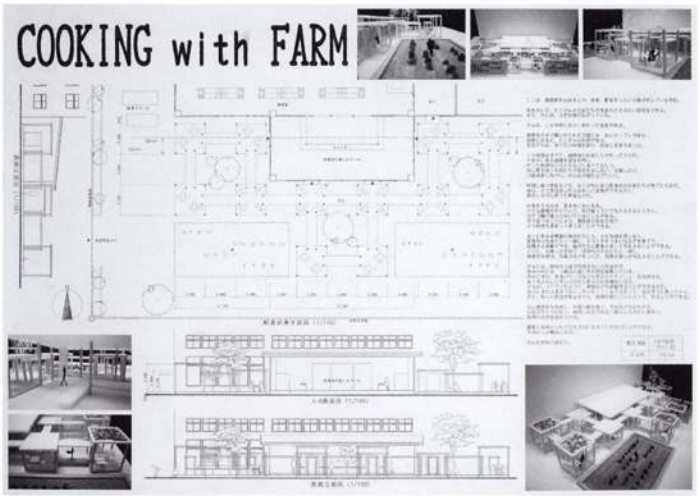
普段から高校の学生食堂を利用していますが、３階や４階の教室から１階の食堂まで行くのは手間がかかります。そこでどの教室からでも一歩で行くことのできる食堂を考えました。いつでも利用でき、自然に人が集まる空間です。３年生になって初めて設計競技に取り組み、部活動との両立に苦しんだので、入選の通知は嬉しかったです。遅くまで残ってくれた先生には感謝しています。

▲審査コメント／髙砂正弘

食堂というハコモノをつくるのではなく、教室と校庭とに挟まれた廊下を庇とともに広くすることで、そこをオープン・エアーのデッキとし、食堂に利用している。シンプルにまとめられた提案はわかりやすく、リアリティーがあり、好感がもてる。ただ、寒い日や雨や風が強い日など、季節や天候への配慮もほしかった。また、実際にある学校のリノベーションとして提案をすれば、説得力と力強さとが増したであろう。







入選 **山口千明** 山梨県立甲府工業高等学校２年

学校の食堂で、どうしたら食事が楽しくなる空間になるかを考え、設計しました。調理と農業の二つの視点を知ることができ、両方が協力することで食の大切さを伝えられたらと思います。また、地域とのつながりも大切にしました。入選の通知を受けた時は、嬉しかったです。一生懸命頑張った甲斐がありました。このコンペに参加したことで、手書きの良さを知ることが出来てよかったです。

▲審査コメント／伊藤直幸

この作品は、食堂を「心地よく過ごせる場所」にとどまらない解を模索している点で優れている。この学校で営まれるであろう調理、収穫というカリキュラム（教育）と食堂（休息）を結びつけ、これを地域に開放するプログラムを組み込んでいる。欲を言えば、耕作地と食堂・食堂とキッチンの関係・学校と地域の関係が提案プログラムに即応したデザインとして表出すれば、さらに高いレベルになり得る。

入選 **海野洸哉・佐野慶輔** 静岡県立科学技術高等学校２年

「今日はどこで食べようか」「あそこで食べようか、あっちもいいよね」こんな風に毎日違った景色で食事を楽しめたらと思い、この食堂を設計しました。食堂のおばちゃんとの触れ合いや、食事によって“食の栄養”だけでなく“心の栄養”も取り入れることができたら本望です。最後まで諦めずやり遂げてよかったと心から思いました。毎日遅くまで指導して下さった顧問の先生に感謝しています。

◀審査コメント／中平　勝

現況の食堂のコンクリート柱を残し、その間を放射状にさまざまなスペースが展開するアイデアは、日常の均質化された学校空間に対する学生のリアルな感覚として生まれたものであるように思う。展開される７つの空間も細やかに設計され、丁寧な説明がされている。次のステップとしては、それぞれの空間と外部との関係や外部空間を計画していけば、内外それぞれに居心地のよい場をつくり出せるのではないだろうか。

入選 **右田恵里華** 大阪市立工芸高等学校３年

高校生の私にとって魅力的な食堂とは何かを考えながら計画しました。水や樹木といった自然、ビーズクッションなどの、コンクリートの校舎にはないやわらかさを提供し、生徒が自由に空間を演出できるようなフレシキブルな空間を目指しました。驚きすぎてまだ、実感が持てませんが、初めて入選することができ、とても嬉しかったです。

◀審査コメント／菅　正太郎

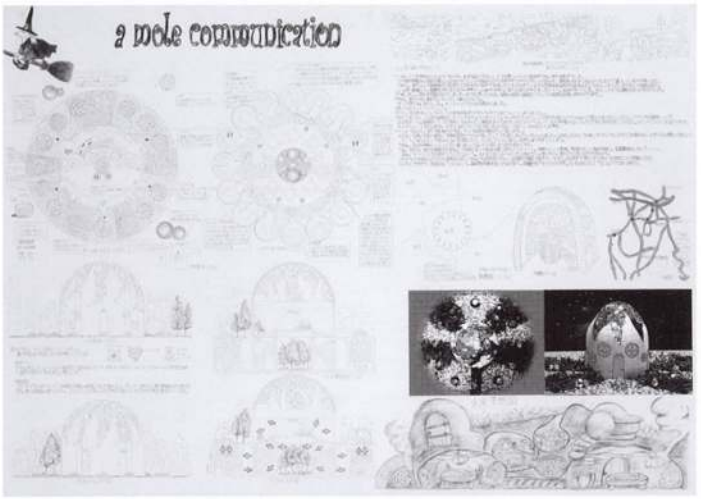
緑に囲われた大きな池を横断する通り沿いにパコ、モコ、ボコ、ポカの４種の楽しい形のパビリオンが点在している。たとえばポコは、内部の壁にポコポコ穴が開けられ、穴を使って自由に寝たり座ったりもできる。校舎との関係説明や建築そのもののリアリティは不足ぎみだが、いろいろな面白さの空間が散りばめられて、全体は独創性と一貫性のある素晴らしい創造的提案になっている。

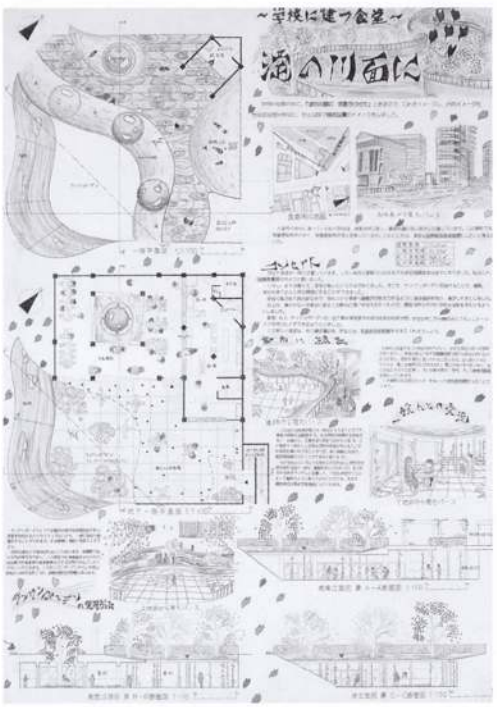
入選 **角川　歩**　大阪市立工芸高等学校３年

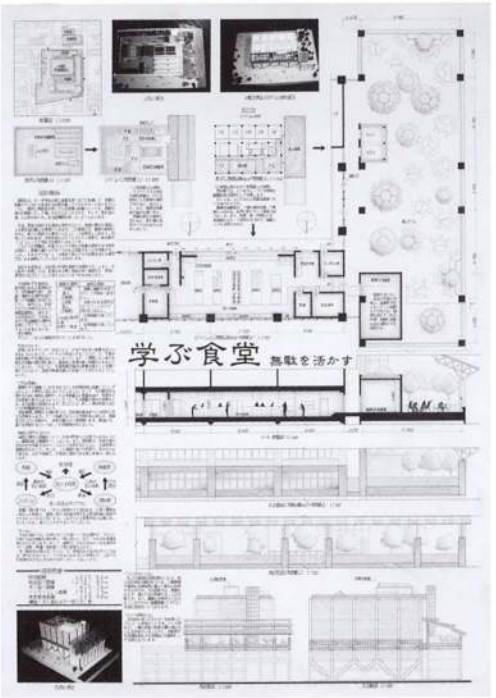
私は、トルコのカッパドキアなどに興味を持っていて、いつかトルコの伝統を建築物に取り入れたいと思っていました。そして、今回それを取り入れ、設計しました。入選の報告をいただいた時はとても嬉しかったです。これを励みにいろいろなことに挑戦し、頑張っていきたいと思います。

▼審査コメント／田代　純

カッパドキア、ステンドグラス、モグラ、チューリップ……作者お気に入りのものごとから、独自の文脈で一つの建築（お話）を作り上げたエネルギーとセンスを高く評価したい。トルコのような乾燥し、気温の日較差の大きい所では大地の熱容量を生かす「モグラ型」が有効かもしれない。一方、東南アジアの蒸暑性気候の国々を旅すると、風を生かした「鳥の巣型」とも言える住居が数多く見られる。次回はあなたの住む町で、どんな住み方が可能か、ぜひ提案してみてください。







入選 **矢野高弘**　私立名古屋工業高等学校３年

僕はかねてから関心のある「環境」を今回の設計に取り入れ考えました。それで「食堂」と「環境」をどう関連づけるか試行錯誤し出た答えが「無駄を活かす」でした。入選と聞いた時は涙が出そうなくらい嬉しかったです。この課題でたくさんのことを学び、大学での目標を持つことができ、良かったと思っています。

▲審査コメント／三好裕司

校舎のリノベーションからはじまり、ゴミのコンポスト化・燃料化、菜園、発電といったところまで言及し、「モノの循環」づくりを行った構想力を評価したい。全体を丁寧にまとめた表現にも好感が持てた。ただ建築としての解き方に魅力が薄かった。建築には無駄と思われがちな余白空間も魅力につながる可能性を秘めている。これもひとつの「無駄を活かす」ことであり、無駄を活かした魅力ある空間づくりの具体的提案があっても良かった。

入選 **泉本裕大**　大阪市立都島工業高等学校３年

まず食堂をとりまく学校内・外の環境を調べ、桜をアクセントにしたサンクンガーデンを設けました。地下鉄の駅の出入り口と食堂を連結し、一般客も利用できる開かれた学校食堂を目指しました。用途を限定しない、多目的に使える楽しい空間になったと思います。クラブを引退した後、夏休みに時間をかけて取り組んだので、入選の通知が来たときはとても嬉しかったです。

◀審査コメント／長坂　大

交差点横から校庭への導入部を敷地としたことが、とてもうまいと思った。食堂を象徴する桜の木が、街の交差点にとっても印象的な点景となり、学校と街との魅力的なかかわり方の提案となっている。さらにそこが地下鉄の出入り口で、地上と地下１階との上下関係が計画に取り込まれていることもすばらしい。ただし、食堂の柱の太さ、ペーブメントのパターン、図面の花びらの表現はちょっと気になります。

●応募学校

・山形電波工業高校
・宮城県立 石巻工業高校
・新潟県立 新発田南高校
・栃木県立 宇都宮工業高校
・茨城県立 土浦工業高校
・埼玉県立 春日部工業高校
・埼玉県立 熊谷工業高校
・東京都立 蔵前工業高校
・千葉県立 京葉工業高校
・山梨県立 甲府工業高校
・静岡県立 科学技術高校
・静岡県立 沼津工業高校
・金沢市立工業高校
・私立 名古屋工業高校
・三重県立 伊勢工業高校
・三重県立 四日市工業高校
・滋賀県立 八幡工業高校
・大阪市立工芸高校
・大阪市立 都島工業高校
・堺市立工業高校
・兵庫県立 豊岡総合高校
・鳥取県立 鳥取工業高校
・岡山県立 津山工業高校
・広島県立 広島工業高校
・香川県立 多度津高校
・松山聖陵高校
・高知県立 高知工業高校
・大分県立 日田林工高校

入選者の感想文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました。文責・宇都直人／教育委員会

写真撮影
スタジオコムズ

お知らせ Information

▶第３回「災害対策セミナー」in神戸

阪神・淡路大震災から15年。「減災の知恵の共有」を共通テーマに、「地域防災シンポジウム」や防災関係団体のセミナー等々が開催される。

会場は神戸国際会議場。申し込み方法や開催時間等々は、http://www.kcva.or.jp/saitaiに掲載。

●2010年１月19日(火)　10：00～17：00

・講演「減災の知恵の共有」(河田惠昭・人と防災未来センター長)

・あなたのすまいは地震が来ても大丈夫ですか？（定員100名・参加費無料）

・「予想される巨大地震に備えて」住まいの備えは万全か？（定員110名・参加費無料）

・新・神戸の地盤減災研究会研究成果発表～地震災害の防災・減災に関する研究～（定員100名・参加費無料）

●2010年１月20日(水)　９：00～17：00

・都市災害に備えて活動を続けて15年―防災・減災のためのネットワークづくり―（定員150名・資料代1000円）

▶公共工事における「建築士法第24条の７」の重要事項説明

国土交通省住宅局建築指導課長から周知の依頼があった。国土交通省の通知文では、建築事務所開設者は、公共工事の場合も、重要事項説明を行わねばならない。

（１）公共工事の設計業務等の契約を締結する場合も、民間工事同様、重要事項説明が必要である。ただし業務が設計補助等のみを委託する場合、設計の一部について再委託が行われる場合は、不要である。

（２）重要事項説明の書面交付に当たっては、管理建築士または所属建築士は建築士免許証等を提示しなければならない。

▶建設リサイクル法説明会開催

日　時　2010年１月22日(金)
　　13：30～16：30
会　場　東大阪市立男女共同参画センター「イコーラム」ホール
　　東大阪市岩田町4-3-22-600
　　近鉄奈良線「若江岩田」駅下車すぐ
定　員　244名（参加費無料）
申込み　１月20日までに、パソコン（http://www.pref.osaka.jp/kenshi_shinsa/recycle）かFAX（06-6944-6810）により、大阪府住宅まちづくり部建築指導室審査指導課へ。

▶「鋼構造塑性設計指針」改定講習会

1975年に発表された日本建築学会の「鋼構造塑性設計指針」は、兵庫県南部地震などで鋼構造骨組に各種の被害が生じ、塑性設計の考え方にも変化があり、さらに国際単位系(SI)への移行もあって、指針改定検討ワーキンググループで指針を見直し、このたび２年間の改訂作業を終えた。

『鋼構造塑性設計指針』（B５判・約230頁）をテキストに、講習会が開催される。参加費は建築学会会員9000円、後援団体会員11000円。

●大阪会場（定員100名）

日　時　2010年２月10日(水)
　　13：00～17：15
会　場　大阪科学技術センター４階404号室
申込み　日本建築学会近畿支部へ書面で。
　　〒550-0004　大阪市西区靭本町1-8-4

▶１級・２級建築施工管理技術検定試験受験対策講座開催

(財) 地域開発研究所が主催する。

詳しくは、http://www.chiiki-net.comへ。

●１級学科試験のための講座

学科試験は2010年６月の第二日曜を予定。受験申込受付は2010年２月中旬～２月下旬。

▶講座は2010年４月上旬～５月下旬に開催予定。受講料は６日間・３日間講座＋実力テストで58000円

●２級学科・実地試験のための講座

試験は2010年11月の第二日曜を予定。受験申込は2010年７月上旬～７月中旬に書面にて受付。

▶講座は2010年９月上旬～10月中旬に開催予定。受講料は６日間・３日間講座＋在宅テストで58000円

▶第16回「建築・建材展2010」

日本経済新聞社主催の展示会は、快適、健康、安全・安心な住環境、商環境の実現と、業界の活性化をめざして開催される。

会　期　2010年３月９日(火)～12日(金)
　　10：00～17：00(最終日は16：30まで)
会　場　東京国際展示場
　　東京ビッグサイト東５・６ホール
　　東京都江東区有明3-21-1
入場料　1500円

▶「建築家・本野精吾展―モダンデザインの先駆者―」

本野精吾（1882～1944）は、東京帝国大学

建築学科を卒業後、当時京都高等工芸学校教授であった武田五一の招きによって、1908年に同校の図案科教授に就任。

建築作品には、西陣織物館（現・京都市考古資料館、1914年）、本野邸（1924年）、鶴巻邸（現・栗原邸、1929年）、京都高等工芸学校本館（現・京都工芸繊維大学３号館、1930年）の４作品が現存し、そのうち２作品が国際組織DOCOMOMO Japanに選定されるなど、歴史的・文化財的価値が高く評価されている。なかでも本野邸は、中村鎮式コンクリートブロック造によって、高い機能性や合理性、抽象性を獲得。理念と形態の両面を追求した日本で最初のモダニズム建築とも言える。また1927年には「日本インターナショナル建築会」を設立し、その後ブルーノ・タウトの来日を実現させたことでも知られている。

本野の活動は、インテリアや家具、食器、工芸、グラフィック、舞台、衣装、さらに船体デザインにまで及んだ。広告についての研究団体「プレスアルト研究会」を設立し、中心的役割も担った。さらにエスペラント語の普及に努め、南画を嗜み、ヴァイオリンを演奏し西洋音楽の普及にも貢献した。

■展覧会―建築作品を中心に、幅広く本野の業績について展示―

会　期　2010年1月18日（月）～3月11日（木）
　　10：00～17：00
　　休館日／日曜・祝日、
　　および１/30、２/25・26

会　場　京都工芸繊維大学美術工芸資料館
　　京都市左京区松ヶ崎御所海道町
　　京都市営地下鉄烏丸線松ヶ崎駅下車、徒歩約10分
　　TEL 075―724―7924

入館料　200円、大学生150円、高校生以下無料

■シンポジウム（入場無料）

日　時　2010年2月13日（土）14：00～17：00

会　場　京都工芸繊維大学１号館１階0111講義室

パネラ　藤森照信（東京大学教授）、西澤英和（関西大学准教授）、宮島久雄（前・国立国際美術館館長）、笠原一人（京都工芸繊維大学大学院助教）

司　会　松隈洋（京都工芸繊維大学教授）

定　員　150名

申込み　不要（当日先着順）

▶企画展「内井昭蔵の思想と建築」

内井昭蔵は建築家の祖父、そして父を持ついわば三代にわたる「つくり手」としての血脈を引き継いでいる。こうした生育環境も視野に入れ、内井昭蔵が設計した世田谷美術館で内井昭蔵の業績を回顧している。



世田谷美術館 扇形企画展示室

会　期　2009年12月12日
　　～2010年２月28日（日）
　　10：00～18：00
　　月曜休館（１/11は開館、１/12は休館）

会　場　世田谷美術館
　　東京都世田谷区砧公園1-2

観覧料　1000円、大高生・65歳以上800円
　　中小生500円

構　成　①世田谷美術館―設計断面・建設当時の写真で美術館が形づくられていく様子を紹介する。
　　②祖父・河村伊蔵、父・内井進―河村伊蔵は函館、豊橋でロシア正教会の建築に携わるが、内井昭蔵がそのルーツを辿り撮りためた写真や正教会関連の資料。内井進が手がけた教会や銀行建築の図面や資料と「東京帝室博物館」コンペ計画案。
　　③内井昭蔵の足跡―早稲田大学大学院を卒業、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1967年に独立。2002年８月に急逝するまでに約250点の作品を手がけた。このうち約100作品を映像も交えて紹介する。

招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶特別展覧会「THE ハプスブルク」

13世紀から20世紀初頭まで600年以上にわたりヨーロッパに君臨した名門王家・ハプスブルク家の歴代の王たちは優れた審美眼と熱意をもって芸術保護に乗り出し、質の高いコレクションを形成した。



ディエゴ・ベラスケス《白衣の王女マルガリータ・テレサ》

1656年ごろ、油彩、カンヴァス、ウィーン美術史美術館所蔵
©Kunsthistorisches Museum, Vienna

本展では、ウィーン美術史美術館やブダペスト国立西洋美術館などの所蔵品から、ハプスブルク家ゆかりの名品を中心に、絵画75点に工芸品を加えた計約120点を展示する。

会　期　2010年１月６日～３月14日（日）
　　９：30～18：00（金曜は20：00まで）
　　月曜日休館
　　ただし１/11は開館・翌12日も開館

会　場　京都国立博物館（京都・東山七条）

観覧料　1500円、高大生1000円、小中生500円

展　示　デューラー、ベラスケス、ルーベンス、ラファエッロ、ティツィアーノ、エル・グレコ、ゴヤら総勢約50人もの大家たちの絵画。そして工芸品

招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶兵庫県立美術館の展覧会

昨年12月初めから、兵庫県立美術館では「ジブリの絵職人　男鹿和雄展」同時開催「３びきのくま展」、そしてコレクション展Ⅲ 小企画「山本六三展」が開かれている。

会　場　兵庫県立美術館
　　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
　　阪神電車岩屋駅下車、徒歩約８分

時　間　10：00～18：00
　　（特別展開催の金・土は20：00まで）

休　館　月曜休館、1/11開館・翌12日休館

■「ジブリの絵職人　男鹿和雄展」同時開催「３びきのくま展」

男鹿和雄は、アニメーションにおいてその作品の舞台となる背景画を描き続けてきた。スタジオジブリの作品では、「となりのトトロ」の美術監督として映画作りに参加し、昭和30年代の日本の澄んだ空気を表現した。その後も「おもひでぽろぽろ」「もののけ姫」などに美術監督として携わった。光や気候の変化、四季の変化、空、雲、田園、草木や花といった自然の表情を色彩豊かにとらえる男鹿和雄の背景美術が展示されている。

会　期　～2010年２月７日（日）

観覧料　1400円、大高生1000円、中小生500円



「となりのトトロ」美術ボード［1988年］
©1988二馬力・G

本展の招待券は、日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

■小企画「山本六三展―幻想とエロス」



山本六三《イカロスの夢》 1989年 個人蔵

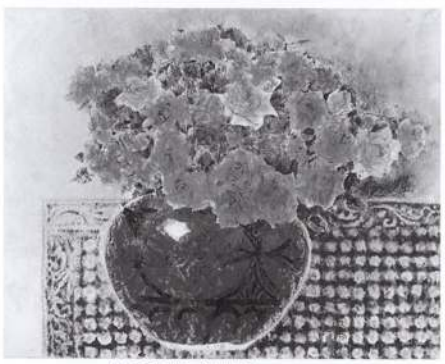
山本六三（むつみ）は、神戸の地で頽廃美に彩られた幻想的な作品を作り続け、2001年に没する。その作品を油彩画、銅版画で紹介する。

会　期　～2010年 3 月14日(日)

観覧料　500円、大高生400円、中小生250円

コレクション展の招待券は、日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶新春　日本画の美



前田青邨「薔薇」 1966年

気品あふれる美人画、四季の情感豊かな花鳥画、日本情緒を感じさせる風景画など、日本画には自然や日常に美を見出す日本的感性が受け継がれている。本展では横山大観、川合玉堂、上村松園、前田青邨らの日本画を中心に、日本的表現を模索した梅原龍三郎、児島善三郎の洋画など、西宮市大谷記念美術館所蔵の名品約60点を紹介する。

1月9日、16日、23日、30日および2月6日の土曜日は、各日とも午後2時より学芸員によるギャラリートークを開催する。

会　期　2010年 1 月 2 日(土)～ 2 月14日(日)
　　10：00～17：00　水曜日休館

会　場　西宮市大谷記念美術館
　　西宮市中浜町4-38
　　阪神電車「香櫨園」駅下車、徒歩6分

入館料　一般500円、高大生300円
　　小中生200円

招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶近代陶芸の巨匠―館蔵品展「富本憲吉展～創造の軌跡～」

奈良県生駒郡安堵村に生まれた富本憲吉（1886～1963）が郷里に窯を築いて陶芸の道に入ったのは大正2年のこと。以後50年にわたる陶業の中で、個性と独創性に基づく表現を重んじ、楽焼・土焼・白磁・染付・色絵そして金銀彩と作域を広げた。本展は、富本の初期から晩年までの作品を通して、創作活動の歩みをたどろうとするもの。



楽焼草花模様蓋付壺 1914年

会　期　2010年1月16日(土)
　　～3月7日(日)
　　9：00～17：00　月曜日休館

会　場　奈良県立美術館
　　奈良市登大路町10-6

入館料　400円、大高生250円、中小生150円

出　品　磁器赤地金銀彩羊歯模様蓋付飾壺、土器鉄描銅彩曲る道模様大皿、白磁八角壺、磁器色絵スペリヒユ模様大皿など約110点

招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶“美術館にアートを贈る会”から

“美術館にアートを贈る会”の2010年最初の美術館訪問は、中之島の大阪市立東洋陶磁美術館。1982年開館当初から2007年まで館長であった伊藤郁太郎名誉館長から、美術館コレクション形成にまつわる「苦労話や秘話」を聞く。

なお、展覧会チケット（一般900円／高大生600円）は、集合時間までに各自で用意。

日　時　2010年 1 月24日(日)
　　13：00～15：00

訪問先　大阪市立東洋陶磁美術館
　　http://www.moco.or.jp/

集　合　1階ロビー

参加費　500円（サポート会員は無料）

展覧会　国際交流特別展「北宋汝窯青磁―考古発掘成果展」、特集展「初代宇野宗甕の陶芸」、平常展

申込み　2010年1月16日までに、info@ art-okuru.orgへ、参加希望者名を送信する。
　　（同伴者がある場合は、その名前も）

■国際交流特別展「北宋汝窯青磁―考古発掘成果展」

会期／2009年12月～2010年3月28日（日）

宮廷用としてつくられた北宋汝窯青磁は、日本では大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の水仙盆が知られ、「天青色」とも呼ばれる独特の釉色と精緻なつくりは、中国の青磁を代表するものの一つである。本展では、近年河南省文物考古研究所が進めてきた河南省宝豊県清涼寺の北宋汝窯青磁窯址の出土資料約80点により北宋汝窯青磁の謎と魅力に迫る。

▶井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈大阪版〉



武蔵立像B ©I.T.PLANNING

「バカボンド」「スラムダンク」「リアル」などの人気長編マンガを生み出した井上雄彦が墨と筆で描き下ろした“空間マンガ”とも言える一編のストーリー。宮本武蔵を主人公とした現在も執筆中の「バカボンド」をモチーフに、意外性と迫力に満ちた物語が140点に及ぶ大小の肉筆画で展開される。

本展が初めて開催されたのは、2008年初夏の東京・上野の森美術館。2009年の「重版〈熊本版〉」を経て、サントリーミュージアム［天保山］にやって来た。

会　期　2010年 1 月 2 日(土)～ 3 月14日(日)
　　10：30～20：00　月曜休館
　　ただし1/11、3/1、3/8は開館

会　場　サントリーミュージアム［天保山］
　　大阪市港区海岸通1-5-10

入館料　高校生以上の大人1500円
　　小中生500円

▶現代絵画の展望 12人の地平線

東京ステーションギャラリーは現在、東京駅丸の内駅舎の保存・復原工事に伴い休館しているが、その間も2012年予定の再オープンに向けて、旧新橋停車場・鉄道歴史展示室で美術館活動を継続している。

本展は2009年から2010年にかけて、12人の中堅以上のアーティストの過去作を前期、近作を後期に1点ずつ展示し、12人の脳に浮かび、表現される特異な地平線を紹介するもの。

前　期　2009年12月8日～2010年2月7日(日)

後　期　2010年2月9日(火)～3月22日(月・祝)
　　月曜日休館、1/11は開館・翌1/12は休館、2/27は臨時休館

時　間　11：00～18：00

会　場　旧新橋停車場・鉄道歴史展示室
　　東京都港区東新橋1-5-3

入場料　無料

出　品　宮崎進、堂本尚郎、中村宏、郭徳俊、吉村芳生、イケムラレイコ、中村一美、小林正人、藤浪理恵子、夏目麻麦、元田久治、山田純嗣の12人

特集：日建設計創業110周年

協賛広告目次

(株) 大林組 …… 74
(株) 竹中工務店 …… 75
(株) ダイフレックス …… 76
大和リース (株) …… 77
(株) ヒガノ …… 78
(株) 横引シャッター …… 79
ワイエム工業 (株) …… 80
アイカ工業 (株) …… 81
オーエヌ工業 (株) …… 81
川北電気工業 (株) …… 82
(株) 鴻池組 …… 82
五洋建設 (株) …… 83
(株) 進栄技研 …… 83
(株) 錢高組 …… 84
大成建設 (株) …… 84
ダイダン (株) …… 85
東光電気工事 (株) …… 85
戸田建設 (株) …… 86
(株) ピーエス三菱 …… 86
(株) キクチ科学研究所 …… 87
郡リース (株) …… 87
(株) サワタ …… 88
(株) サワタ建材社 …… 88
三協立山アルミ (株) …… 89
松陽産業 (株) …… 89
(株) 昭和洋樽製作所 …… 90
(株) スミノエ …… 90
(株) タケチ …… 91
田島ルーフィング (株) …… 91
筒中シート防水 (株) …… 92
(株) 東芝 …… 92
東リ (株) …… 93
日精 (株) …… 93
日本鋳造 (株) …… 94
(株) ニューメタル工業 …… 94
(株) ハマキャスト …… 95
(株) 日立製作所 …… 95
(株) ユニオン …… 96
アーキヤマデ (株) …… 96
(株) 朝日工業社 …… 96
浅海電気 (株) …… 97
(株) INAX …… 97
応縁 (株) …… 97
オーエム工業 (株) …… 97
大島応用 (株) …… 98
川崎重工業 (株) …… 98
(株) 川島織物セルコン …… 98
京都精工電機 (株) …… 98
(株) きんでん …… 99
熊野川流域木材協同組合 …… 99
(株) くろがね工作所 …… 99
コクヨオフィスシステム (株) …… 99
小松ウォール工業 (株) …… 100
(株) サン. ウェイ …… 100
シーアイ化成 (株) …… 100
新日軽 (株) …… 100
新菱冷熱工業 (株) …… 101
田中亜鉛鍍金 (株) …… 101
田中サッシュ工業 (株) …… 101
ツルガスパンクリート (株) …… 101
東洋テクノ (株) …… 102
トステム (株) …… 102
(株) 内外テクノス …… 102
ナカ工業 (株) …… 102
(株) 西原衛生工業所 …… 103
ニチハ (株) …… 103
(株) ニチベイ …… 103
(株) 日鋼サッシュ製作所 …… 103
日新工業 (株) …… 104
(株) 日積サーベイ …… 104
日本避雷針工業 (株) …… 104
日本防御化学 (株) …… 104
日本れんが協会 …… 105
ハードグラス工業 (株) …… 105
不二サッシ (株) …… 105
(株) フジタ …… 105
富士フイルムイメージテック (株) …… 106
文化シャッター (株) …… 106
北陸アルミニウム (株) …… 106
マツ六 (株) …… 106
丸善 (株) …… 107
八木惣 (株) …… 107
山城鉄工 (株) …… 107
ヤマハサウンドシステム (株) …… 107
横浜ガルバー (株) …… 108
ルノン (株) …… 108

工法は変わっても
創るスピリットは
変わらない。



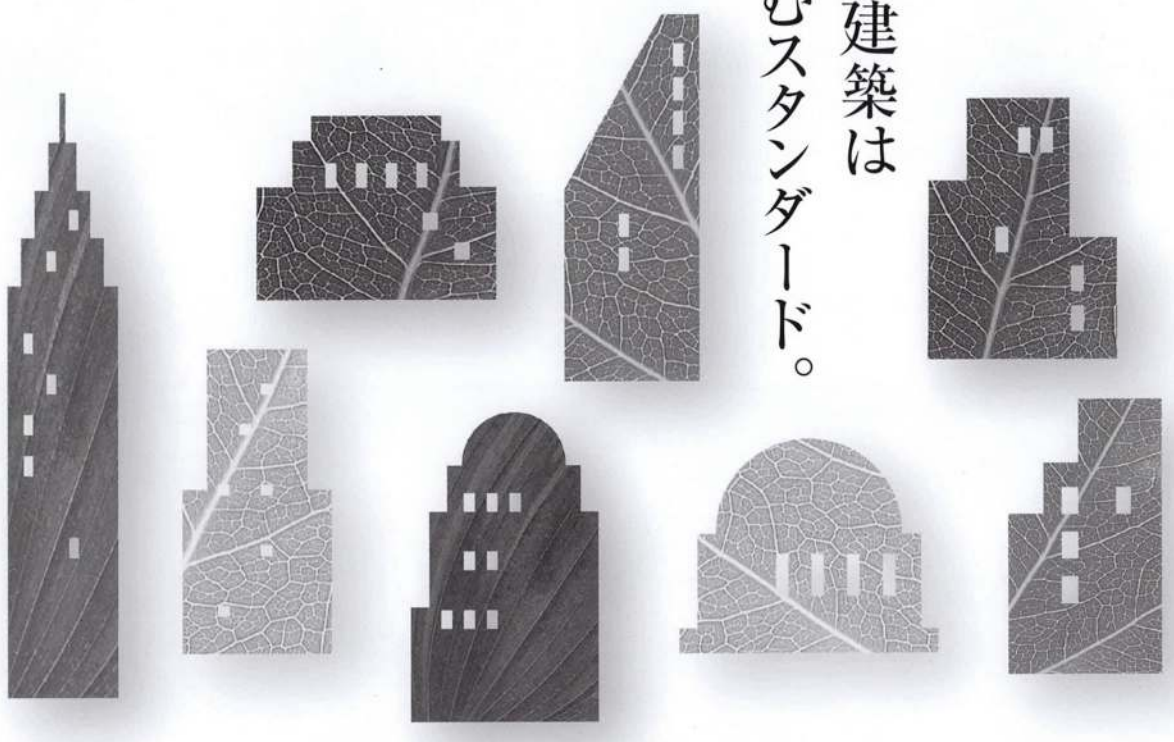
1892年、大阪に一つの建設会社が生まれました。
それから、110数年。
便利な建設機械が、つぎつぎに増える今でも
創る人間の情熱が、いちばん大切。
その考え方に、変わりはありません。
使う人の気持ちを考えることができるのは
人間にしかできないことだから。
きちんと創る。私たちは大林組です。

大林組
OBAYASHI
www.obayashi.co.jp

創業時店舗の鬼瓦

TAKENAKA
CORPORATION

サステナブル建築は
地球がのぞむスタンダード。



SUSTAINABLE
WORKS®
サステナブル・ワークス

持続可能な社会を未来へ

例えば、生物多様性の保全、資源循環の推進、
地球温暖化対策‥‥。
美しい地球を未来の子供たちに遺すため、
建築に課せられたテーマは、たくさんあります。
私たちは、皆さまのパートナーとして
サステナブルな社会を、一緒に築き上げたいと願っています。

想いをかたちに
竹中工務店

お問い合わせは ―― 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel.03(6810)5140
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605

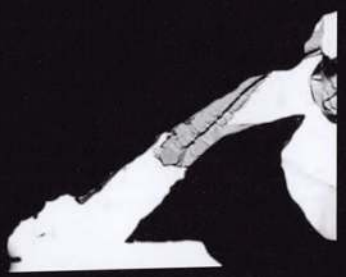
屋上防水

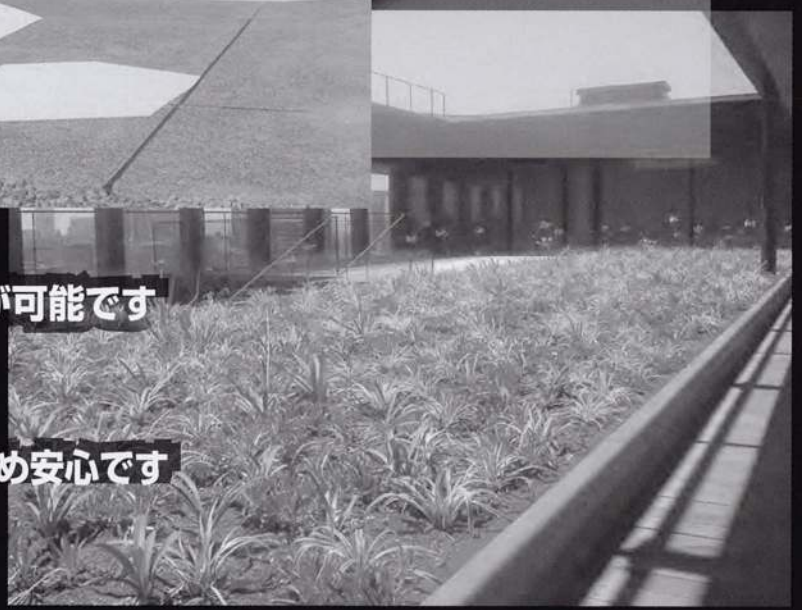
DYFLEX

超速硬化ウレタン複合防水
クイックスプレーUPM-10工法

日建設計実績







自由度の高いデザインが可能です

軽量化が図れます

二層構造になっているため安心です

工期短縮が可能です

http://www.dyflex.co.jp/

株式会社 ダイフレックス

〒163-0823 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル23F 私書箱第6086号

本社営業グループ／大阪支店／札幌／仙台／新潟／さいたま／千葉／多摩／横浜／名古屋／広島／福岡

カタログ差し上げます

東京 03-5381-0231

大阪 06-6292-0511

新しいことを、人と社会と共に。

地球環境への配慮、省エネ、緑化、新規事業など、
わたしたちは、お客様のさまざまなニーズに対応し、
建築をはじめ、土地・設備といった
幅広いリース事業を展開しています。
さらに夢のある社会へ……
大和リースは創業50年の実績を基に
今後も人と社会とともに歩み、
確かな信頼を築いてまいります。

次なる夢へ。

私たちは、次世代に向けた
幅広い取り組みも行っています。

総合緑化事業〈エコログリーン〉

商業施設向け白色LED照明システム
〈グレースルミノ〉

自立支援用ロボット事業
〈ロボットスーツHAL™ 福祉用〉



PFI事業／東郷町新設小学校施設整備事業

大和リースは、豊富な実績であらゆるニーズにお応えします。



庁舎



商業施設



事務所

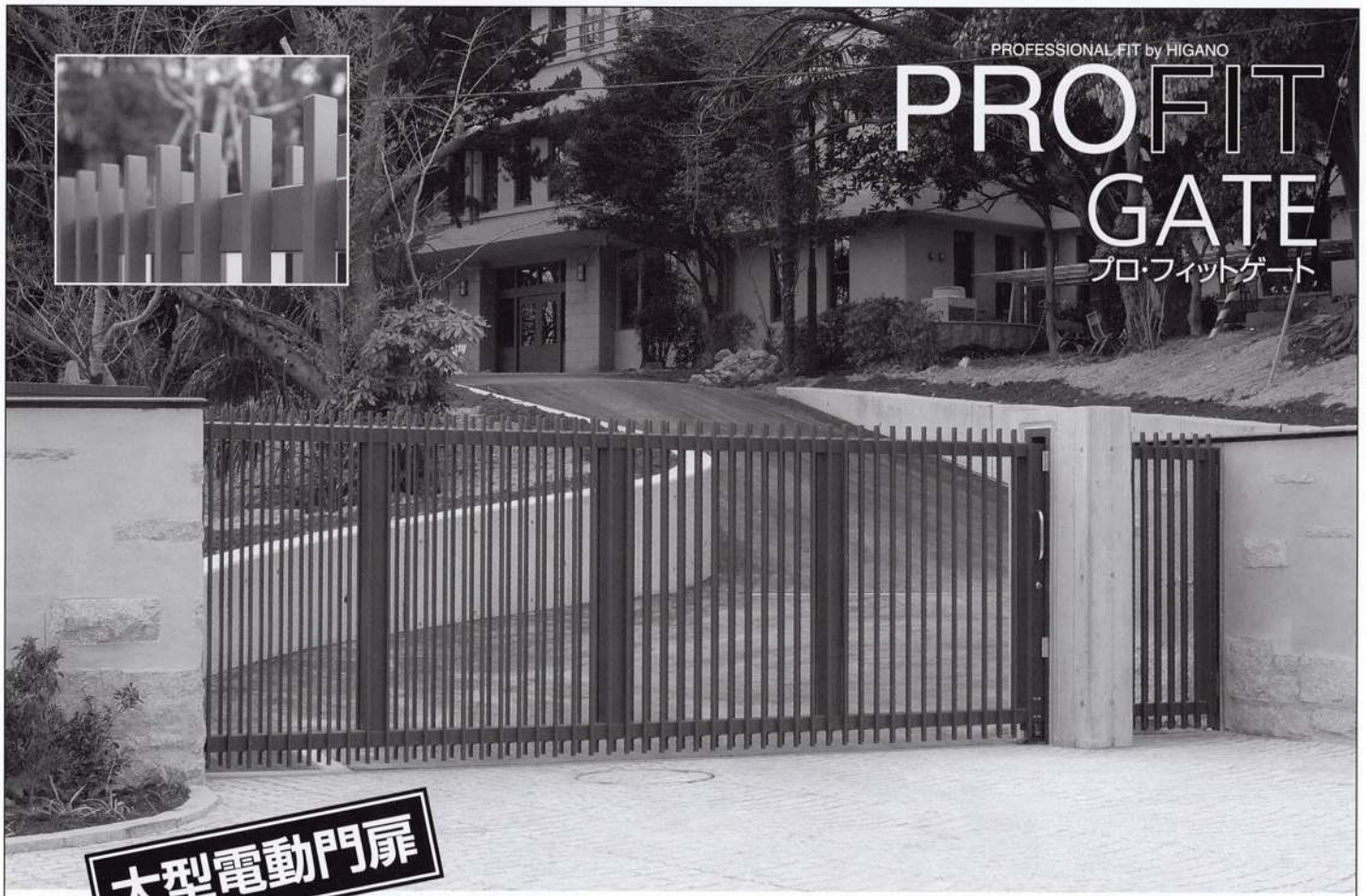


工場

Daiwa Lease®
大和ハウスグループ

大和リース株式会社 www.daiwalease.co.jp

大阪市中央区農人橋2丁目1番36号 ピップビル 〒540-0011 Tel 06-6942-8011 Fax 06-6942-8051
建設業許可番号:国土交通大臣許可(特-17)第5903号 宅地建物取引業者免許番号:国土交通大臣(6)第3836号



大型電動門扉

ボックススライド式引戸　大阪大学（大阪府）

設計者がつくるゲート

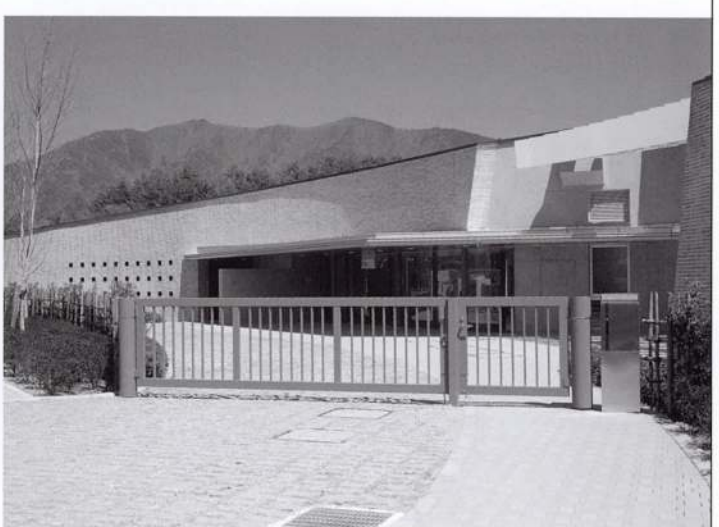
建築文化を機能とデザインでサポートするプロ・フィットゲート

ノンレールゲートシリーズ
- ●ボックススライド式引戸
- ●支柱回転式開戸

レールゲートシリーズ
- ●マルチスライド式引戸
- ●台車式引戸



ボックススライド式引戸　名古屋モード学園（愛知県）



支柱回転式開戸　しらかば保育園（山梨県）

株式会社ヒガノ

お問い合わせはプロ・フィット事業部
TEL048-931-3321㈹ FAX048-931-7332
本社・工場 〒340-0002 埼玉県草加市青柳3-24-7
e-mail:info@higano.co.jp

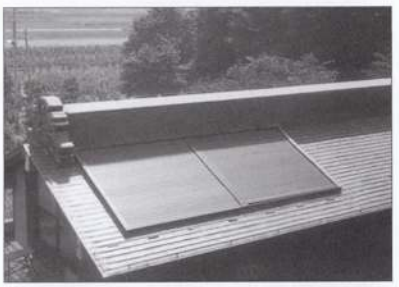
●プロ・フィット【ゲート】カタログをご請求ください。●ホームページでプロ・フィット電子カタログをご覧ください。

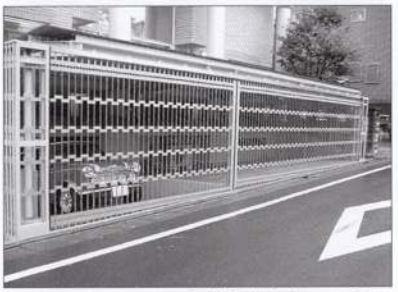
プロ・フィット製品がオールラインナップ http://www.higano.co.jp


電動フォールディングゲート

あなたの理想が現実になります。

横引シャッターは、すべてお客様だけのオリジナル。


電動水平引きシャッター（雨防仕様）


電動パイプシャッター



パイプカーテンゲート（郵政窓口パネル仕様）


電動横引きシャッター



電動防火防煙シャッター

横引きシャッターの主な特徴

- S字や曲線が自由に描ける
- 既存の建物に後付け施工可能
- 上吊り式で動きがスムーズ
- 室内を最大限利用可能
- バリアフリーの下レール無しも可
- オーダーメイドでオンリーワン
- 大きな間口でも一枚のシャッターで防犯可能
- 足立ブランド認定製品 FC ADACHI

★電動製品は障害物感知安全センサー
★手動製品はワンキー・ツーロック鎌錠
全ての製品に標準装備

製品は最大10年保証
（10年後でも部品部材は無料で修理・交換致します）

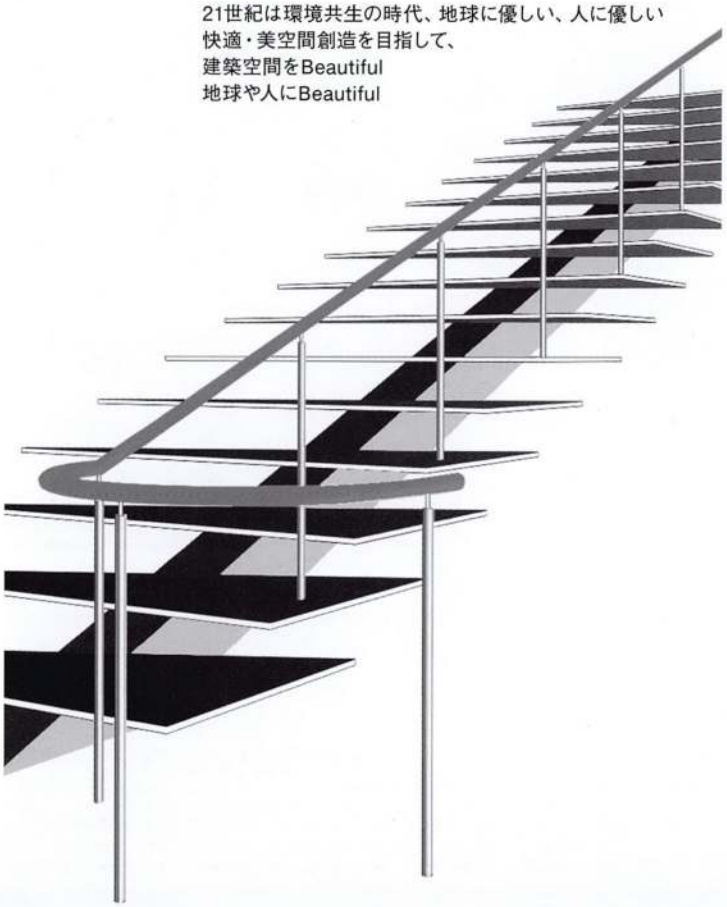
設計・製造・販売・施工　横に引くシャッターの専門メーカー

YOKOBIKI
株式会社 横引シャッター
YOKOBIKI SHUTTER CO., LTD.

〒120-0005 東京都足立区綾瀬6丁目38番7号
TEL.03(3628)4500 FAX.03(3628)1188
ホームページからカタログがダウンロードできます
横引きシャッター　検索

YM-Beautiful

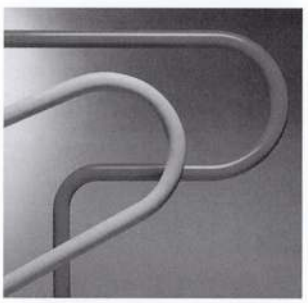
21世紀は環境共生の時代、地球に優しい、人に優しい
快適・美空間創造を目指して、
建築空間をBeautiful
地球や人にBeautiful



自然光や蛍光灯の光で汚れを分解！

光触媒入り手すり

光触媒入り手すりは従来の手すりでは考えられなかった光エネルギーを利用して防汚効果、抗菌効果を発揮します。
また、あらゆる場面で色彩計画がしやすいように豊富なカラーバリエーションを用意しました。



光触媒入り塗料 水性

空快

KU-KAI



室内用天井/壁面塗料です。

ホルムアルデヒド・生活不快臭を吸着/分解/消臭

(社)日本塗料工業会登録 W04001　ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆

ワイエム工業株式会社

本社・工場　〒547-0005 大阪市平野区加美西1丁目9番7号
TEL06-6795-5353

JQA-QMA 10433

札幌営業所	077-789-5071	横浜営業所	045-439-2191	広島営業所	082-294-1323
盛岡営業所	019-648-8530	名古屋営業所	052-622-8278	福岡営業所	092-622-1436
仙台営業所	022-238-7782	京都営業所	075-611-6159	鹿児島営業所	0995-43-1578
東京営業所	03-3634-6632	大阪営業所	06-6792-1350	http://www.ym-k.co.jp	

AICA

探していませんか？
金属エッジをなくしたブース

AICA Toilet Booth


Pure Core type


Melamine Pf type


Soft type


Compact type

ピュアコアタイプエッジ形状

こだわったのは、扉のエッジ部分のディテール。最新のピュアコアタイプでは完全にフラットなまるでひとつのハコのような、ミニマルなデザインを実現しました。豊富な色柄から選べ、壁面や洗面カウンターと同柄でもご使用いただけます。
より快適なレストルームを表現する素材として ―――――― アイカトイレブース。

アイカ工業株式会社　http://www.aica.co.jp/

本社　建装材カンパニー 営業部／〒452-0917 愛知県清須市西堀江2288番地
TEL(052)400-8009　FAX(052)409-8249

アイカカタログセンター　FAX(052)409-1526 TEL(052)409-1471

阪神淡路の震災時は病院、ホテル、大学、銀行、ゴミ処理場など神戸、西宮、芦屋、有馬、淡路島地域の採用場所に出向き安全なことを確認しています。

Nice Joint（ナイスジョイント）


SAS32206
13 ～ 60Su


SAS32221
75 ～ 100Su


JV8-1
13 ～ 60Su

※ナイスジョイントは平成20年8月に、累計出荷21,000,000個を達成しました。
※配管に加速度800ガルを与え、震度7程度に耐えうることを確認しています。
※蒸気還管・高温水用「推定寿命は130℃で27年」を好評発売中。

ナイスジョイントの耐用年数（寿命推定）

温度		130℃	100℃	80℃	70℃	25℃
耐用年数	HNBR	-	10年	40年	80年	100年
	NJSR	27年	50年	100年	-	-
用途		蒸気還管	高温水	給　湯	給　湯	給　水
		高温水			冷温水	
条件		弊社作成の施工マニュアルに従い施工の場合				

寿命推定とは
ゴム材料は各種温度で長時間熱老化及び自然老化の試験をおこなったとき伸びは単純に減少していることから、一般的に伸びがある数値まで低下したときを寿命としてアルレニウスの式で寿命推定を行っている。しかし管継手のガスケットのように圧縮してシール機能を持たせる場合、残留歪みによる応力緩和が重要な特性であるため、、圧縮永久歪による寿命推定を行う。

〔注〕ナイスジョイントの耐用年数（寿命推定）は保証期間ではありませんのでご注意ください。

オーエヌ工業株式会社

本社・工場　〒708-0015　岡山県津山市神戸466
TEL(0868)28-0171㈹　FAX(0868)28-4254
URL http://www.onk-net.co.jp/　E-mail onk@onk-net.co.jp
営業所／東京・大阪・西部・九州　　駐在所／沖縄

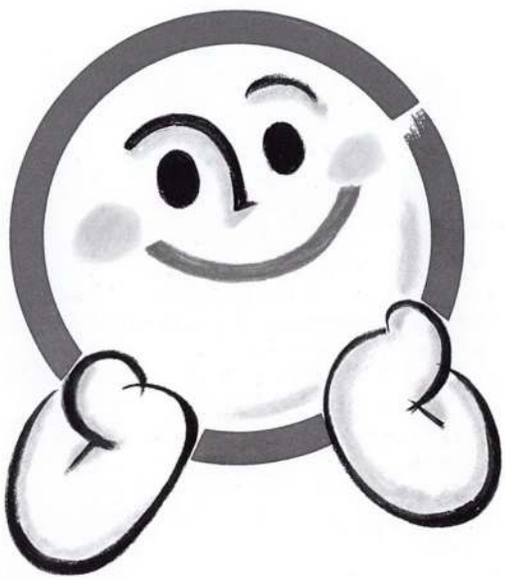


川北電気工業株式会社　取締役会長 牛嶋教雄　取締役社長 大津正己

営業品目　電気設備・送電線・地中線 設計施工／電気機器材料製造加修販売／電気計装設計施工

本　　社／〒460-0008名古屋市中区栄四丁目6番25号 電話（052）251-7111（代表）

地球のこと、明日のこと、
そして、あなたのこと。
答えをいつも、
笑顔にしたいから。



鴻池組はじっくり考え、意欲的に行動しています。
鴻池組は地球に心地よい生活環境を提案し、
新しい技術開発を展開しています。
より安全で快適で自然と共存できる空間を
つくり、地球を笑顔でいっぱいにしたいと
考えています。

鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.
URL http://www.konoike.co.jp/

ワクワク未来 創りたい



Mr.PENTA

揺るぎない技術力と時代の先見性をベースに、人・自然・地球が夢見る理想の姿へ向かって前進する。私たち五洋建設は、潤い豊かな未来を育んでまいります。

つくることから 育むことへ――

五洋建設
PENTA-OCEAN CONSTRUCTION

東京都文京区後楽2-2-8
www.penta-ocean.co.jp

SHIN-EI

JVT型 真空・給水ブースタポンプ



冷却水不要・真空度抜群
80℃以上の高温ドレンもOK!!

●真空発生部に進栄独特の高性能熱水ジェットポンプを使用しており、空気もリーク蒸気も、ドレンも、再フラッシュ蒸気も吸込みますので、ドレン温度を心配せずに安心して御使用になれます。

●蒸気暖房、貯湯槽、熱交換器、吸収式冷凍機、空調機等から排出される蒸気ドレンを吸引、タンクに回収し、再びボイラに給水したり、ボイラ給水タンク、還水タンク（ホットウェルタンク）に送水することができます。

SG 株式会社進栄技研
http://www.shin-ei-giken.com/

東　京：東京都渋谷区渋谷3-6-19 第一矢木ビル　〒150-0002
TEL.(03)5766－2981(代)　FAX.(03)3400－7844

大　阪：大阪市北区天神橋2-4-17 千代田第一ビル　〒530-0041
TEL.(06)6353－4172(代)　FAX.(06)6353－4126

Zenitaka


本願寺尾崎別院

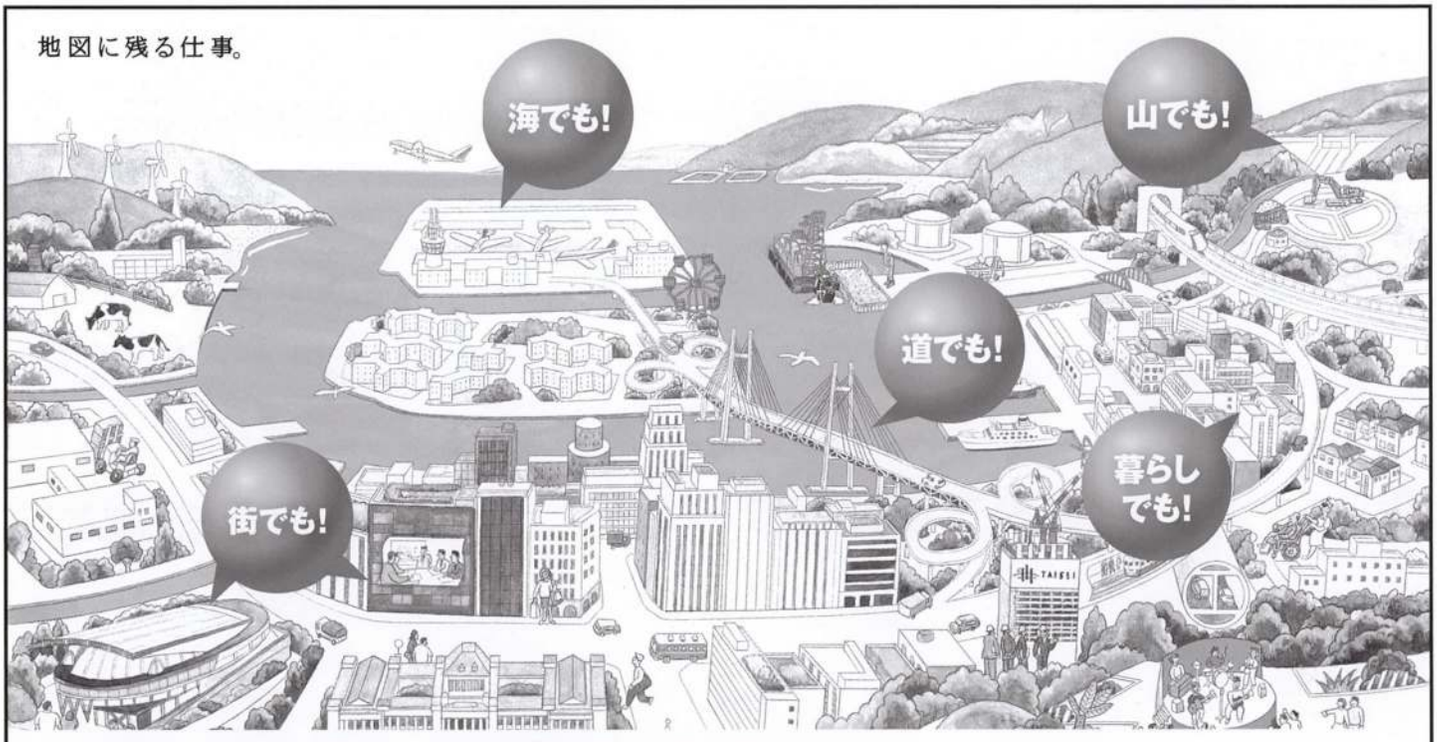
創業1705年

変わり続ける社会にあって、
変わらない私たちの思い。
錢高組は、創業以来
「社会から認められ
社会から求められる企業」として
歴史を刻んできました。
次代に豊かな環境を残すため、
新たな価値を創り続けます。

時を超え、持続する価値創造を

◈ 錢 高 組
URL http://www. zenitaka. co. jp/

地図に残る仕事。



人がいきいきとする環境を創造する

暮らしをもっと便利に、安全に。地球環境に配慮した社会基盤づくりから、
次世代へと引き継ぐべき、さまざまな施設まで。
大成建設が目指す、人がいきいきとする環境へ。私たちのチャレンジはつづきます。

TAISEI 大成建設 http://www.taisei.co.jp/



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

— 光と空気と水を生かす —
ダイダン
http://www.daidan.co.jp/

ほのかな明かりも、大きな動力も…

安らぎ…そこにある明かり　幸せをお届けする電気設備
明かりは人と文化を結ぶ絆です。



東光電気工事株式会社
〒101-8350　東京都千代田区西神田1-4-5　TEL.（03）3292-2111
http：//www.tokodenko.co.jp/

人と環境のありかたを考える。
それも戸田建設の品質のひとつです。

ビル建設に伴う大量の廃棄物をゼロに——戸田建設が超高層ビルの新築工事において、いち早くゼロエミッションを達成しました。これも人と環境のよりよい関係を考え、建設のトータルな「品質」を追求してきた私たちの成果の一つです。さらなる省資源・省エネルギー技術の開発など、これからも私たちは地球環境問題と真正面から取り組んでまいります。



for the Best Quality for the Earth Environment
ISO 9001・14001認証取得

戸田建設

本　社/〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 ☎(03)3535-1354
大阪支店/〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47 ☎(06)6531-6095
http://www.toda.co.jp/



立教大学新座キャンパス



いちい信用金庫　新本店

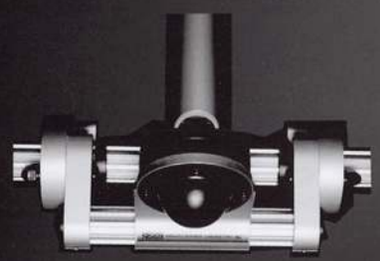
(PCａ・PCの設計・製造・施工)

株式会社ピーエス三菱

本　　社　〒104-8215 東京都中央区晴海2丁目5番24号（晴海ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ） TEL(03)6385-9111(代) FAX(03)3536-6927
大阪支店　〒530-6027 大阪府大阪市北区天満橋１丁目8番30号(OAPﾀﾜｰ) TEL(06)6881-1170(代) FAX(06)6881-1176
●東京支店　●九州支店　●東北支店　●名古屋支店　●広島支店
ホームページ　http://www.psmic.co.jp

先進のディスプレイハンガー

“デザイン”が
空間をかえる







Stylist シリーズ
Stylist FLAT Display Hanger

SFDH

スクリーン / スクリーン埋め込みＢＯＸ / ディスプレイハンガー / プロジェクターハンガー / 他各種映像関連システム
http://www.kikuchi-screen.co.jp/sfdh.html

KIKUCHI
KIKUCHI SCIENCE LABORATORY INC.

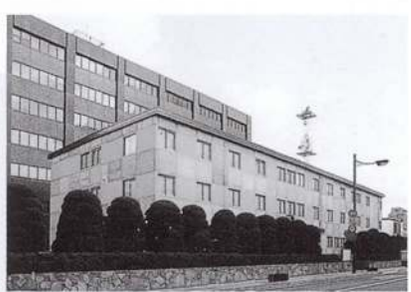
株式会社 キクチ科学研究所

本　　社	〒161-0033	東京都新宿区下落合3-12-35	TEL. 03-3952-5131(代)	FAX. 03-3953-0051
ラージディスプレイ事業部	〒170-0005	東京都豊島区南大塚3-34-6 MOA402	TEL. 03-5979-9890(代)	FAX. 03-5979-9891
大 阪 営 業 所	〒550-0014	大阪府大阪市西区北堀江1-6-24Y'sピアアクセス心斎橋7F	TEL. 06-6538-6070(代)	FAX. 06-6537-2321

「予算が限られている」「今すぐ建てたい」「一定の期間だけ必要」
郡リースのシステム建築シリーズが解決します。

高品質、ローコスト、短工期の３大メリットをそなえ、環境にやさしい、リサイクル・リユースも可能なシステム建築であらゆるニーズに対応できます。

アルティア・ステア





リユース例

GRCの大型パネルを採用した、KOHRIの独自開発による最高級システム建築。工期は在来工法の半分です。

KOHRI　郡リース株式会社大阪支店　TEL06-6444-2161　〒550-0002　大阪市西区江戸堀 3-3-2　コーリ江戸堀ビル
FAX06-6445-1680　http://www.kohri.co.jp/　E-mail：osaka@kohri.co.jp



無溶接金物 ・ 吊元金具

- 床・壁・天井用
- 鉄骨・木用
- デッキプレート・折板用
- 防振・遮音
- H型鋼・C型鋼用
- 耐震・耐風圧用
- 鋼製下地用
- 耐火・防火用
- すじかい用
- その他建築金物

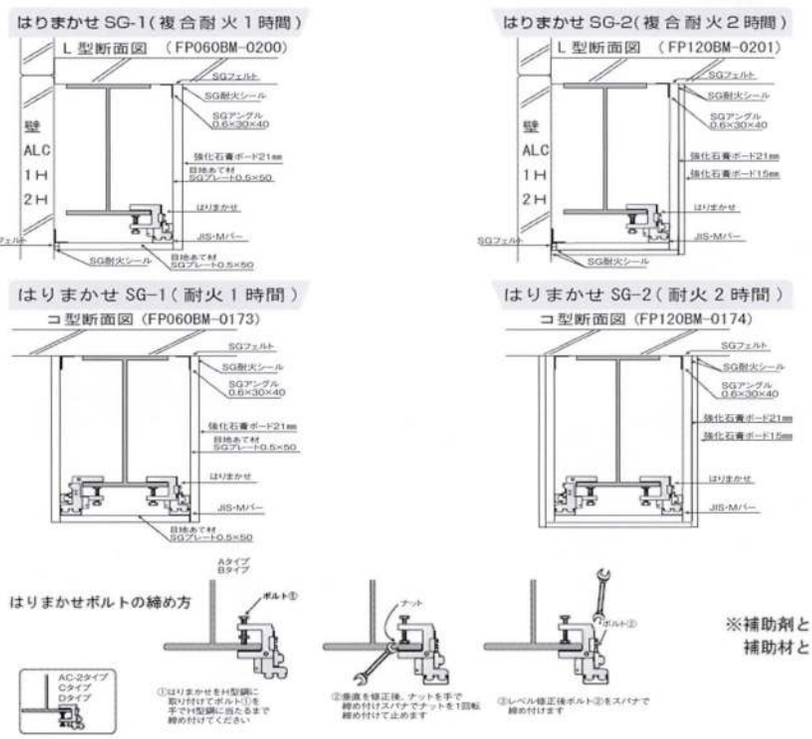
金物製作・製品開発などご相談下さい。

建築金物製造販売・建築資材販売

株式会社 サワタ

本　　社　〒661-0951　兵庫県尼崎市田能５丁目８番１号
TEL(06)6491-0677㈹　FAX(06)6491-0699番
つくば営業所　〒300-1216　茨城県牛久市神谷５丁目19番14号
TEL(029)874-7500番　FAX(029)874-7755番
岡山工場　〒708-0012　岡山県津山市下田邑2232-25
TEL(0868)28-9711番　FAX(0868)28-9788番
田能工場・倉庫　〒661-0951　兵庫県尼崎市田能６丁目９番33号
TEL(06)6491-1676㈹　FAX(06)6491-1693番
http://www.sawata.co.jp/　E-mail:info@sawata.co.jp

無溶接工法 はりまかせ　SG-1（梁１時間耐火構造）
SG-2（梁２時間耐火構造）
国交省認定



はりまかせ工法のメリット

①施工が安全
溶接を使用しないので火災の発生を防ぎ、
溶接による有毒ヒュームの発生防止

②ノンアスベスト工法
石膏ボードを被覆材としているので、
アスベストによる健康障害の予防

③工期短縮
軽鉄下地が早く確実に施工でき、工期短縮、
人件費節減

④仕上げ対応容易
石膏ボードが被覆材なので、仕上げ時の
対応が容易

⑤解体作業が容易
留め付けをボルト、ナットで行っているため、
建物の老朽化による解体作業が容易

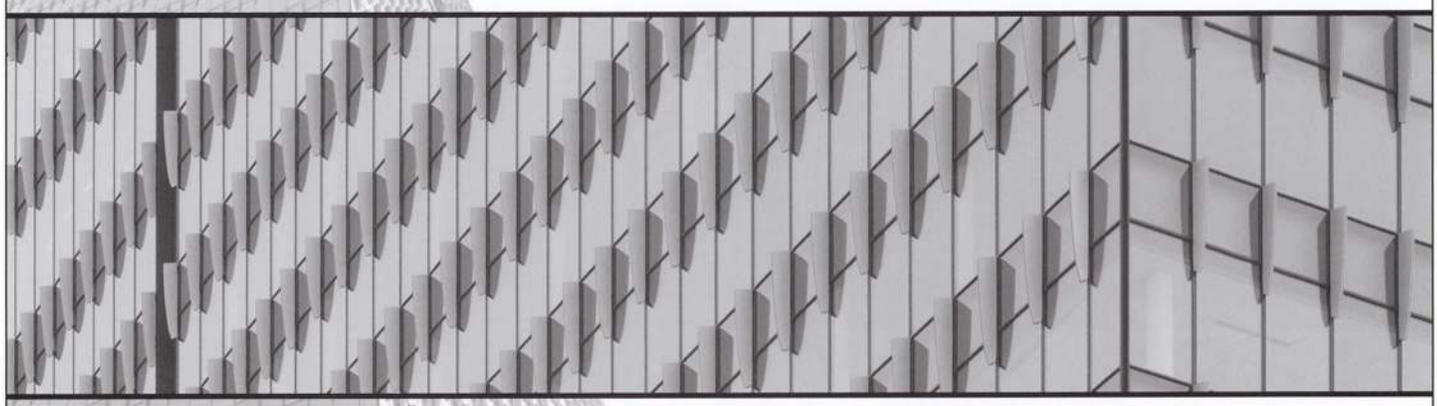
※補助剤として耐火構造で床、壁等に不陸のある場合は
補助材としてSG耐火フェルトを併用して施工してください

SAWATA 建築工事業、内装工事業、建築金物販売
株式会社 サワタ建材社 材と工

〒661-0951　兵庫県尼崎市田能5丁目8番1号
TEL(06)6497-4900番　FAX(06)6497-4410番
E-mail:harimakase@sawata.co.jp

三協立山アルミ

進化する都市空間を創造。



日本経済新聞社 東京本社ビル（日経ビル）　南・西・北面 カーテンウォール工事

三協立山アルミ株式会社

本 社／〒933-8610 富山県高岡市早川70 ビル建材部 TEL(0766)20-2201
関東ビル建材支店 TEL(03)5348-0386　東海ビル建材支店 TEL(052)788-2156
関西ビル建材支店 TEL(06)6448-5451

http://www.sankyotateyama-al.co.jp

パンチングメタル



パンチングメタルの
トップメーカー

松陽産業は
貴社のアイデアを
実現する会社です。

デザインエンボス



SHOYO 松陽産業株式会社

大阪営業所
TEL.06-6543-2666　FAX.06-6543-2665
〒550-0015　大阪市西区南堀江3丁目6番1号（西大阪ビル）
e-mail　csc@shoyo-sangyo.co.jp

関東営業所
TEL047-410-0377　FAX.047-410-0378
〒273-0012　千葉県船橋市浜町2丁目1番1号ららぽーと三井ビル723号

SHOWA YOTAL.Co.,Ltd.

WORLD FINEST FLOORING

高級フローリングメーカーとして
お客様のさまざまなニーズにお応
えいたします。



wajima十番丁ビル



セイコーエプソン・広丘事業所

株式会社昭和洋樽製作所　http://www.showayotal.co.jp

本　　社／〒661 0977　兵庫県尼崎市久々知2丁目22番17号　TEL(06)6492 1328 FAX(06)6492 1566
東京(品川)営業所／〒140 0015　東京都品川区西大井6丁目7番1号　TEL(03)5718 1178 FAX(03)5718 1158

RECYCLE TILE CARPET

SUMI GREEN SG-400

スミグリーンSG-400はLCA(※1)により従来のナイロン製タイルカーペットと比較して
CO_2を19%削減するという評価を得ています。

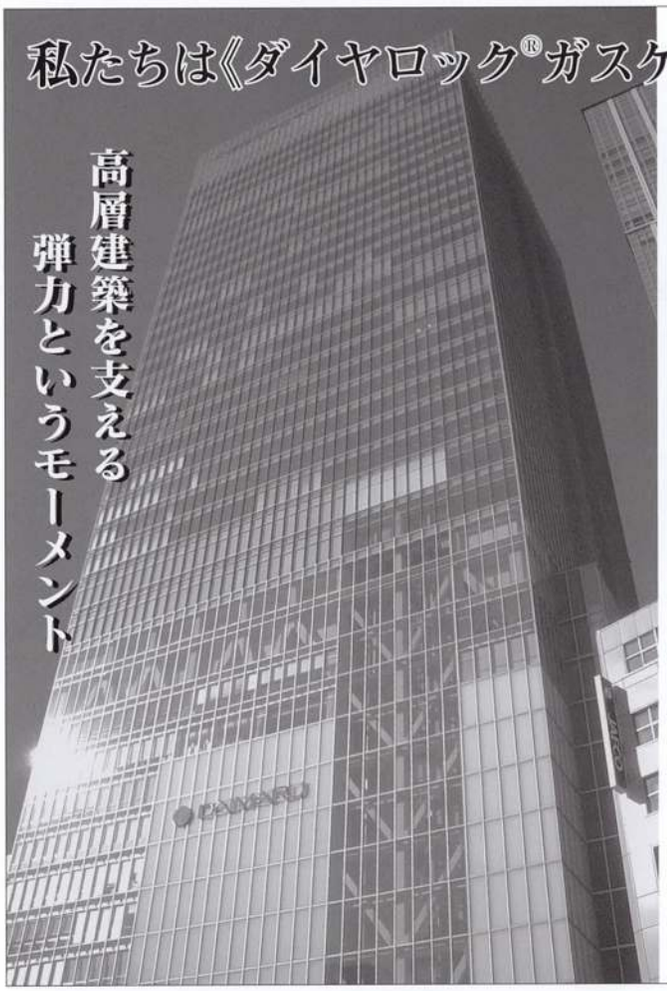
※1（Life Cycle Assessment）LCAは、みずほ情報総研株式会社によるものです。

-19%

http://suminoe.jp/interior

セールスネットワーク
株式会社スミノエ　■本社：大阪市西区新町2-4-2 なにわ筋SIAビル6F TEL.06-537-6305
■東日本開発部 ：TEL.03-5434-2928　■西日本開発部 ：TEL.06-537-6317

ゆたかなインテリアライフをお届けする信頼のブランド
住江織物株式会社　■本社：大阪市中央区南船場3-11-20



私たちは《ダイヤロック®ガスケット》で快適空間づくりに応えます

高層建築を支える
弾力というモーメント

DIALOCK
【ダイヤロック®シリーズ】
新しい工法、新しい素材を常に要求する
現代建築にお応えします。



H型ジッパーガスケット

金属サッシや型鋼等の金属フレームに、ガラス（またはパネル）を直接取り付けることが可能です。ガスケットは予めサッシの寸法に合わせて工場の生産段階で四隅を成型してあります。現場ではガラスをはめ込み、ゴムのジッパーで固定するだけです。



Y型ジッパーガスケット

プレキャストコンクリート板（PCa板）の開口部に、金属サッシ等を用いず、ゴムを介して直接ガラスを取り付けるタイプです。内装・外装機能をPCa板にセットして、一体化を実現。メンテナンスに至るまで高い経済性を実現しました。



エアータイトガスケット

アルミサッシ内部の接合部あるいは窓の戸当たりゴムとして高い気密性能、水密性能を確保します。



環状目地ガスケット

PCa板やアルミサッシユニットの外周に環状に配置され、これらパネル間の気密性能、水密性能を確保します。
PCa板では3時間の柱、はりの耐火構造指定をうけております。

ジッパーガスケット「ダイヤロック」は窓ガラスのグレージング用ガスケットとして、とくに耐風圧、耐震、水密、気密性などに優れた機能を備えています。

TKG 株式會社 タケチ
ホームページ http://www.takechi.co.jp/

大阪本部 〒564-0083 大阪府吹田市朝日が丘町15番2号
TEL.06-3678-3799 FAX.06-6378-3880 E-mail dialockosaka@takechi.co.jp

東京支店 〒102-0076 東京都千代田区五番町10番2号（五番町センタービル）
TEL.03-3230-3761(代表) FAX.03-5276-7727 E-mail dialocktokyo@takechi.co.jp

工場 松山工場・伊予工場・砥部工場・唐川工場・TRI(タケチマレーシア)

建物の長寿命化

建物の省エネ化

私たちのアスファルト防水なら、
環境問題にも
貢献できます。

都市のオアシス化

防水工事に伴う環境負荷の低減

'09年版 発刊！



環境にやさしい
アスファルト防水仕様書

確かな防水性能と、優れた環境性能を両立させる。
東西アス協組のアスファルト防水は、建物の寿命を延ばし、省エネ化を実現。
そして都市のオアシス化を推進します。工事に伴う環境負荷も、しっかり軽減。
「建物を水から守り、安全で快適な住環境を提供する」という使命に応えながら、
ますます地球にやさしい防水仕様を完成させました。
いま、世界中がしのぎをけずって取り組んでいる環境対策。
私たちは防水の側面から、適切なエコロジー貢献をします。
建築防水の集大成「環境にやさしいアスファルト防水仕様書2009年版」を
発刊いたしました。ぜひ、ご活用ください。

東西アスファルト事業協同組合 http://www.tozai-as.or.jp/
田島ルーフィング株式会社 http://www.tajima-roof.jp/

東京 (03)5821-7711 仙台 (022)261-3628 金沢 (076)233-1030
(03)5821-7712 北関東 (048)641-5590 名古屋 (052)220-0933
大阪 (06)6443-0431 千葉 (043)244-3711 広島 (082)246-8625
札幌 (011)221-4014 横浜 (045)651-5245 福岡 (092)724-8111

エネルギーを上手に活用する高付加価値な防水技術

サンロイドDN 防水システム®

太陽電池一体型防水シート

サンロイドDN ソーラシート



ソーラシートとは、太陽電池モジュールと防水用シートを一体化したシートです。

- ●金属や架台が不要なので、従来の1/20と軽量です。
- ●年間発電量は結晶系太陽電池の10%も上回る夏場に強い発電性能です。
- ●改修と同時に太陽電池モジュールの設置が可能な改修に最適なシートです。
- ●RCはもちろん、PC板・ALC板などその他にも様々な躯体構造に適応しています。
- ●太陽電池モジュール設置の基礎工事が不要なので、工期の短縮が可能です。

蓄熱槽断熱防水［エネテックシステム］



蓄熱槽断熱防水とは、オフィスビルなどで利用する冷房・暖房や給湯などの熱需要を、電気料金の安くなる夜間（22時～翌朝8時）の間にヒートポンプを運動し、「温水や氷として蓄え利用する」省エネルギー化システムです。

- ●高深度（水深15mまで）な蓄熱槽にも対応が可能です。
- ●非曝露用途に使用される物性バランスにすぐれた専用シートです。
- ●熱損失の少ない断熱材を使用しています。

住友ベークライトグループ

筒中シート防水株式会社

ISO 9001・ISO 14001 認証取得

［東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・富山・広島・福岡］

本　社　〒140-0002 東京都品川区東品川2丁目5番8号（天王洲パークサイドビル） TEL(03)5462-8960

大　阪　〒661-8588 兵庫県尼崎市東塚口町2丁目3番47号 TEL(06)6429-7136

HP:http://www.sunloid-dn.jp　E-Mail:sunloid-dn@sumibe.co.jp

For the Beautiful Earth.
防水から環境を考える

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

Windows Mobile

高性能インターネットケータイ

薄さ約9.9mm × 約4.1インチワイドVGA液晶 × フルタッチパネル

Windows Mobile® 6.5バージョンアップ対応



Black



Silver

dynapocket

docomo PRO series
T-01A

docomo

※iモードには対応しておりません。　※画面はイメージです。※「iモード」はNTTドコモの登録商標です。※「dynapocket」は株式会社東芝の商標です。株式会社東芝 モバイルコミュニケーション社　〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1 http://www.toshiba.co.jp　マナーもいっしょに携帯しましょう。

NONWAXLEUM ノーワックス
ノンワックスリューム ＋ 抗菌仕様



全ての医療・福祉施設へ

**追い求めたのは、
清潔な環境づくりでした。**

ワックスを使用せずに、美観を維持できる重歩行ビニル床シート「ノンワックスリューム」が新登場。日常清掃での美観維持を可能にし、メンテナンス費用の削減にも貢献。さらに、抗菌性・耐薬品性を併せ持っているので、医療・福祉施設等で安心して使用することができます。

- 優れた耐摩耗性のインレイドシート
- メンテナンス費用を大幅に削減
- 優れた抗菌性・耐薬品性
- 優れた柔軟性・寸法安定性

規格 寸法：1,820mm×20m、
厚み：2mm、UV樹脂コーティング
構成 1柄16色

TOLI 東リ株式会社 http://www.toli.co.jp

西日本営業開発部 TEL 06(6943)1645
東日本営業開発部 TEL 03(5403)2067

NISSEIは、人と車と街と、いい関係。

さらなる進化を遂げたLEVEL水平循環方式パーク
ターンテーブル「地下旋回タイプ」

バリアフリー対策は日精におまかせください！

フラットトレー
高齢者、車イスを使用される方などが、安全かつスムーズに移動できる、段差の少ないフラットトレーを採用します。

スペースの確保
1.4メートルの回転スペースを確保するなど、乗込口まわりを広くすることで、利用者の入出庫作業を容易にします。





地下のリフト位置で高速旋回する機構を実現。これまで通りのスピーディな前進入出庫が可能。

日精株式会社 パーキングシステム事業部 http://www.nissei.co.jp/parking/
〒105-8411 東京都港区西新橋一丁目18番17号 明産西新橋ビル TEL(03)3502-9555～7(ダイヤルイン)FAX(03)3597-9548
札幌(011)231-8513/日立(029)285-8000/名古屋(052)252-0360/大阪(06)6244-9401/山口(0833)43-6637/福岡(092)474-6261

多彩な建築空間を創造する **鋳 鋼 品**





東京スカイツリー

日本鋳造株式会社

エンジニアリング事業部営業部　建築金物グループ
神奈川県川崎市川崎区白石町２番１号
TEL:044-344-3383　　FAX:044-355-8543





美しい街づくりへ向けて

Technical & Reliance

株式会社ニューメタル工業

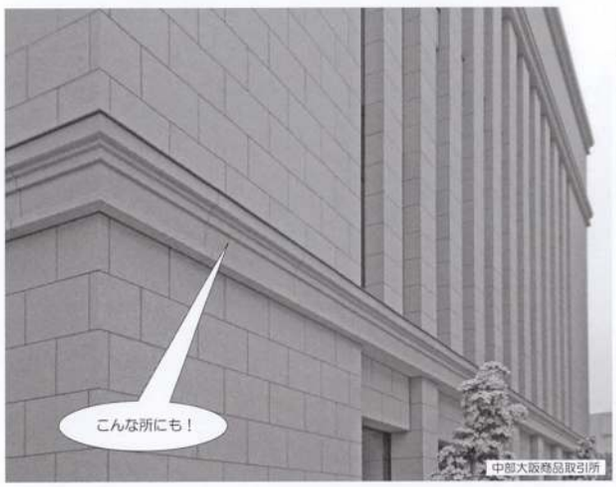
〒811-1232　福岡県筑紫郡那珂川町埋金830-1
TEL　092-954-2600(代表)　　FAX　092-954-2366
Website　:　http://www.new-metal.co.jp
E-mail　:　info@new-metal.co.jp

アルミルーバー・スチールZP各種製品　設計・製作・施工

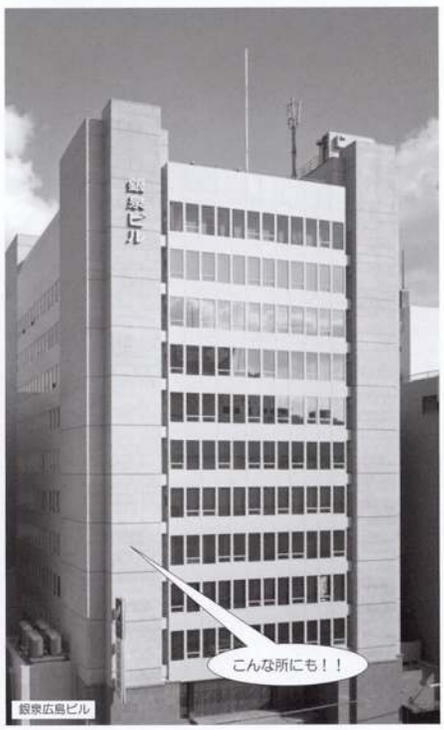
そろそろ、いきの長い外壁に変えてみませんか・・・

現場再現型吹付人造石 **ハマキャスト・ニュージュエル**

➡ 長寿命メンテナンスフリー４０年・２０年対応の２種
（超耐候・親水性樹脂　セラミックス発色で変退色なし）
➡ 軽量・剥離脱落の心配なし
➡ 自然石との色目合わせ施工も可能







ISO 9001 2000

ハマキャスト（Hama cast）は登録商標です。

株式会社 ハマキャスト

本　社　〒553-0006 大阪市福島区吉野3丁目2番32号
URL　http: //www.hamacast.co.jp

＜お問い合わせ先＞
大阪支店　大阪市北区西天満4丁目14番3号（住友生命御堂筋ビル7F）
〒530-0047　TEL（06）6311-6888　FAX（06）6311-5455
E-mail　eigyo@hamacast.co.jp
東京支店　東京都港区赤坂3丁目2番6号（赤坂中央ビル9F）
〒107-0052　TEL（03）5549-9823　FAX（03）3583-6551
E-mail　tokyo@hamacast.co.jp



HITACHI
Inspire the Next

アーバンエースは、通常時はもちろん、地震や火災などの非常時においても安全性を追求。遠隔監視による管制運転や液晶画面による誘導案内で、利用者を素早く避難させます。また、R型（住宅用）で2850mm、P型（乗用）で3000mmの業界最小*1オーバーヘッドを実現*2し、建築レイアウトの自由度が向上しました。

*1 2006年12月時点日立製作所調べ
*2 速度45・60m/minで対応

日立標準型エレベーター
アーバンエース
http://www.hitachi.co.jp/urban/

株式会社 日立製作所
お問い合わせは ＝ 関西支社　都市開発システム部
〒530-0004 大阪市北区堂島浜二丁目2番28号（堂島アクシスビル）　電話（06）4796-4111（代）

2009 New Products

HB-2900 / HB-2911 Handbar

身障者対応ハンドバー【ギュット】

凸凹形状のグリップで体をしっかりサポート。

私たちの身近なところで、動作をそっと支えてくれるハンドバー。その重要性を再認識し、使いやすさを原点から見直すことで、握りやすく滑りにくい凸凹形状グリップのハンドバー［GYUTTO（ギュット）］が生まれました。車椅子を使う方や握力の少ない方でも、便座への移乗や体位の保持がしやすく、自立した生活をやさしくサポートします。

HB-2911-01-L

HB-2900-01

UNION

建築文化を創造する

株式会社ユニオン

本社
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22

大阪支店
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22
tel 06-6532-3731
fax 06-6533-2293

東京支店
〒135-0021
東京都江東区白河2-9-5
tel 03-3630-2811
fax 03-3630-2816

名古屋営業所・ショールーム
〒454-0805
名古屋市中川区舟戸町3-20
tel 052-363-5221
fax 052-363-5255

アトリエユニオン(ショールーム)／大阪
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22
tel 06-6532-8920
fax 06-6533-0224

www.artunion.co.jp

地球も学校も大好きだから…

アーキヤマデの「エネブリッド」は太陽光発電を軽量・低価格・短工期で設置できる、屋上の改修システムです。
スクール・ニューディールに対応し、学校のエコ改修にオススメです。

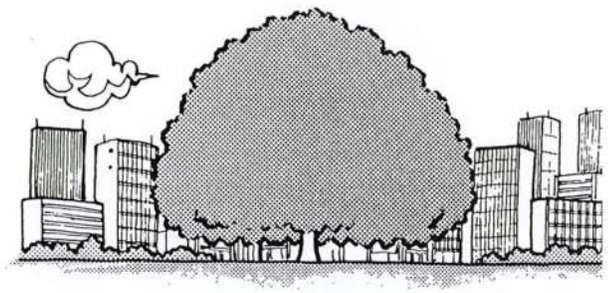
太陽光発電連結システム
エネブリッド

建築文化を守る…
アーキヤマデ

大阪本社／TEL.06-6385-8545
東京支店／TEL.03-3861-1615

詳しくは…
エネブリッド
検索

深呼吸できる環境づくり



よりよい人間・生産環境の創造を

朝日工業社

本社・本店　〒105-8543　東京都港区浜松町1-25-7　TEL 03-3432-5821
大阪支社　〒532-0031　大阪市淀川区加島1-58-59 TEL 06-6302-2273
支　　店　北海道／東北／北関東／東関東／横浜／名古屋／中国／九州

お客さまに安心と信頼という価値をお約束します

ASAMI
Electric Corporation

浅海電気株式会社 URL.http://www.asamidenki.co.jp/
本社/〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号 TEL.06-6362-8701
本店/大阪・東京　支店/札幌・浜松・名古屋・九州



For Precious Life
株式会社INAX関西統括支社

〒550-0013 大阪市西区新町1-7-1 INAX大阪ビル
電話06-6539-3500(代表)
INAXホームページ・アドレス http://www.inax.co.jp/



神戸空港　超大型電動門扉

全長 45m　総重量 7.1t　開閉所要時間 2 分 50 秒。
手動時 開閉牽引力 33kg（重量 1/215）。開閉安全装置。
地盤沈下対応。　転倒，脱輪，巻込，防止装置付。

応緑株式会社 オーリョク
〒670-0824 兵庫県姫路市京町 1 丁目 11 番地
TEL 079-224-7501
FAX 079-224-7507
http://www.ohryoku.co.jp





鉄に新しい表情を与え
環境との調和を目指します

オーエム工業株式会社
本社　〒559-0011　大阪市住之江区北加賀屋 3-3-44
TEL　06-6685-0661　FAX　06-6685-0670
URL　http://www.om-industry.co.jp

OSHIMA OHYO

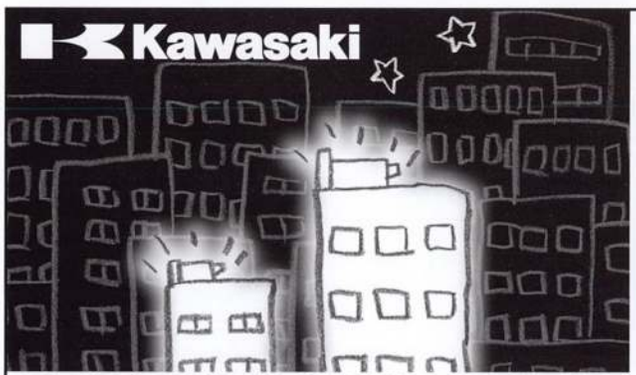
耐酸被覆鋼板のパイオニアとして半世紀の経験で培われた製品群は愛媛工場（ＩＳＯ９００１認証取得）で厳正な品質管理を行って皆様のニーズにお応えします。

■ 耐酸被覆鋼板
■ フッ素樹脂積層被覆鋼板
■ 長尺屋根外装材、換気装置

支　店／東　　京　TEL 03（3831）6855
名　古　屋　TEL 052（241）8588
新居浜土木建築　TEL 0897（46）2300
営業所／岡山、広島、宇部

ＩＳＯ　９００１　品質マネジメントシステム認証
大島応用株式会社
本社　〒535-0001　大阪市旭区太子橋 1-15-22
TEL　06（6954）6521　　FAX　06（6954）6480

Kawasaki

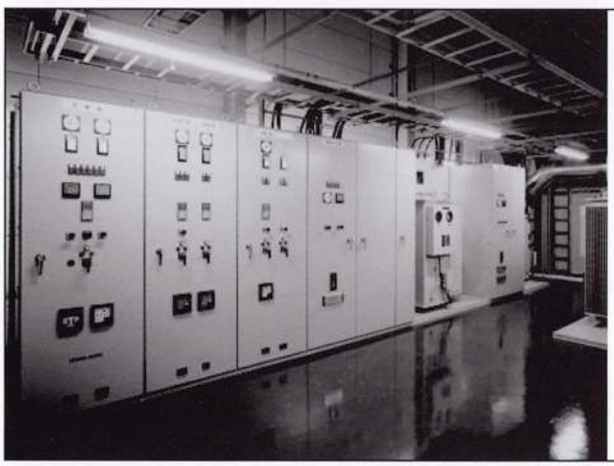


必要な電力を、確実に提供します。
GREEN Gas Turbines
非常用ガスタービン発電設備
カワサキPUシリーズ
出力150kVAから6,000kVAまで、全21タイプをシリーズ化
川崎重工業株式会社
www.khi.co.jp
ガスタービンビジネスセンター
●東京本社　〒105-6116 東京都港区浜松町2丁目4-1（世界貿易センタービル）TEL:03-3435-2564
●関西支社　TEL:06-6348-8287
●中部支社　TEL:052-388-2207
●中国支社　TEL:082-511-0852
●九州支社　TEL:092-432-9560

エコマーク認定置敷ビニル床タイル



REFINEBACK EXA
リファインバックエグザ
CO2 −13% by RECYCLED BACKING 塩ビバッキング層のリサイクルによるCO2削減量※
＋
CO2 −8% with GREEN ENERGY グリーン電力使用による CO2削減量※
※（社）産業構造管理協会エコリーフデータより
業界で初めて「グリーン・エネルギー・マーク」を採用。製造過程で発生する電力をグリーン電力で充当しています。CO2削減効果もあり、低炭素社会実現に貢献します。
株式会社川島織物セルコン
www.kawashimaselkon.co.jp
商品のお問い合わせはフロアカバリング商品部まで
03-5144-3853 9:00AM～5:00PM（土、日、祝日、特別休日を除く）



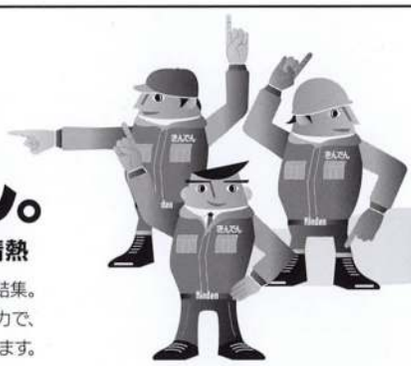
【安全及び環境に配慮した軽量化、縮小化、省エネ化製品を提供する】
㈱京都精工電機株式会社
代表取締役会長　井上 哲次
代表取締役社長　浦出 義次
事業内容　配電盤製造
（日本配電制御システム工業会会員）
〒615-8686　京都市右京区梅津高畝町47
TEL. 075-873-2555　FAX. 075-873-2556
〒601-8204　京都市南区久世東土川町350
TEL. 075-922-7137　FAX. 075-922-7138
http://www.ksec.jp

Kinden

チーム、きんでん。

（施工力＋技術力＋現場力）×情熱

"お客さま満足"という目標に向かって、さまざまなスタッフが力を結集。
人間力を基盤とした総合エンジニアリング力で、
あらゆるソリューションにお応えします。



エネルギー＋環境＋情報

本店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 東京本社 東京都千代田区九段南2丁目1番21号
TEL.06-6375-6000 TEL.03-5210-7272
http://www.kinden.co.jp/ きんでん

KUMANO WOOD 熊野川流域木材協同組合

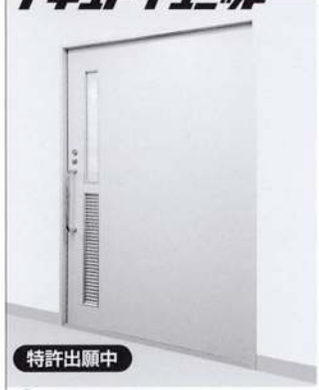


熊野川流域から届く、木の恵み

熊野川流域木材協同組合は、木造製品の開発・販売を主な業務とし、和歌山県新宮市を中心に紀伊半島南部の地域で活動しております。
天然乾燥させた杉・檜などを取り扱う木材関係者で組織された組合です。

熊野川流域木材協同組合
〒647-0025 和歌山県新宮市あけぼの４番７号
TEL 0735-23-9120 FAX 0735-22-4460
E-mail info@kumanowood.com

くろがね吊下げ式引戸
アキュドアユニット



特許出願中

KUROGANE

まったく新しい自閉式引き戸のカタチ…

NEW 両面枠見付型
BNRタイプ

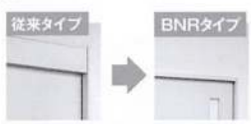




両面とも
ほぼ同じ外観の
両面枠見付型

従来の吊り下げ式引き戸にあったメンテナンスパネルを無くし、部屋内側、通路側のどちらから見てもほぼ同じ、すっきりとした外観を実現しました。さらに、高耐久性・長期安心保証のアキュライドレールを標準装備したハイクウォリティモデルです!

特徴1 スッキリとした外観



従来のメンテ側にあった大きなメンテナンスパネルを無くすことにより、壁面の意匠性が大きく改善されます。

特徴2 メンテナンスは下から!



メンテ側上枠カバー下面の両端にあるビスを２本はずすだけでカバーが取り外せ、レール部のメンテナンスをすることができます。

アキュライドレールは、業界初の50年保証!



総合病院の実地調査に基づき病院建物の税法上の償却最長期間である50年間（昭和57年当時）にドアが開閉される回数を300万回と設定し、300万回の連続開閉試験をクリアしたアキュドアに使用しているアキュライドレールを、くろがねは50年間保証をいたします。

※通常の使用によりアキュライドレールに不具合が生じた場合のみ保証の対象といたします。

株式会社くろがね工作所 http://www.kurogane-kks.co.jp/
東京
〒105-0014 東京都港区芝1-10-13（芝日景有楽ビル）
TEL (03) 5439-9111 FAX (03) 5439-9115
大阪
〒550-0013 大阪市西区新町1-4-26（COI四ツ橋ビル）
TEL (06) 6538-1060 FAX (06) 6538-1061
札幌・名古屋・山口・九州

削減するエコから、創造するエコへ。
コクヨの「エコライブオフィス」です。

コクヨの「エコライブオフィス」は「エコ＋クリエイティブ」という発想で
まったく新しいワークスタイルを創り上げる実験オフィス。
さまざまな工夫でCO_2の排出量を削減するとともに、
働く人が創造性や生産性を高めていける空間です。
この空間が、これからどんな価値を生み出すのか。
新たな可能性を秘めたエコライブオフィスに、今後ともぜひ、ご期待ください。



コクヨオフィスシステム株式会社
〒100-6018 東京都千代田区霞が関3-2-5 www.kokuyo-kos.co.jp/



間仕切の総合メーカー
小松ウォール

壁面化粧パネル
SURFACE WALL
サーフィスウォール

小松ウオール工業株式会社 http://www.komatsuwall.co.jp/
□本　　社／石川県小松市工業団地 1-72　／(0761)21-3131 (代)
□東京市場開発部／東京都千代田区三番町 8-1　／(03)3263-2771 (代)
□大阪市場開発部／大阪府大阪市中央区西心斎橋 1-1-13／(06)6241-8416 (代)

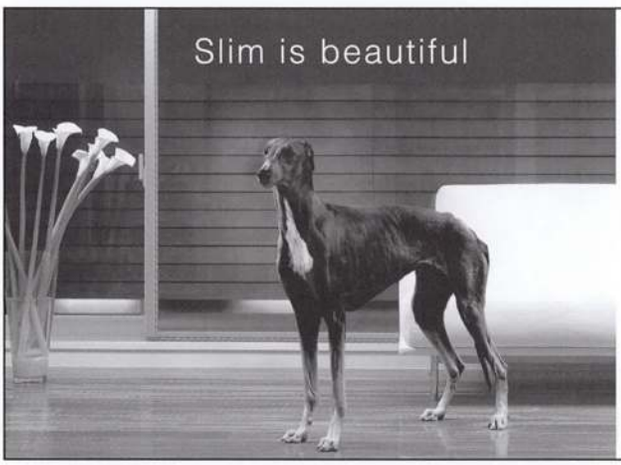
SIGN / DESIGN , PLANNING , ENGINEERING
SUNWAY
sunway-sign.com

株式会社 サンウェイ　一級建築士事務所
本社 〒530-0044 大阪市北区東天満1丁目11番2号 TEL 06-6353-4732 FAX 06-6353-4820　東京営業所 TEL 03-6229-5967　九州営業所 TEL 092-874-2277

belbien Clea
透過性ガラス装飾フィルム　ベルビアンクレア

製造元 シーアイ化成株式会社
www.belbien.net
販売元 シーアイマテックス株式会社 大阪建装資材
大阪市西区江戸堀1-3-15(新石原ビル9階)
Tel 06-4803-5166 Fax 06-4803-5322





スリムだから美しい。ビル用サッシの新しいスタンダード
SHINNIKKEI 新日軽

召合わせ部は、幅40mmシンプルでシャープなフォルムでよりスリムに、
より快適に、使いやすく。新日軽のビル用サッシ、RMG-70。

40 millimeters

70見込次世代ビル用サッシ
RMG-70
NEW CONCEPT WINDOWS

新日軽株式会社 大阪ビル建材支店 〒532-0011 大阪市淀川区西中島7-1-5(辰野新大阪ビル) TEL.06-6390-1351 www.shinnikkei.co.jp



環境と自然に調和した溶融亜鉛めっき
鉄を錆から守って101年のめっきパイオニア企業

タナカ-AZ
重防錆対応
ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき

タナカ-CZ
景観調和対応
過ﾏﾝｶﾞﾝ酸処理

タナカ-P4
景観調和，塗装下地対応
りん酸着色処理

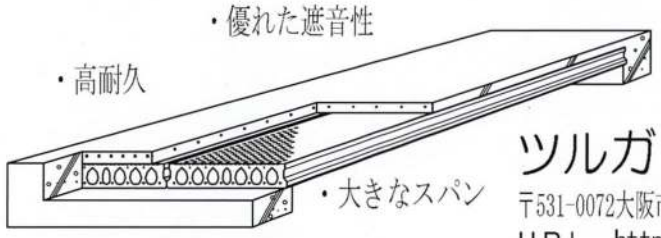
JIS認定工場
田中亜鉛鍍金株式会社
HP http://z-mekki.com E-MAIL tg-soumu@z-mekki.com
本社／営業 〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島5丁目1番1号 TEL(06)6472-1234 FAX(06)6473-2355
尼崎工場 〒661-0965 尼崎市次屋2丁目1番57号 TEL(06)6499-4614 FAX(06)6498-4694
堺 工 場 〒592-8331 堺市西区築港新町3丁目27番地8号 TEL(072)244-6500 FAX(072)247-2227
グループ会社 横浜ガルバー株式会社、秋田ガルバー株式会社



電磁波シールド扉・遮音扉・ガラス入特定防火設備等・タナカブランドオーダーサッシの
最新鋭設備により、無限に広がる創造力を活かした製品づくりを目指し
設計者の想いに、高度な技術力と開発力、高い感性でお応えします。

田中サッシュ工業株式会社
http://www.tanakasash.co.jp
本社・工場
〒236-0002 神奈川県横浜市金沢区鳥浜町11-7
TEL. 045-776-7300 FAX. 045-776-7330
大阪営業所
〒540-0026 大阪市中央区内本町1-3-5（内本町山森住友生命ビル10階）
TEL. 06-6946-3521 FAX. 06-6946-3526

マンション・倉庫・病院・学校に…
プレストレスト構造のスパンクリート合成床工法を！！



壁・床・屋根にも…
穴あきＰＣ板スパンクリートを！！
ツルガスパンクリート株式会社
〒531-0072大阪市北区豊崎３丁目９番７号（いずみビル） TEL06(6374)1245 FAX06(6371)3823
ＵＲＬ http://tsuruga-span.co.jp/ 名古屋支店 052(571)7481 FAX052(582)0239

技術と信頼で社会に貢献する

東洋テクノ株式会社

ホームページ http://www.toyotechno.co.jp E-mail:system@toyotechno.co.jp

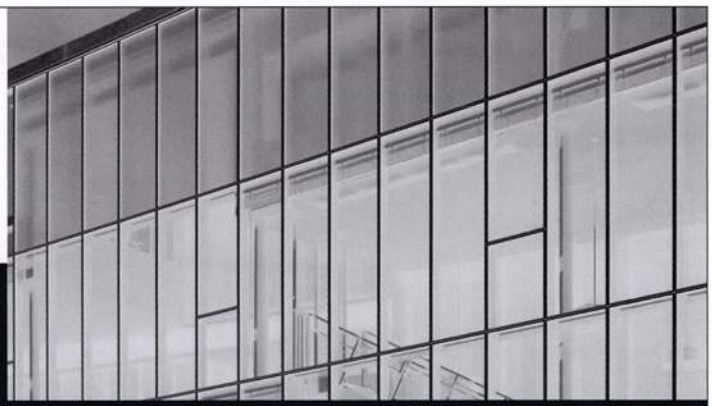
■本　　社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 5-4-12（大成鋼機ビル 6F） ☎03-3444-2141
■大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町 1-15-6（西本町ビル 9F） ☎06-6534-6652

TOSTEM

カーテンウォールが、ここまで
スリム&シンプルに。

E-SHAPEは、スリムな55mm見付でFix部から
可動部にいたるまで統一。設計者の想いを自由に
表現できるシンプルなカーテンウォールです。

E-SHAPE
イーシェイプ



トステムビル用商品インターネットホームページ http://www.tostem.co.jp/bldg/
ビル建材本部 ビル関西支店 大阪市住之江区南港北1-7-62 TEL (06) 6615-2730

トステム株式会社

広い視野と
確かな技術で、
快適空間を
創造する。

《営業品目》
・木工造作・家具工事
・建築内外一式工事
・リニューアル工事
・インテリア工事
上記に関する企画・設計・施工

《商事部門》
内外装建築材料の販売
土木・建築用資機材の販売・賃貸及び仲介

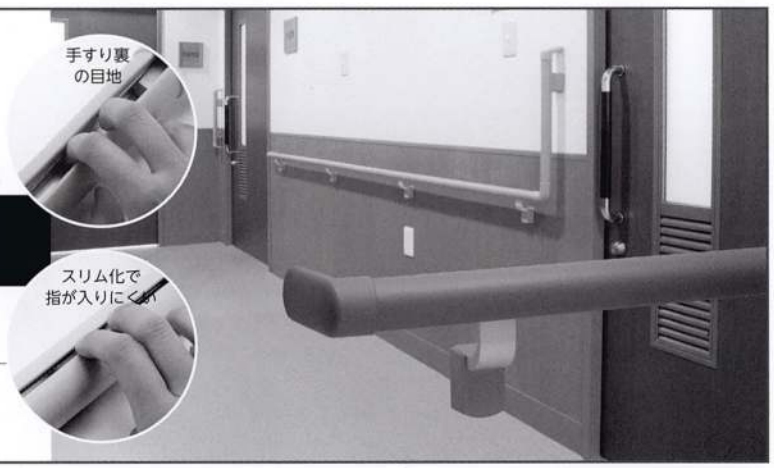
株式会社 内外テクノス

東京本社	〒163-1010	東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー10階	TEL. 03-5325-5990
本社工場	〒356-0051	埼玉県ふじみ野市亀久保1150	TEL. 049-261-3611
大阪支店	〒540-0031	大阪市中央区北浜東6-9ルポンドシェル5階	TEL. 06-4300-4680

より使いやすく、より安全に。
廊下階段手すりが進化しました。

ナカ工業の廊下階段手すりは、より美しく、より使いやすく、より安全にするために、手すりの目地幅を 9mm からスリム幅に切り替わりました。

スリム目地手すりシリーズ
廊下階段手すり［ビニレーン］［グラハン］［ネオウッド］［グラウッド］で登場。



くわしくはホームページで！
ナカ工業 検索

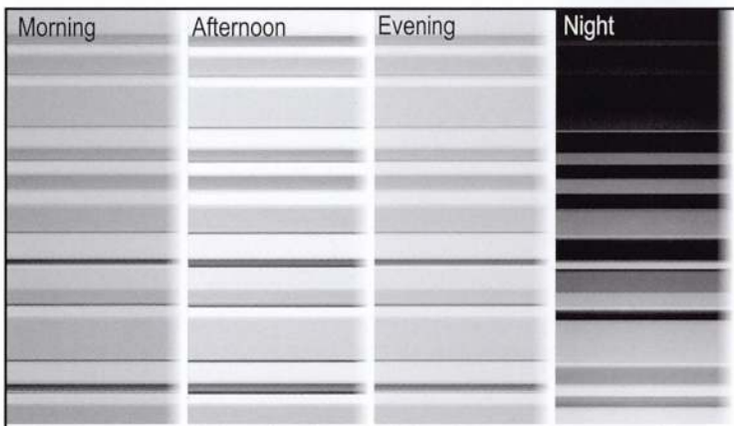
やさしさと安心を　たしかな技術で支えます。
ナカ工業株式会社 URL http://www.naka-kogyo.co.jp
大阪支店 〒532-0027 大阪市淀川区田川3-9-36 TEL.06-6886-8966

給排水衛生設備工事

株式会社 西原衛生工業所

代表取締役社長　藤島　正純

本　　社　〒105-0013 東京都港区浜松町二丁目８番14号
ＴＥＬ　03（6848）0480㈹
大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目８番18号
ＴＥＬ　06（6458）3625
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州



四季、時間によって変化する表情　（Type SP 純白 の場合）　･･･ 他に３つのデザイン

風光
HOOKOU
NICHIHA

テーマは光と影。窯業系サイディング 21×455×3,030

空から降り注ぐ光の恵。朝から夕へ、刻々と変化する
光と影の会話、表情。 風光、４つの Light & Shadow

ニチハ株式会社　http://www.nichiha.co.jp
お客さま相談室 052-220-5125　市場開発部 東京 03-5205-3916　市場開発部 大阪 06-6532-3008

人にやさしいブラインドだから、地球の未来にも、ずっとやさしく

ニチベイは、美しい地球を未来につないでいくために、
環境に配慮した商品開発と事業活動を展開していきます。

ニチベイの商品開発理念

3K+S= 環境 健康 高齢 ＋ 省エネ

ニチベイでは、すべての人に快適に安心してお使いいただけるよう、
環境･健康･省エネに加えて、ご高齢の方にも配慮した商品づくりを目指しています。





Nichibei 株式会社ニチベイ 西日本推進室
〒540-0031 大阪府大阪市中央区北浜東1-8 TEL.06-6949-2806 http://www.nichi-bei.co.jp/

次代へ　どんな未来をつないでいこう･･･?

株式会社
日鋼サッシュ製作所
Nikko

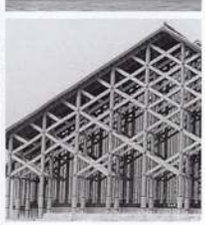
スチール･アルミ･ステンレスサッシ設計･製造･販売
URL / http://www.nikko-ltd.jp

営業品目
防音ドア（日鋼防音くん）
耐熱ドア（日鋼耐熱くん）
一般ドア
カーテンウォール
その他

本　　社　〒761-8052 香川県高松市松並町1035番地　TEL087-867-1674　FAX087-867-7999
東京支店　〒335-0025 埼玉県戸田市南町７番８号　TEL048-447-4411　FAX048-447-4415
松山支店　〒791-8005 愛媛県松山市東長戸４丁目４番30号　TEL089-926-1357　FAX089-926-1355
大阪支店　〒532-0011 大阪市淀川区西中島5丁目11番9号 新大阪中里ビル4階　TEL06-6838-6080　FAX06-6838-6081
高知営業所　〒781-0015 高知県高知市朝野西町１丁目34番20号　TEL088-846-7177　FAX088-846-7179









アスファルト防水の
近未来標準

[常温積層アスファルト防水工法]

プレストシステム

プレストシステムは、新開発の改質アスファルト"プレストコート"と改質アスファルトルーフィングのマッチングによる、常温で施工できるアスファルト積層防水工法です。安全でクリーン、そして信頼の革新的防水工法が誕生しました。

総合防水材料メーカー
日新工業株式会社
営業統括部 東京都足立区千住東2-23-4
TEL.03(3882)2571
URL http://www.nisshinkogyo.co.jp
札幌・仙台・東京・横浜・名古屋
大阪・広島・福岡

コストコンサルタント　建築積算・概算・ＶＥ　建築積算システム開発

株式会社 日積サーベイ
NISSEKI SURVEY

代表取締役　生島宣幸

〒540-0012
本　社／大阪市中央区谷町３丁目１番９号 ＭＧ大手前ビル
TEL 06-6944-2755　FAX 06-6944-2390
〒104-0033
東京支所／東京都中央区新川１丁目22番４号　新川ニッテイアネックス
TEL 03-6822-9244　FAX 03-3206-7112
http://www.nisseki-survey.co.jp

雷対策はおまかせ下さい
外部雷・内部雷 保護システムのOTOWAグループ NIP ニッピ

日本避雷針工業株式会社　http://www.kami-nari.com/

□本社／大阪営業所	〒564-0063	大阪府吹田市江坂町1-20-8	TEL(06)6337-3152	FAX(06)6337-3160
□札幌出張所	〒063-0803	北海道札幌市西区二十四軒三条2-5-26-103	TEL(011)643-5655	FAX(011)643-5677
□東京営業所	〒130-0011	東京都墨田区石原4-15-4 石崎ビル	TEL(03)5610-8366	FAX(03)5610-6350
□名古屋営業所	〒461-0044	愛知県名古屋市東区矢田東3-37	TEL(052)725-4900	FAX(052)725-6200
□岡山営業所	〒700-0976	岡山県岡山市北区辰巳41-103	TEL(086)805-1261	FAX(086)805-1250
□広島営業所	〒731-0113	広島県広島市安佐南区西原9-7-13	TEL(082)832-2801	FAX(082)850-3801
□福岡営業所	〒812-0014	福岡県福岡市博多区比恵町17-30	TEL(092)476-5651	FAX(092)476-5656

一液型水系弾性塗膜防水材
AMコート
since1986

日本防御化学株式会社

〒658-0047 神戸市東灘区御影 3-2-11
TEL078-911-9705
FAX078-911-9704
http://www.amcoat.com/



この活動が、未来の景観を創ります。
日本れんが協会では日本の主要国産・輸入メーカーが
一丸となりれんがの更なる普及を目指しています。

２００年住宅がつくる日本の未来

JBA
日本れんが協会

愛知県碧南市新川町3丁目85番地　全愛知県赤煉瓦工業協同組合内
Tel/Fax: (0566) 41-1276　E-mail info@japanbricks.jp
http://www.japanbricks.jp

HARD
BIG
DOOR



ハードグラス工業では、大型強化ガラスドア、
スイング式DH2700mmを3300mm、
スライド式DH3000mmを3500mm
までを製作範囲とさせていただきます。
●上記サイズを超える場合は。お問い合わせください。

スイング式 DH 3300mm　スライド式 DH 3500mm

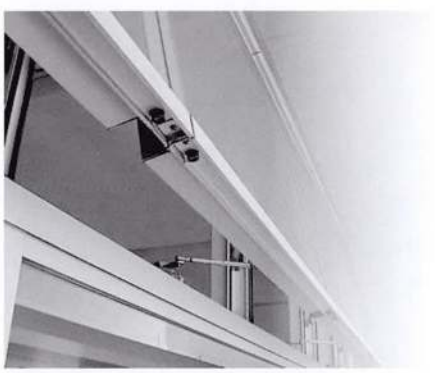
ハードグラス工業株式会社
URL http://www.hardglass.co.jp

本社 〒664-0831 伊丹市北伊丹7-79 Tel.072(784)3671 Fax.072(770)7400

JAB CM002
No.2002-ISO 9001
No.E1890-ISO 14001
ISO9001は、ハードグラス工業(株)の本社、営業所及び全工場で取得。
ISO14001は、ハードグラス工業(株)の本社及び本社工場で取得。

WINBREATH
自然風力換気窓 ウインブレス

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ



風の力で窓が開閉し、自然換気による快適な室内空間を生み出す、
自然風力を利用した通風換気型の空調システムです。

呼吸する窓

自然風力エネルギーを利用した
省エネ効果

自然換気によるリラックス効果と
快適な操作性

自由な室内納まりが得られる
シンプルな意匠性

不二サッシ株式会社
http://www.fujisash.co.jp/

東京支店　〒141-0032 東京都品川区大崎5-6-2（都五反田ビル）
TEL.03-5745-1250　FAX.03-5745-1260
大阪支店　〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-5-13（創建御堂筋ビル4F）
TEL.06-4706-4134　FAX.06-4706-4124

FUJITA
"高"環境づくり フジタ

http://www.fujita.co.jp　151-8570 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 Tel.(03)3402-1911

FUJIFILM

ガラス　壁面　床　施工場所に応じた素材と加工で

あらゆるスペースへのオリジナルグラフィック装飾をお手伝いします

富士フイルム イメージテック株式会社 西日本支社
〒550-0014　大阪市西区北堀江2-2-25 久我ビル南館8F　TEL 06(6535)4300
富士フイルム イメージテック株式会社 ホームページ http://fjit.fujifilm.co.jp/

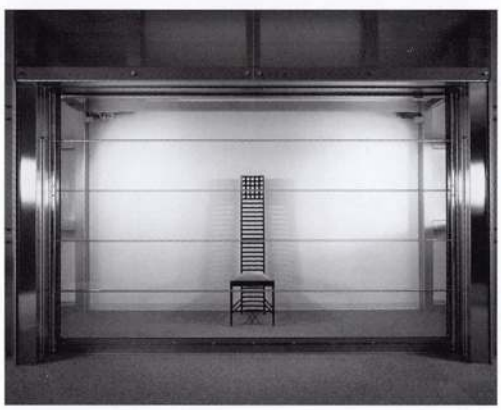
BX 文化シヤッター

見せながら仕切る、透かしの美しさ

全面ガラスシャッター フルグラス

パネルを1枚1枚分離して上部に送り込む
独自のバーチカルスライド方式の開閉収納方式により誕生。
「見せながら仕切る"透かし"の美しさ」という
伝統的な日本の「こころ」を持ちながら
卓越した独自性を有し、「新日本様式100選」に選定されました。

J 「新日本様式」100選



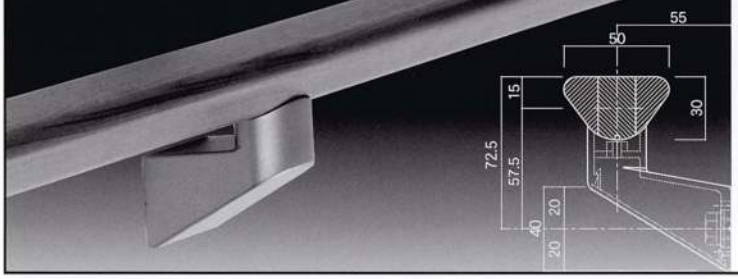
文化シヤッター株式会社 関西営業推進部　〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 8F TEL.06(6264)0618　E-mail kandeve@mail.bunka-s.co.jp　http: //www.bunka-s.co.jp

大型アルミキャスト建材　設計・製作・施行

hokua 北陸アルミニウム株式会社
HOKURIKU ALUMINIUM CO.,LTD.
シグマ事業本部

〒933-0393 富山県高岡市笹川2265
http://www.hokua.com/
TEL 0766-31-3720

BAUHAUS
アームレール(肘掛け手すり)



■特長――天然木のあたたかさに加え、2つの機能が支えます。



コーナーも優しく手に合った
三角形型でしっかり「握る」
ことができます。

握力が弱く手すりを握れない方には「支える」手すりが必要です。



マツ六株式会社 バウハウスグループ 商品企画部
http://www.mazroc.co.jp
〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
TEL 06-6774-2222　FAX 06-6774-2248



知を求める全ての人々に

丸善は大学・図書館・企業等、あらゆる分野の方々へ、学習情報と課題解決に向けたソリューションのご提供により、教育・研究を支援するベストパートナーを目指します。

書籍・学術資料の提供、大学キャンパス・学校施設・公共施設・図書館等各種施設のデザイン・設計・施工、図書館運営、アウトソーシング

Ⓜ MARUZEN　丸善株式会社　教育・学術事業本部

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-5-28
Tel：06-6251-2622　Fax：06-6251-2588
URL　http://www.maruzen.co.jp/top/

CALS PALM


神戸学院大学
ポートアイランドキャンパス
（神戸市中央区）


大阪弁護士会館
（大阪市北区）


沖縄科学技術大学院大学
（沖縄県国頭郡）

レンガ・タイルのご提案から施工までお客様をトータルサポートいたします。

八木惣株式会社
YAGISO CO.,LTD.

本　　社/〒593-8322 大阪府堺市西区津久野町3丁28番10号 TEL.072-262-3838 FAX.072-262-0203
東京事務所/〒144-0054 東京都大田区新蒲田1丁目6番6号 TEL.03-5714-1517 FAX.03-5714-1518
山口事務所/〒759-3622 山口県阿武郡阿武町大字奈古2856番地5 TEL.08388-2-0555 FAX.08388-2-0556

http://www.yagiso.com/

国土交通省　鉄骨製作工場　性能評価(H)資格認定工場

YAMASHIRO

山城鉄工株式会社

代表取締役　山城　寿

本　　社　京都府亀岡市余部町真瀬場59
TEL.0771-24-5359㈹　FAX.0771-25-7678
薙田野事業所　京都府亀岡市薙田野佐伯院ノ芝47
TEL.0771-22-2133㈹　FAX.0771-22-3426

YAMAHA SOUND SYSTEMS INC.　舞台音響設備

The frontier of the sound

ヤマハサウンドシステム株式会社　http://www.yamaha-ss.co.jp

大阪営業所	〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-7-18 まるみやビル	TEL (06) 6301-7263 FAX (06) 6301-7269
本　　社	〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 41-12 日本橋第二ビル	TEL (03) 5652-3600 FAX (03) 5652-3927
仙台営業所	〒984-0806 仙台市若林区舟丁 16 小林ビル	TEL (022) 796-0061 FAX (022) 212-2070
名古屋営業所	〒460-8588 名古屋市中区錦 1-18-28	TEL (052) 201-4922 FAX (052) 201-5650
福岡営業所	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 452-2811 FAX (092) 452-2796



大型構造物の溶融亜鉛めっきは当社へ

釜寸法 / 小山工場：12.5m×2.1m×3.2m　鶴見工場：6.5m×1.3m×1.9m・3.6m×1.3m×1.7m

YG JIS表示認証工場 横浜ガルバー株式会社

本　社
〒230-0011 神奈川県横浜市鶴見区上末吉2-16-5
TEL 045-575-2881㈹ FAX 045-572-4599
URL http://z-mekki.com/yokohama.html

鶴見工場
〒230-0011 神奈川県横浜市鶴見区上末吉2-16-5
TEL 045-571-4081㈹ FAX 045-573-9978
E-mail yg-turumi-eigyo@z-mekki.com

小山工場
〒323-0115 栃木県下野市下坪山1838-1
TEL 0285-48-1919㈹ FAX 0285-48-1910
E-mail yg-oyama-eigyo@z-mekki.com

グループ企業／田中亜鉛鍍金株式会社 <JIS表示認証工場>　秋田ガルバー株式会社 <JIS表示認証工場>

空気を洗う壁紙®
TF-V

www.runon.co.jp



全国各地で続々採用！ 好評発売中
次世代型高性能サイクル消臭ビニル壁紙

全国各地の介護・福祉施設、医療施設、
商業施設、ホテル、マンションなどで、
その圧倒的なサイクル消臭機能が、実証されています。

近畿圏営業部　大阪府大阪市茨田大宮 2-2-8　〒538-0031　☎06-6913-5353　FAX 06-6913-5331
本　　社　東京都品川区西五反田 2-30-4　〒141-0031　☎03-3492-7341　FAX 03-3493-5843

ルノン株式会社

planners・architects・engineers

NIKKEN SEKKEI

「建築と社会」誌

特集一覧●1987~2008

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1987 vol.68	● 入浴物語	● 腐食	● 創立70周年記念号	● 躍動する東海へ	● 貯蔵・保管施設 ● 大阪府立体育会館	● 室内の仕上床	● 駅	● 行政建築家の可能性	● シティホテルの設備	● 宝塚の街づくり＊	● 建物と町並みの接点 ● 昭和設計作品集	● 第34回青年技術者
1988 vol.69	● ホテル物語	● 軟弱地盤と基礎 ● 文化と伝統—東海からの報告	● 設備におけるLCCとリフレッシュ ● 東畑建築事務所作品集	● 建物の外装 リフレッシュ＊	● 都心居住	● 中国地方の展望とひろしまのまちなみ	● 21世紀への照明 ＊	● 制振＊	● 超高層住宅を考える	● 集合住宅のリフレッシュ＊ ● 大阪府営善	● 第35回青年技術者 ● 800号記念＊	● 讀賣テレビ
1989 vol.70	● 夢をのせる輸送設備	● リゾート事情 ● 竹中工務店 創立90周年記念	● 色の復権 ● 東海の新建築と伝統技術＊	● 省力化のための材料・工法	● まちづくりと法	● 博覧会とまちづくり	● 都市環境創造と設備I	● 建築とアート	● 構造の省力化 ● 鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	● 都市環境創造と設備II ● ユーザー参加のハウジング	● 第36回青年技術者	● 最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	● 商品化住宅のデザイン＊	● ニュータウン・ルネサンス	● 東海の都市景観 ● 住宮市文化会館＊	● スケール感	● プレハブ住宅技術の現在と未来	● 国際花と緑の博覧会	● 建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	● 高強度化—設計の多様化をめざして—＊	● やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	● 都市のナイス・プレイス ● 兵庫県営緒の歩み	● 第37回青年技術者 ● 和歌山県の展望と景観＊	● 高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	● 新しい都市空間づくり—I— ● オフィス・プレジャー ● 新しい都市空間づくり—II— ● 建築の風景	● 東海支部復活30周年記念	● 大阪東京海上ビルディング	● 今、京都 ● 建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	● 建築と土木 ● 毎日放送本社ビル ● 近畿地方建設局営繕部	● 一般号＊	● 建築をめぐるトラブルとその解決 ● 建設現場のイメージアップ作戦	● 空間のアイデンティティ ● きんでん写真集 ● 大建設計40周年	● 自治体住宅政策への提言 ● 大林組創業100年記念	● 建築と土木—構造技術の世界— ● 第38回青年技術者	● スリムでタフなコンクリート ● 21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	● 夢物語—人がかわる、まちがかわる—	● こだわりのインテリア ● 近畿の郵政建築15年の歩み	● 建築とデザイン—東海支部—	● 建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	● 地球環境時代の建築	● 街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	● 木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	● 接着—建築分野への限りなき可能性	● 中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	● 屋台一仮設の魅力に学ぶ—ハウジングのメインストリームを探る	● いま建築教育に何が期待されているか	● 京のかたちと色
1993 vol.74	● 第39回青年技術者 ● 東畑建築事務所創立60周年記念作品集	● 大阪府営緒	● 東海の美術館・博物館	● 市民劇場の舞台設備	● 環境—限りある自然と建築とのかかわり	● 都市のスカイライン	● 映画の中のインテリア ● けいはんなプラザ・住友ホール	● 建築の再生—構造技術の役割— ● 大阪市営緒	● 国際的パートナーシップの可能性	● 福祉のまちづくり	● 都市型住宅再考	● 第40回青年技術者 ● 環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	● コピー文化の新時代 ● 広島の街創りアジア競技大会	● 九州のインスタレーションと貌	● 伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	● 建築のエネルギーシステム	● 明日に向かって—会員作品 ＊	● いま、医療施設は	● 住空間における居どころへの視点	● まちなかの看板 ● 竹中工務店の集合住宅	● 水と建築 ● 日本建築総合試験所	● 建築設備のCGシミュレーション ● 村野、森建築事務所	● 構造美—建築の中の美 ● 集合住宅団地リニューアル	● 第41回青年技術者 ● 関西国際空港
1995 vol.76	● 光がつくる風合の世界＊	● 音—騒音から操音/創音へ	● 飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化 ＊	● トイレから見た都市文化	● トイレ空間	● 接合 ● コスモタワー	● ユニバーサルデザインとは	● 私の空間作法—会員作品	● 新しい「都市・建築」の視点＊	● 建築構造と社会の接点 ● 日建設計＊	● ライフラインと建築設備＊	● 第42回青年技術者 ● 滋賀県建築課
1996 vol.77	● 阪神大震災から学ぶ＊	● 大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	● 遠江—その地方振興と文化 ＊	● 立体駐車場設備 ● 大建設計	● 災害！非常時に生きる法体系 ● OAPタワーズ	● いま、プールがおもしろい	● 住まいの未来像	● マルチメディアがつくる世界	● キーコンセプトの新時代	● 最新の大規模スポーツ競技施設の設備	● 私の空間作法'96 ● 九州の元気 ● りんくうの3作品	● 第43回青年技術者 ● 近畿地建営繕部
1997 vol.78	● 建築のロングライフ化をめざして	● 鉄ものがたり＊	● 東海支部会員作品 ● 金沢・能登一風土・文化とまちなみ・建築＊	● 創立80周年記念/建築と私と社会—80人の眼—＊	● 木造建築物の伝統技術とその将来	● 住む空間の復興—法・制度の運用と新たな展開へ— ● 住都公団関西支社	● 素材の不思議 ● 大阪ドーム	● 新エネルギー ● 住宅・都市整備公団改革への提言	● クロスワード都市OSAKA＊	● モザイク都市のほむかたち ● 昭和設計40周年	● 私の空間作法—会員作品—	● 第44回青年技術者 ● 京都駅ビル
1998 vol.79	● 新しいまちづくりの予感 ● 東畑建築事務所創立65周年	● Concrete ● 九州とわたし、そして建築	● 東海支部会員作品 ● 信州—諏訪とその周辺—	● 街並みの演出—最近の外構材料	● 生活環境の安全・安心	● 地球環境保全と建築	● 心と体を元気にするインテリア	● 建築設備—ビルメンテナンスの立場から	● 建築への証言'98—21世紀に向けて	● ゆれをとめる—たえる技術からかわす技術へ	● 私の空間作法 ● 2001年の医療施設	● 第45回青年技術者 ● 駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	● “らしさ”のデザイン ● 建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	● 大阪市都市整備局	● 東海支部会員作品'99 ● 北信濃—街並み修景と地域文化の再構築	● 都市のパブリック	● 関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	● 大阪城天守閣平成の大改修	● 改正建築基準法—まちづくり・すまいづくりへの展開—	● 私の目でみた環境問題	● アーバンインテリア—都市空間としてのインテリア	● 木とともに	● 私の空間作法	● 第46回青年技術者
2000 vol.81	● 21世紀のデザインの動向を見る ● 安井建築設計事務所創業75周年	● 中国支部—しまなみ海道と中国地方の街づくり—	● 東海支部会員作品2000 ● 越中・富山—地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	● こころを癒す環境デザイン	● 測る—測定方法と測定結果が意味するもの—	● スケルトン&インフィル	● 改正建築基準法—パートII—	● 100年後へのメッセージ ● 日建設計創業100周年	● 来世紀に引き継ぐ—わざ、もの、こころ—	● 時間	● 私の空間作法—会員作品— ● 21世紀の高齢者の居住環境	● 第47回青年技術者
2001 vol.82	● エヌ・ティ・ティファシリティーズ	● 21世紀の建築設計教育	● 東海支部会員作品 ● 岐阜・大垣	● IT社会におけるきずな	● 自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	● 成熟社会をささえるまちづくり	● 現代の日本の空間・文化を探る	● 環境—近未来に向けて今できること— ● 大建設計—作品特集1996~2001—	● 建築の力都市の力	● 緊張 ● 都市基盤整備公団関西支社	● 私の空間作法—会員作品—	● 第48回青年技術者 ● NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	● 国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	● 再生・リサイクル	● 東海支部会員作品 ● 愛知・名古屋	● 生活環境の安全・安心—パート2—	● 塗装のいろいろ	● 都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	● いま、インテリアデザインは ● 淡町リバーブレイス	● 建築をささえるセンサー	● 建築とボランティア	● 時を超えて～サステナブルエンジニアリングの現在～	● 私の空間作法—会員作品—	● 第49回青年技術者 ● 大阪市中央公会堂
2003 vol.84	● 東畑建築事務所創立70周年	● 九州の地域づくり・まちづくり	● 東海支部会員作品2003 ● 愛知・名古屋—この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える—	● サスティナビリティ—次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン—	● 建築と五感	● 都市計画法及び建築基準法等の改正	● コンバージョン—インテリアから発信するまちなみ—	● 介護と建築・設備	● 建築とノスタルジー—建築の主観的価値について—	● 力と楽しくつき合う方法	● 私の空間作法—会員作品—	● 第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	● 大阪市住宅局	● 都市緑化	● 東海支部会員作品 ● 愛・地球博＊	● 省リスクな「まち再生」＊	● リニューアルの技	● 地域住民主体のまちづくりと支援制度	● Product Design＋1	● 銭湯～心地よさを求めて～	● 建築家とは何か	● 巨大地震にそなえて	● 私の空間作法—会員作品—	● 第51回青年技術者
2005 vol.86	● 震災から10年	● 「健やか」 ● 長崎医療センター	● 東海支部会員作品2005 ● 東海における施設づくりへの新たな試み	● 建築の経済化	● 住まい方の変化	● 人工栽培	● 次世代に伝える「木」の建築 ● 「建築と社会」1000号記念	● 改正建築基準法と景観緑三法	● 火災から守る	● 構造の過去から未来へ＊	● 私の空間作法—会員作品—	● 第52回青年技術者
2006 vol.87	● 都市環境デザインと参加のまちづくり	● 「地方空港の時代」～まちと共存する空港づくり～	● 東海支部会員作品2006＋東海支部特集3部作＊	● 都市再生の本質～光と影のはざまで～	● 変容する家族形態とあたらしいライフスタイル	● 身近な省エネルギー—エネルギーをたくわえ、有効利用する～	● 設計図が伝えるもの	● 建築物の安全・安心＊	● 第53回青年技術者	● 「セキュリティ」	● もしも…～構造が未来へつなぐ夢～	● 私の空間作法—会員作品—
2007 vol.88	● 光り輝く京都の景観まちづくり	● 学校新時代	● 東海支部会員作品2007＋東海支部特集3部作	● 創立90周年記念—この10年、これからの10年	● あそび考	● こだわりが創る住まいのカタチ	● 住まいの設備と空間の移り変わり	● 建築系雑誌が伝えるもの	● 建築基準法等大改正	● 第54回青年技術者	● ガラスを考える	● 楽しい構造の世界
2008 vol.89	● 私の空間作法—会員作品—	● PFI事業、その後	● 東海支部会員作品2008＋東海支部特集3部作	● まちづくり2011年宣言	● 新ホテル物語	● 設備に役立つ地震対策	● 中国地方を訪ね歩いて見えるもの ● 小林聖心女子学院	● 建築と景観	● 第55回青年技術者	● 木造住宅を巡って	● 建築において ROBOTが活躍する日は来るのか？	● 自然と戦う構造

＊は欠号

謹賀新年　寅　平成22年元旦

岡本慶一
日建設計
代表取締役社長
〒541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL(06)6203-2361

錢高一善
錢高組
社長
〒550-0005　大阪市西区西本町2－2－11
なにわ筋ツインズ　ウエスト
TEL(06)6538-7801

原眞一
コーナン建設 株式会社
代表取締役
〒531-0075　大阪市北区大淀南1－9－10　TEL(06)6456-4311

香西喜八郎
株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長
〒541-0044　大阪市中央区伏見町4－4－10　TEL(06)6202-0391

立成良三
財団法人 大阪住宅センター
理事長
住宅保険、評価、住宅情報相談、住宅展示場他
〒542-0081　大阪市中央区南船場4－4－3　心斎橋東急ビル4F
TEL(06)6253-0071　FAX(06)6253-0145

藤井實
エスケー化研 株式会社
代表取締役社長
〒567-0034　茨木市中穂積3－5－25　TEL(072)621-7720

近藤徹
不二熱学工業 株式会社
代表取締役
〒542-0081　大阪市中央区南船場2－1－1　TEL(06)6261-4321

立野純三
株式会社 ユニオン
代表取締役社長
〒550-0015　大阪市西区南堀江2－13－22　TEL(06)6532-3188

宮本博司
株式会社 宮本工務設計事務所　代表取締役
ISO9001認証取得（創立64年）
〒665-0022 宝塚市野上1－2－34（宮本ビル）
TEL(0797)71-0431(代表)　FAX(0797)71-5139(受専)
神戸支店　TEL＆FAX(078)997-0371
大阪支店　TEL＆FAX(072)725-3611

名誉会長
佐野正一
株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役
〒540-0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL(06)6943-1371代

長恵祥
株式会社　大林組　本店
代表取締役副社長　本店長
〒540-8584　大阪市中央区北浜東4－33　TEL(06)6946-4578

森悠
西日本建設業保証 株式会社
取締役社長
〒550-0012　大阪市西区立売堀2－1－2　TEL(06)6543-2553

佐野吉彦
株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長
〒540-0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL(06)6943-1371代

会長
中井進
日建設計
取締役副社長
〒541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL(06)6203-2361

林新一
社団法人 日本建築協会
常務理事兼事務局長
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31　TEL(06)6946-6981

編集委員長
設楽貞樹
株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役
〒540-0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL(06)6943-1371代

辻文三
財団法人 日本建築総合試験所
理事長
〒565-0873　吹田市藤白台5－8－1　TEL(06)6872-0391
http://www.gbrc.or.jp

菅谷節
ダイダン 株式会社
代表取締役会長兼社長
最高経営責任者
〒550-0002　大阪市西区江戸堀1－9－25　TEL(06)6441-8231

沼田亘
株式会社 昭和設計
代表取締役社長
〒552-0007　大阪市港区弁天1－2－1－800　TEL(06)6575-5555



謹賀新年　寅　平成22年元旦

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役会長　織田愈史
代表取締役社長　森口雅文

本社・名古屋事務所　〒460-0002 名古屋市中区丸の内1－15－15（桜通ビル）TEL（052）222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12（聖公会神田ビル）TEL（03）5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室　ISO9001

代表取締役　瀬戸本淳

〒650－0024 神戸市中央区海岸通1－1－1 神戸郵船ビル　TEL（078）333－0138
http://www.jsao.co.jp

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長　香西喜八郎

本社　〒541-0044　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL（06）6202-0391
大阪・東京・名古屋・九州・東北・上海
http://www.tohata.co.jp

日建設計

代表取締役社長　岡本慶一

東京　102-8117　東京都千代田区飯田橋2－18－3　TEL（03）5226-3030
大阪　541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL（06）6203-2361
名古屋　460-0008　名古屋市中区栄4－15－32　TEL（052）261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野吉彦

本社　〒540－0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL（06）6943－1371（代表）
支社　大阪・東京・名古屋・広島・九州　http://www.yasui-archi.co.jp/

100年をつくる会社

鹿島
KAJIMA CORPORATION

本　　社：東京都港区元赤坂1丁目3番1号
関西支店：大阪市中央区城見2丁目2番22号・マルイトOBPビル
電話06（6946）3311
http://www.kajima.co.jp/

子どもたちに誇れるしごとを。

清水建設株式会社

取締役社長　宮本　洋一　　取締役専務執行役員関西事業本部長　小橋　鴻三

本　　社　〒105-8007　東京都港区芝浦一丁目2番3号　シーバンスS館　Tel. 03 (5441) 1111
関西事業本部　〒541-8520　大阪市中央区本町三丁目5番7号　御堂筋本町ビル　Tel. 06 (6263) 2800

地図に残る仕事。

TAISEI

大成建設株式会社

社　　長　山内　隆司
専務関西支店長　久保　博司

http : // www. taisei. co. jp/

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中　統一

〒541-0053　大阪市中央区本町4－1－13　TEL（06）6252-1201（代表）

戸田建設株式会社

代表取締役社長　井上　舜三
常務執行役員大阪支店長　今井　雅則

本　　社　〒104-8388　東京都中央区京橋1－7－1　　TEL 東京03(3535)1354
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1－13－47　　TEL 大阪06(6531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州・国際

建材・報道・学校・団体有志等

INAX

For Precious Life

株式会社INAX関西統括支社

取締役常務執行役員支社長　加藤　和久

ECO FIRST　INAXの環境への取組が業界トップランナーとして環境大臣より認定されました。

〒550-0013　大阪市西区新町1-7-1　INAX大阪ビル
電話06-6539-3500（代表）
INAXホームページ・アドレス　http://www.inax.co.jp/

大阪工業技術専門学校
OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科·建築学科II部(夜間)·建築実務学科(午前)·建築設計学科·建築設備学科·大工技能学科·インテリア学科·建築士専科

〒530-0043　大阪市北区天満1丁目8番24号　0120-0910-19　http://www.oct.ac.jp/　Tel. 06-6352-0091

創業55周年

日報

建設業界でもっとも信頼　読まれている日刊情報紙

株式会社　建設日報社

社主　重村　一

〒550-0006 大阪市西区江之子島1－6－2　TEL(06)6444－2405

NKK

社団法人　日本建築材料協会

会長　藤井　實

〒550-0003　大阪市西区京町堀1－3－13　辰巳ビル9階　TEL(06)6443-0345　FAX(06)6443-0348
http://www.kenzai.or.jp/

社団法人　日本建築協会京都支部

支部長　上林　研二

〒604-0944　京都市中京区押小路通柳馬場東入　京都建設会館別館　TEL(075)211-2857

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　森畑　武

〒732-0048 広島市東区山根町28番22号 下岸建設株式会社内　TEL(082)264-0709

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　佐伯　博

〒460-0008 名古屋市中区栄4－3－26（昭和ビル5階） TEL(052)261-1451

社団法人 日本建築協会

会長　中井　進

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31　TEL(06)6946-6981



空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

www.naniwa.com
We have hope

■印刷事業　ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業　SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作

株式会社NPCコーポレーション

本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代) fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代) fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1 一光浜松町ビル7F
tel:(03)3433-5211(代) fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円



A4判・240頁・並製本

1999年7月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人　日本建築協会
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981　FAX 06-6946-6984

頒　　価　1部3,000円(税・送料込み)

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール(片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壮一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝)

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」(坂本勝比古)より



「草創期の人々」より片岡安の項

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年３月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈳日本建築協会事務局（TEL06―6946―6981、FAX06―6946―6984）まで。

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会 1988年

Ａ４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集 1992年

Ａ４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格2,000円

昭和生まれ　関西の建築家50 1987年

Ａ４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念講演記録集

講演記録集 **話のはなし** 1997年

Ｂ６判５分冊　企画：日本建築協会建築クラブ　販売価格2,500円（税・送料込み）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款（平成21年６月改訂）

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第13条および省令第4条に基づく書面

販売単位：２部１単位とする

価　　格：１単位700円（税込）送料は実費

日本建築協会事務局（06-6946-6981）で販売

平成20年３月30日刊行

建築主が納得する住まいづくり
―Q&Aでわかる技術的ポイント―

現場マン必読!!　顧客満足度UP！　クレームゼロの方法とは？

著者　玉水　新吾

四六判　224ページ

定価　1,900円＋税

最新刊 平成21年3月10日発行

写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント

管理の良い現場、悪い現場が一目瞭然！

現場のブロークンウィンドウズを見逃すな

著者　玉水　新吾

四六判　224ページ

定価　1,900円＋税

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇・四六判２色刷イラスト入

〈プロのノウハウ〉シリーズ

企画：日本建築協会　発行：学芸出版社　本体価格￥1,600～￥2,700

- 衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
- 建築と音のトラブル　中川清ほか
- 木造住宅監理の話　山田　修
- 第二版 環境と共生する建築25のキーワード　大西正宜
- 木造住宅のしくみ　在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
- インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
- 木づくりの常識非常識　上村　武
- 建築トラブルにみる常識非常識　荒川治徳
- 第三版　都市計画法を読みこなすコツ　高木任之
- 建築主が納得する住まいづくり　玉水新吾
- 建築の現場管理システム　伊東貞夫
- 新版コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
- 建築基準法の性能規定を読みこなすコツ　高木任之
- 建築工事の祭式　「建築工事の祭式」編集委員会
- 飛躍する構造デザイン　渡辺邦夫
- 改訂版　建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
- プロが教えるキッチン設計のコツ　井上まるみ
- 現場で学ぶ　住まいの雨仕舞い　玉水新吾
- 住宅エクステリアの100ポイント　藤山　宏
- 第三版　建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
- 写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント　玉水新吾

日本建築協会創立70周年記念事業・B5判

選書特装版

企画・日本建築協会　発行・学芸出版社　本体価格￥3,000～￥4,000

- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会
- 建物の汚れ－トラブル事例と解決策　「建物の汚れ」編集委員会
- 建築デザインのための構造計画　須賀好富
- 入門・建築積算　生島道春
- 建物の結露－トラブル事例と解決策　「建物の結露」編集委員会

Design Your Energy 夢ある明日を
大阪ガス
KeepBlue

大阪ガスのソリューション

省エネのお悩みは大阪ガスにご相談ください

厨房内の空調費を削減したい。
→ 涼厨のご採用により厨房内の空調費を15～30%削減

ビル全体の空調費・CO_2排出を削減したい。
→ ガスヒーポンと自然換気の併用で空調費を約12%削減

ビル全体の空調費・CO_2排出を削減したい。
→ 吸収式グリーン機は従来機より約15%燃料消費を削減

ビル全体の空調費・CO_2排出を削減したい。
→ 最新ガスヒーポンは中間ＣＯＰ向上で燃料消費を約15%低減

契約電力を低減したい。
→ 発電機能付きガスヒーポンは一台で約2kW契約電力を低減

冷温水搬送動力を低減したい。
→ 配管摩擦低減剤「エコミセル」で搬送動力を10～30%低減

手軽に遠隔監視をしたい。
→ 「エネフレックス」、「もっとSAVE」により簡易に計測

［連絡先］
大阪ガス株式会社　エネルギー事業部　エネルギー開発部

TEL.06-6205-4670

雑誌　03379-1